

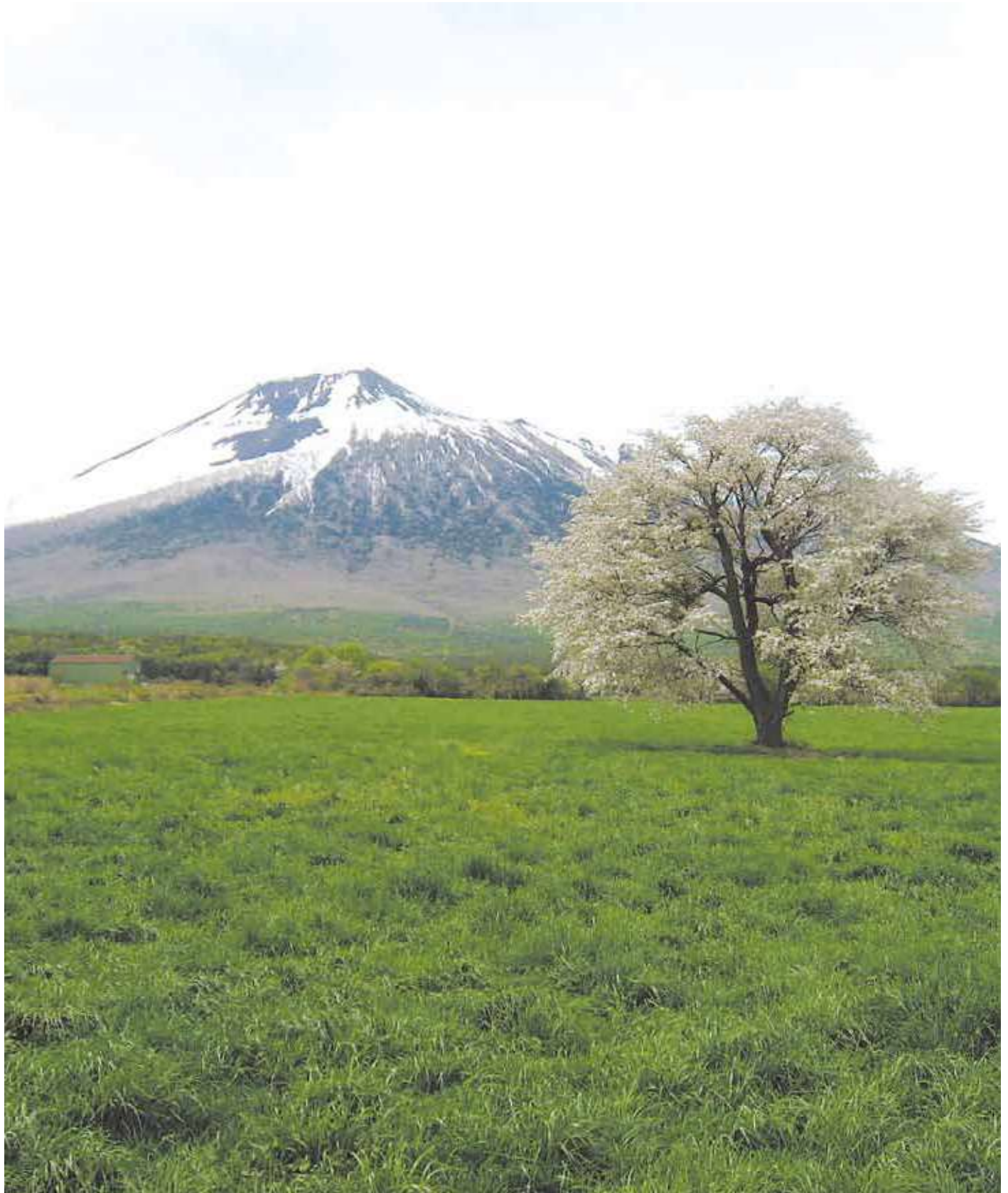
2008 平成20年

# 教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine Department  
of Surgery:Fellow Society Journal

巖刀会(外科学講座同門会)



<http://surgery.iwate-med.ac.jp/index.html> 患者様への説明等にも是非ご活用下さい。



学年	担当医師	担当領域	担当領域	担当領域
1年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
2年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
3年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
4年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
5年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
6年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
7年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
8年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
9年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
10年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
11年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
12年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
13年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
14年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
15年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
16年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
17年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
18年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
19年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
20年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
21年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
22年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
23年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
24年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
25年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
26年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
27年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
28年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
29年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科
30年	佐藤 隆太郎	消化器科	呼吸器科	泌尿器科

## 外科学講座の沿革

前身である第1外科の歴史は古く岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第2外科の開講に伴い外科学第1講座となった後も、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授の森 昌浩が教授に赴任した。各疾患別グループ制を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。昭和61年森が東北大学第2外科教授へ転任し、昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術等の外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師の若林 剛が教授に就任、患者様を中心として最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として、内視鏡外科の指導的施設としての発展と北東北での肝移植の実現に着手した。平成18年7月には小児外科を合併し、外科学講座と名称を変える事となった。平成19年1月には第1例目の生体肝移植を成功させ、平成20年3月までに6例を成功裡に終わらせており、確実に目標は達成されつつある。

## 外科学講座の 広報活動

当科では我々の最新医療の実践を一般の方、あるいは研修医をはじめとする医療関係者にも理解していただくため、ホームページの充実を図っております。平成18年9月の開設より15,000回以上のアクセスしていただき、患者様の中からも「ホームページをみて新しい医療を受けたいと思いつ診した」という声が聞かれるようになりました。先進医療の内容をトピックスとしてアピールすると共に個々の医師のプロフィールを公開して「主治医の顔と人となりの見える」良好な関係の形成への手助けとなると考えております。また市民公開講座等の市民への働きかけや、研修医の先生方へ当科での研究体制や新しいプロジェクトの概要をお示しすることにより当科のアクティビティを公開し、キャリアパスの提示や理想的な医療体制の形成への働きかけを当科から発信できればと願っております。

# C O N T E N T S

## 巻頭言

飛躍の年を振り返って …………… 外科学講座教授 若林 剛  
腫瘍センター設立にあたって …………… 外科学講座准教授 腫瘍センター長 池田 健一郎  
教室の今年1年を振り返って …………… 外科学講座准教授 医局長 佐々木 章

## 0 0 5 外科学講座スタッフ紹介

## 0 0 7 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・内視鏡外科グループ・下部消化管グループ・肝胆膵グループ・内分泌グループ《乳腺》・内分泌グループ《甲状腺・副甲状腺（上皮小体）》・小児外科グループ・高度救命救急センター・鼠経ヘルニアグループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

## 0 2 3 平成19年診療状況

入院患者分類／関連病院手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

## 0 2 5 新教室員紹介

外科学講座に入局して …………… 石田 和茂／外科学講座に入局して …………… 野田 宏伸  
外科学講座に入局して …………… 馬場 誠朗／岩手医科大学外科に帰還して …………… 西塚 哲  
新教室員として …………… 高原 武志

## 0 2 9 受賞

瑞宝章受賞 …………… 村井 英夫／地域医療修練施設としての経験 …………… 渡邊 正敏  
地域医療実習を受け入れて …………… 菊池 信太郎／地域医療修練施設に認定されて …………… 大森 浩明  
「地域医療修練施設証」をいただいて …………… 細井 典行・細井 昭彦  
地域貢献優秀賞受賞（JGN II シンポジウム2007in広島） …………… 佐々木 章  
高速ネットワークを利用した遠隔医療カンファレンスについての発表報告 …………… 大淵 徹

## 0 3 3 寄稿

第1外科時代の歴史 …………… 八重樫 雄一／第2回みちのくウインターセミナーに参加して …………… 阿部 正  
医学部5学年に対する新たな教育法の試み …………… 佐々木 章  
肝移植の立ち上げから現状まで …………… 高原 武志

## 0 3 7 平成19年アルバム紹介

## 0 4 1 関連病院だより

岩手県立久慈病院・岩手県立軽米病院・岩手県立沼宮内病院・岩手県立釜石病院・岩手県立千厩病院・岩手県立大船渡病院・岩手県立二戸病院・盛岡市立病院・盛岡友愛病院・盛岡赤十字病院・函館五稜郭病院・北上済生会病院・岩手県済生会岩泉病院・岩手県立江刺病院・岩手県立大槌病院・鹿角組合総合病院・山本組合総合病院・八戸赤十字病院・岩手県立宮古病院

## 0 5 5 外科紹介医療機関

## 0 5 9 研修業績

## 0 7 3 協賛広告

# 巻頭言

岩手医科大学医学部外科学講座  
教授

若林 剛

*Go Wakabayashi*

## 飛躍の年を振り返って

2007年は教室にとって、大いなる飛躍の年となりました。

春の人事で、小児外科チーフの水野 大講師と内視鏡外科チーフの佐々木 章講師がそれぞれ准教授に昇進し、下部消化管チーフの大塚幸喜先生と肝胆膵チーフの新田裕幸先生がそれぞれ講師に昇進しました。役職が人をつくると言いますが、新しく昇進した4人の先生には大いに張り切って各グループを引っ張っていったと期待しております。また、米国がん研究所のトランスレーショナル研究部長の西塚 哲先生と慶應義塾大学外科の肝胆膵・移植班で私と一緒に仕事をしていた高原武志先生が、教室に加わりました。2人の加入は、教室員にとって異文化との遭遇でしょうし、大きな刺激となっていることでしょう。2人には若い教室員に対して、積極的に研究の指導と臨床の指導を行ってほしいと思います。

また、腫瘍センター長に池田健一郎准教授が専任されました。がん対策基本法の施行により、2007年は「がん対策元年」と言われております。都道府県がん診療連携拠点病院に岩手医大附属病院が指定を受けるための要件として、昨年早い時期に「腫瘍センター」の設置が必要でした。すでに地域がん診療連携拠点病院に指定されている岩手県立中央病院と岩手医大附属病院が2006年11月に都道府県がん診療連携拠点病院に申請しておりましたが、両者とも指定を受けることができませんでした。2007年を迎え、改めて教授会や臨床部長会議で腫瘍センターのあり方に対する白熱した議論が行われた結果、私どもが推し進めた「外来化学療法室の規模を拡充したバーチャルな腫瘍センター」が認められ、外来化学療法室長の池田健一郎准教授が腫瘍センター長に専任された訳です。やや付け焼き刃的な腫瘍センターの設置でしたが、おかげさまで岩手医大附属病院は岩手県の5つの地域がん診療連携拠点病院を統括する岩手県がん診療連携拠点病院に指定されました。私も岩手県がん対策推進協議会委員ですので、池田腫瘍センター長とともに岩手県のがん対策を推進していきたいと思っています。また、腫瘍センターは北東北4大学で獲得した「がんプロフェッショナル養成プラン」の研修場所でもありますので、今後はバーチャルな腫瘍センターからの脱却を目指して、ハードの充実を目標にしていきたいと思っています。

2007年は教室から申請した先進医療が2つ認められました。甲状腺内視鏡手術と腹腔鏡下肝切除術です。いずれの手術も、教室が力を入れているもので、手術費用分は自費払いという条件でも患者さんは多数集まっています。特に腹腔鏡下肝切除は、東京や横浜、そして千葉や埼玉からの患者さんもここ盛岡まで手術を受けに来てくださっています。より低侵襲な治療を求める患者さんのニーズに応じて、私どもの先進医療を認知してくださっている医師の皆様からのご紹介が多いことに、この場を借りて心より感謝申し上げます。2007年の手術件数も前年よりさらに増加し、全身麻酔手術総数1100件となりそのうち3割が内視鏡手術でした。肝切除だけに限ってみると、2007年の肝切除総数は60例で、そのうち25例（42%）が腹腔鏡（補助）下肝切除でした。また、これらの手術の見学に全国から多数の外科医がいらしていただき、少しずつですが普及の兆しが見えてきて

いると思います。近い将来、必ずや保険収載されるものと確信しております。

さて、昨年のトップニュースは生体肝移植の順調な開始でしょう。2007年1月15日に「岩手県初の生体肝移植成功」というニュースが、岩手県のメディアに大きく取り上げられました。その後、小児肝移植成功や腹腔鏡によるドナー手術成功など、1年を通じて岩手県のメディアに取り上げられました。結果として2007年は5例の生体肝移植を行うこ



とができ、2008年1月までに「6例全例成功！」というニュースが新聞で報道されました。振り返ってみますと、当院の第一内科が歴史的に肝不全を診療の中心に行っており、潜在的な肝不全患者が多数いたことと、なによりも病院を挙げての協力体制が出来上がったことがこれらの順調な滑り出しの原因とされます。生体肝移植は病院の総合力を上げると信じて、一年前から着実な準備を行った成果と考えており、各部署のご協力で厚く御礼申し上げます。ある患者さんに「岩手で肝移植ができるようにならなければ、自分は肝移植を考えもしなかった」というお言葉をいただき、岩手県で生体肝移植を始めることができ本当に良かったと感じております。ただ、生体肝移植は本来の姿ではないという思いが私にはあります。健康なドナーにメスを入れることは、低侵襲治療を実践してきた私にとって大きな苦痛であり非常に抵抗があります。この私の思いは腹腔鏡補助下ドナー手術の実施につながり、これまでのところとても良好なドナー手術成績を収めております。ただ、生体肝移植を岩手県に導入した者の責務として、脳死臓器提供を促すドナーアクションを開始すべきであると考えます。2008年は、関連各科と協力して積極的なドナーアクションプログラムを立案したいと思います。

私にとって今年の冬は、盛岡に来て3度目の冬です。なぜか、今までで一番寒く感じました。もちろん、実際に今年の冬が寒かったのかもしれませんが、東北大学病院長の里見 進教授が「自分も3年目の冬が一番寒く感じたけど、それはきっと先生が盛岡に慣れたせいだよ」とお話しくださり、赴任以来、脇目もふらず突っ走ってきた自分が、「やっと地に足がついたのかな」と思えるようになったのかも感じています。私のadventureは、まだ始まったばかりです。毎年、教員がつくるこの教室年報の巻頭言を書くのが楽しみです。患者中心の外科医療、若手外科医の育成、教室の発展を教室の使命として、attractive, productive, supportiveな教室をつくるため、日々精進していく所存です。皆様には、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



岩手医科大学外科学講座准教授  
腫瘍センター長

池田 健一郎

*Kenichiro Ikeda*

## 腫瘍センター設立にあたって

平成19年8月から岩手医科大学付属病院に腫瘍センターが開設され、若林教授のご尽力によりセンター長を拝命しました。腫瘍センター設立の背景には、「がん医療」を取り巻く社会情勢の変化が関係しています。厚労省は1984年以降、「対がん10ヵ年総合戦略」などのがん対策を公表・実施してきましたが、平成19年4月1日より「がん対策基本法」が施行され、従来のがん対策が法的拘束力を持つに至りました。これはがん医療が政策医療として推進されることを意味しています。

政策医療としてのがん対策では「がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備」が大きな柱の一つで、がん医療の「均てん化」が最も重要なキーワードです。居住地にかかわらず、がんの初期段階から看取りに至るまで、標準治療を提供することです。そこで、新たながん医療ネットワークとして各都道府県に概ね1カ所の「都道府県がん診療連携拠点病院」を、2次医療圏に概ね1カ所の「地域がん診療連携拠点病院」を整備することが義務付けられました。そして平成20年2月8日付けで、当院が岩手県がん診療連携拠点病院の指定を受けました。その他県内の地域拠点病院として県立の中央病院、二戸病院、宮古病院、北上病院、磐井病院が指定されました。つまり当院が、岩手県のがん診療のリーダーとして、地域拠点病院を含めた基幹病院に対して、診療応援・相談・連携、人材育成・派遣、研修など様々な責務を果たすことが必要になりました。これらは今まで決して疎かにしてきたわけではありませんが、今後は当院が一丸となって各病院と緊密な連携をとりつつ、計画性を持って推し進めていかなくてはなりません。特に、外来化学療法・緩和医療・がん登録の推進や診療連携、患者相談、情報発信などは当院が立ち後

れていた分野で  
あると言わざる  
を得ません。そ  
こで、これらの  
業務を実際に遂  
行していく組織  
が必要になりま  
す。それが腫瘍  
センターです。  
腫瘍センターは  
中央診療部門



内に位置し、外来化学療法室、緩和ケアチーム室、がん登録室、がん診療連携室、がん患者支援情報室、化学療法専門病室（仮称）の大きく6部門からなる組織です。各室長には院内各診療科の医師が配置され、外来化学療法室は柏葉匡寛講師が、緩和ケアチーム室は木村祐助教が室長代行を務めております。化学療法専門病室（仮称）以外は既に稼働を開始し、粛々と業務をこなしております。詳細は大学ホームページ (<http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/index.html>) をご覧ください。春先には腫瘍センター本体部分と化学療法専門病室が整備される予定です。

腫瘍センターはまだ稼働し始めたばかりです。ハード、ソフトの両面で未だ多くの整備が必要です。腫瘍センター活動のレベル向上が、岩手県のがん医療の向上に直接結びつくものと確信しております。そのため我々一同努力する所存ですが、がん医療に係わる全ての方々の協力なくしてはその目的は果たせません。皆々様の御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



岩手医科大学外科学講座准教授  
医局長

佐々木 章

*Akira Sasaki*

## 教室の今年1年を振り返って

若林 剛教授が外科学講座を主宰し2年が過ぎましたが、平成19年は、教室にとって歴史に残る飛躍の1年となりました。

平成19年の月間の平均外来患者数は1,500名を超え、81床のベッドは常時満床でありました。手術件数は医師の技術だけではなく、病院としての安全な患者管理システムと密接に関連していますが、診療実績では、肝胆膵、大腸、乳腺の悪性疾患に対する手術数は年間100件を超え、小児外科を含めた総手術数は1,000件以上と増加いたしました。1月には、岩手県第1例目の生体肝移植を実施、7月には小児肝移植にも成功し、平成19年の肝移植は5例となりました。各疾患に対する手術方法は、可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択し、その割合は平成19年には全手術の34%に達しております。内視鏡外科手術の評価は国内外でも高く、1月には腹腔鏡下肝切除術と内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術が先進医療に承認されました。本年は、がん治療に対しても変革が求められた年でもありました。8月には教室の池田健一郎准教授が腫瘍センター長に任命され、外来化学療法の実践やクリニカルパスを使用した質の高いがん診療を実践するチーム医療体制が整えられました。また、同門会の新たな名称が私の応募した“巖刀会”に制定されましたことは感無量であります。この名称は、岩手山の通称である巖鷲山からを連想されると思



いますが、今後の医療の中心はがん治療と考え“がん刀会”、“がん闘会”の思いも含めた名称でもありますことをご理解下さい。



教育では、教室並びに岩手県

外科医療レベルの向上、施設間における治療較差の是正を目指し、“いわて医療情報ネットワーク”を利用したいわて遠隔外科医療カンファランスを月1回実施してまいりました。また、最先端の医療技術の習得、若手外科医の国際発表の練習を目標として、高速インターネットを利用した国外施設とのテレカンファランスも実施し、効果を上げていると思います。

若林外科は、消化器・一般外科、内分泌外科、小児外科と広い領域を統括する国内でも有数な教室となりました。建学の精神である「誠の人間の育成」を受け継ぎ、教室員一同が結束した患者中心の医療、高度臨床技術の国内外への発信を目指していきたいと考えております。



外科学講座スタッフ紹介 《平成20年4月1日現在》



外科学講座教授

若林 剛



高度救命救急センター講師

佐藤 信博  
[昭和59年卒]



准教授

池田 健一郎  
[昭和60年卒]



准教授

水野 大  
[昭和62年卒]



准教授

佐々木 章  
[昭和63年卒]



講師

肥田 圭介  
[平成元年卒]



講師

川村 英伸  
[平成元年卒]



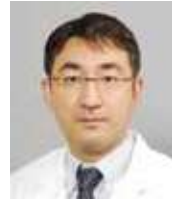
講師

柏葉 匡寛  
[平成3年卒]



助教

小笠原 聡  
[平成3年卒]



講師

大塚 幸喜  
[平成5年卒]



講師

新田 浩幸  
[平成5年卒]



助教

木村 祐輔  
[平成6年卒]



助教

西塚 哲  
[平成6年卒]



高度救命救急センター助教

青木 毅一  
[平成6年卒]



助教

岩谷 岳  
[平成7年卒]



助教

中嶋 潤  
[平成9年卒]



助教

稲葉 亨  
[平成9年卒]



助教

藤原 久貴  
[平成10年卒]



助教

飯島 信  
[平成10年卒]



助教

高橋 正浩  
[平成11年卒]



助教

秋山 有史  
[平成11年卒]



助教

川崎 雄一郎  
[平成11年卒]



助教

高原 武志  
[平成12年卒]



助教

板橋 哲也  
[平成12年卒]



助教

伊藤 直子  
[平成12年卒]



助教

藤澤 健太郎  
[平成12年卒]



助教

高橋 正統  
[平成12年卒]



助教

野田 芳範  
[平成12年卒]



助教

富澤 勇貴  
[平成12年卒]



助教

星川 浩一  
[平成12年卒]



助教

武田 雄一郎  
[平成12年卒]



高度救命救急センター  
1 助教

小鹿 雅博  
[平成12年卒]



助教

福澤 太一  
[平成12年卒]



助教

鴻巣 正史  
[平成13年卒]



塩井 義裕  
[平成13年卒]



助教

大淵 徹  
[平成14年卒]



助教

藤田 倫寛  
[平成14年卒]



助教

木村 聡元  
[平成14年卒]



千葉 丈広  
[平成15年卒]



御供 真吾  
[平成15年卒]



板橋 英教  
[平成15年卒]



箱崎 将規  
[平成15年卒]



馬場 誠朗  
[平成16年卒]



加藤 久仁之  
[平成16年卒]



小松 英明  
[平成16年卒]



菅野 将史  
[平成16年卒]



野田 宏伸  
[平成16年卒]



石田 和茂  
[平成17年卒]



松尾 鉄平  
[平成17年卒]



有末 篤弘  
[平成18年卒]



非常勤講師

杉立 彰夫



教授秘書

小笠原 絵理



医局秘書

大上 真紀子



医局秘書

佐々木 美穂



医局秘書

谷藤 稚奈

専門外来

火曜  
8時30分-13時

## 上部消化管グループ《食道》

STAFF：池田健一郎・木村祐輔・岩谷 岳



食道癌を中心に治療にあたっています。毎週火曜日の「食道外来」では、主に術後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。術後の定期的なフォローアップとともに、外来化学療法室と連携し外来通院での化学療法を行っています。入院治療では、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌までを、第一内科や放射線科と共同して治療にあっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた集学的治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ(JCOG)の食道がんグループのメンバーであり、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発・実践を行っています。食道癌の患者様がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

平成19年の  
ニュース

- 10月 ▶ 池田健一郎先生、腫瘍センター長就任。
- 12月 ▶ 年間食道癌手術例 30例に達する。

### 平成19年 診療・研究状況報告

- 入院数：60例
- 手術数：30例(胸腔鏡下手術：7例)
- 過去3年間の食道癌手術数  
平成17年(切除数：27例、腹腔鏡下手術数：4例)  
平成18年(切除数：28例、腹腔鏡下手術数：9例)  
平成19年(切除数：28例、腹腔鏡下手術数：7例)
- 平成19年研究報告
  - ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
  - ・JCOG0303「局所進行食道癌に対するLow Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とStandard Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とのランダム化第II/III相試験」症例登録中。
  - ・JCOG0502「臨床病期I (Clinical-T1N0M0) 食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法

(CDDP+5-FU)のランダム化比較試験」症例登録中。

- ・TRICE06「食道癌生検標本の遺伝子プロファイル解析による化学放射線療法感受性予測に関する探求的研究」症例登録中。
- ・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C。
- ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」。
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」。
- ・「CDDPを用いた術前化学療法を施行した食道癌患者における、イオンビーム励起エックス線分光分析によるシスプラチン体内動態の検討」。
- ・「食道扁平上皮癌の発生・進展に関与するフォスファターゼの変異・機能解析」。

#### ● 今後の研究課題

- ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
- ・進行癌にたいする胸腔鏡下食道切除術の適応の拡大等。

専門外来

木曜

8時30分-16時

## 上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・藤原久貴・高橋正統



胃癌を中心とする胃疾患の治療に当たっています。外来は週一回毎週木曜日に肥田、高橋の二診で行い、術後のフォローアップに加え化学療法も化学療法室の協力の下随時施行しています。症例数の増加に伴い定期検査以外のフォローは紹介先を含めた連携先をお願いしており、同門の先生方にも大変お世話になっております。入院は食道グループと協力し上部消化管グループとして診療に当たっています。医局全体の症例数の増加に伴いパスの積極的な運用等ますますの効率化が必要とされており、合併症の少ない安定した手術を目指しています。臨床面では手術数の増加等年々充実してきていますが、研究面はまだままだであり、今年の重要課題として取り組んでいきたいと思っております。

平成19年の  
ニュース

- 4月 ▶高橋正統先生、帰局。
- 7月 ▶藤原久貴先生、国立がんセンターへ3ヶ月間の臨床研修。
- 10月 ▶藤原久貴先生、八戸赤十字病院へ長期出張。
- 12月 ▶胃癌手術例 100例、腹腔鏡下手術 30例を達成。

### 平成19年 診療・研究状況報告

●手術数：110例

●2007年 胃癌症例

《内訳》

胃癌(開腹切除：61例、腹腔鏡補助下切除：33例、その他[非切除バイパス、GIST等]：16例)

●過去3年間の胃癌手術数

平成17年(切除数：67例、腹腔鏡下手術数：8例)

平成18年(切除数：78例、腹腔鏡下手術数：10例)

平成19年(切除数：94例、腹腔鏡下手術数：33例)

●平成19年研究報告

- ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
- ・JACCRO GC-03「進行・再発胃癌患者を対象としたタキソテール注/ティーエスワンカプセル併用療法とティーエスワンカプセル単独療法の第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JACCRO GC-04「胃癌術後補助化学療法(S-1)における

抗癌剤感受性試験の検証」症例登録中。

- ・UHA GC 04-02「局所進行胃癌に対する術前CPT-11+TS-1併用化学療法の第Ⅱ相臨床試験」症例登録中。
- ・JFMC36-0701「進行・再発胃癌に対するTS-1単独療法/TS-1+レンチナン併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・ENCITJ GC01「切除不能進行胃癌および切除不能再発胃癌に対するTS-1療法とTS-1+PSK療法の多施設共同無作為化第Ⅱ相比較臨床試験」症例登録中。
- ・JCOG胃癌外科グループ臨床試験は現在in-activeのため症例追跡のみ続行中。

●今後の研究課題

- ・胃癌幽門側胃切除術後栄養補助療法の検討
- ・進行胃癌術前化学療法(TS-1/CDDP)療法後切除検体を用いた薬物動態の解析
- ・腹腔鏡補助下胃癌手術の定型化および短期/長期手術成績 など

専門外来

水曜  
8時30分-12時

土曜  
第1・3週、9時-11時

## 内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・中嶋 潤・大淵 徹・馬場誠朗



大学病院で求められる内視鏡外科手術とは？

私的には、他施設では出来ない難度の高い内視鏡外科手術を安全に実施すること、手術成績に差が出る内視鏡外科手術と考えております。各グループで全国的にもレベルが高い内視鏡外科手術が実施されておりますが、当グループの目標は、更なる低侵襲外科治療の開発と国内外への発信と考えております。偉大な外科医は大切開での安全な手術を推奨してきましたが、我々の信念は“Less is More”であります。

平成19年の  
ニュース

- 1月 ▶内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術が先進医療に承認。  
▶「超高速インターネットを利用した次世代国際共同研究」がJGN II シンポジウムで地域貢献優秀賞を受賞。
- 4月 ▶佐々木 章准教授昇任とラパロ温泉ツアー。
- 6月 ▶LAP-BAND Workshopで岩手医大での肥満外科治療が承認。
- 8月 ▶グループ4人でInternational Surgical Week (Montreal)に参加。
- 11月 ▶日本内視鏡外科学会でベストサービス賞を受賞。  
▶「高速ネットワークを利用した遠隔医療カンファレンス」(大淵 徹)が日本臨床外科学会特別企画に取り上げられる。
- 12月 ▶外科大忘年会で中嶋 潤企画余興が3連覇を達成。



▼第20回日本内視鏡外科学会でベストサービス賞受賞



遠隔医療(手術室)における医療支援への取り組み。一室のみで院内稼働する術者支援を目的とした、遠隔の医師と患者がリアルタイムにコミュニケーション可能な遠隔医療システム。

### 平成19年 診療・研究状況報告

▶胆嚢疾患：腹腔鏡下胆嚢摘出術51例／▶総胆管結石症：腹腔鏡下総胆管結石摘出術(C-tube留置)1例／▶脾臓疾患：腹腔鏡下脾臓摘出術7例／▶甲状腺腫：内視鏡下甲状腺切除術4例／▶パセドウ病：内視鏡下甲状腺全摘術3例／▶食道アカラシア：腹腔鏡下Heller-Dor手術3例／▶逆流性食道炎：腹腔鏡下Nissen手術1例／▶食道粘膜下腫瘍(平滑筋腫)：腹腔鏡下経食道裂孔の腫瘍核出術1例／▶直腸脱：腹腔鏡下Well's変法直腸固定術1例／▶腭仮性嚢胞：腹腔鏡下腭仮性嚢胞胃吻合術1例／▶鼠径ヘルニア：TAPP1例／▶副腎癌：開腹副腎摘出術1例

#### ●平成19年の研究報告

- ・「内視鏡下甲状腺切除術の長期成績と患者QOL評価」：in press
- ・「腹腔鏡下脾臓・脾動脈静脈尾側脾切除術」：in press
- ・「胃切除既往患者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術」：in press
- ・「リアルタイムMRイメージを利用した胃運動の非侵襲的評価」：症例集積中
- ・「高速インターネットを利用した遠隔医療カンファレンス」：評価中
- ・「医療人教育支援プログラムによる学生に対する実践型

実習の評価」：評価中

### ● 今後の研究課題

《教室内》

- ・「肥満症に対する腹腔鏡下減量手術」
- ・「肥満症の遺伝子多型解析と肥満治療後のアディポサイトカインと消化管ホルモンの動態」

- ・「粘液嚢胞腺癌の臓器浸潤と接着因子」
- ・「Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgeryの開発」  
《全国規模》
- ・「内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術」：厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業；九州大学、岩手医大、日本医大、自治医大、岡山大)

専門外来

月曜

8時30分-15時

## 下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・板橋哲也・藤澤健太郎・  
千葉勗子(WOCN：ストーマ外来)



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2007年12月まで515名の患者様に行ってきました。年々増加傾向にあり、2007年は、大腸癌手術件数155例のうち腹腔鏡下手術は98例でした。現在の当教室の腹腔鏡下手術は表のような適応で進行癌にまで行っており、開腹手術と同等のリンパ節郭清を行っております。また内視鏡手術の拡大視効果を利用した術後性機能、排尿機能などの温存率も好成績を上げております。クリティカルパスは、手術2日前に入院、手術翌日に歩行、2病日から食事開始、4病日で点滴終了、5病日抜鉤、6病日に退院許可としており、現在9割以上の患者様が無理なくスケジュールどおり退院可能となっております。また、自然肛門を可能な限り温存する超低位前方切除も腹腔鏡手術と併用し行っており、どうしても人工肛門を承諾していただけない患者様がいらっしゃいましたらどうぞご紹介ください。人工肛門になった場合でも、当院の千葉勗子WOCナースが外来でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。再発や切除不能大腸癌に対しては、基本的に外来で化学療法室を使用し、全国標準化学療法を安全に行っております。その他、潰瘍性大腸炎やCrohn病など良性疾患に対してもQOLを重視した腹腔鏡手術を積極的に行っております。

平成19年の  
ニュース

- 1月 ▶ 全大腸癌手術数160例、腹腔鏡下大腸癌手術数120例を目標に2007年スタート。
- 3月 ▶ 第23回岩手ストーマ研究会開催。青森県立中央病院森田隆之先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 4月 ▶ 秋山有史先生、五稜郭病院へ出向。板橋・藤澤の最強の同級生コンビに期待。
- 6月 ▶ 中国医学会で岩手医科大学手術場から上海・台湾・福岡に向けて腹腔鏡下大腸癌のライブ手術を発信(大塚・板橋・藤澤)。  
▶ 黒石病院(青森県)から高橋医師が腹腔鏡下大腸癌手術の研修のため、1ヶ月間当教室に在籍。
- 7月 ▶ 藤澤医師、結婚おめでとう。
- 9月 ▶ 第2回岩手骨盤外科研究会開催。東京医科歯科大学名誉教授である佐藤達夫先生に骨盤の臨床解剖について特別講演をいただく。
- 10月 ▶ 当院での大腸癌に対する腹腔鏡下手術が500例に達する。  
▶ 岩手医科大学関連施設との共同臨床試験(ICOG-CC01)がスタート。
- 11月 ▶ 第2回北東北LAC情報交換会を開催。広島大学の岡島正純教授のご講演に感銘。秋田県、青森県からもたくさんのDr. Nrs.に参加していただき、「とても勉強になった」とのお言葉をいただく。
- 12月 ▶ 大腸癌に対する腹腔鏡下手術99例と今年の日標だった100例に届かず。来年こそ!

平成19年 診療・研究状況報告

- 入院数：274例
- 手術数：212例(全麻)

《内訳》

▶結腸癌：92例(例開腹結腸切除術：32例／腹腔鏡下結腸切除術：60例) ▶直腸癌：64例(開腹高位前方切除：3例／腹腔鏡下高位前方切除：6例／開腹低位前方切除：8例／腹腔鏡下低位前方切除：24例／開腹超低位吻合：1例／腹腔鏡下超低位吻合：3例／開腹マイルス手術：6例／腹腔鏡下マイルス手術：2例／開腹ハルトマン手術：6例／腹腔鏡下ハルトマン手術：4例／経肛門の腫瘍切除：1例) ▶大腸腺腫(腹腔鏡下結腸切除：2例) ▶Crohn病(腹腔鏡下腸管切除：2例) ▶潰瘍性大腸炎(腹腔鏡下大腸全摘：1例) ▶家族性大腸腺腫症(腹腔鏡下大腸全摘：1例) ▶直腸癌術後(一時的回腸人工肛門閉鎖：27例) ▶イレウス(開腹イレウス解除：1例／腹腔鏡下イレウス解除：1例) ▶他科応援手術(婦人科・泌尿器科：12例) ▶他(憩室炎・腹膜炎：9例)

●年次手術数推移

	2005年	2006年	2007年
結腸癌 全手術数	83	96	92
直腸癌 全手術数	46	51	64
計	129	147	156

●平成19年の研究報告

《教室内》

- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における術中腹腔鏡下肝エコーの有用性に関する検討」：現在150例、症例集積中。
- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験-ICOG-CC01-」：岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：現在15例、症例集積中。
- ・「腹腔鏡補助下大腸切除術における予防的経口抗菌剤投与の検討」：2007年大腸肛門病学会で発表
- ・「高齢者に対する腹腔鏡下大腸切除術の治療成績」：2007年大腸肛門病学会で発表
- ・「早期大腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績」：2007年大腸癌研究会で発表
- ・「大腸癌患者における核酸代謝関連酵素の発現に関する検討」：現在137例、症例集積中。

- ・「腹腔鏡補助下結腸切除術に対する持続硬膜外鎮痛法の必要性に関する検討」：2008年日本外科学会学術集会で発表予定

《全国規模》

- ▶JCOG
  - ・0404試験「進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術の根治性に関するランダム化比較試験」
- ▶癌集学的治療財団
  - ・JFMC32「大腸癌肝転移に対する肝切除後の動注化学療法と全身化学療法併用の有効性に関する研究(第Ⅲ相比較試験)」：研究終了
  - ・JFMC34「StageⅡB/Ⅲ大腸癌に対する術後補助化学療法としてのUFT/LV経口療法の治療スケジュールに関する第Ⅲ相比較試験」：症例集積中
  - ・JFMC35「術後補助化学療法におけるフッ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治療切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討)」：症例集積中
- ▶SACURA
  - ・「stageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」：症例集積中
- ・腹腔鏡下大腸切除研究会
  - ・Lap-RC「Clinical Stage 0-I期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第Ⅱ相比較試験」：症例集積中
- ▶T-CORE
  - ・702「切除不能結腸・直腸癌に対するFOLFIRI+bevacizumab併用療法とIRIS+bevacizumab併用療法の安全性確認試験」：症例集積中
- 今後の研究課題

2008年の目標

- ・臨床面
  - 大腸癌手術総数 180例
  - 腹腔鏡下大腸癌手術 140例
- ・研究面
  - 腹腔鏡下大腸癌手術の当教室の成績を報告
  - 現在進行中の研究を論文として報告
  - ICOG臨床研究への登録施設数、登録症例の拡大
  - 全国他施設共同研究への積極的参加
- ・教育面
  - 板橋先生・藤澤の消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医取得
  - 腹腔鏡下大腸癌手術の後輩、他施設への啓蒙、指導



専門外来

木曜  
8時30分-12時

金曜  
8時30分-12時  
14時-16時

## 肝胆膵グループ

STAFF：若林 剛・新田浩幸・高橋正浩・高原武志



本年より生体肝移植を開始しました。これにより、従来から行っている肝胆膵系悪性・良性疾患に対する手術、内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)による肝切除・RFAなど、全国的にみても幅広い治療選択肢をもったグループとなっております。また、膵胆道癌に対するTS-1/GEMなどを用いた化学療法、HCC(Vp2以上)に対するIAcall/5-FUを用いた術後化学療法など、手術成績を向上すべく取り組んでおります。新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。切除不能と判断された場合でも他科との連携により集学的に治療を行っておりますので、ぜひ御紹介ください。

平成19年の  
ニュース

- 1月 ▶ 岩手県で初の生体肝移植を施行。  
▶ 腹腔鏡下肝切除術が先進医療として承認。
- 4月 ▶ 川村英伸講師が岩手医科大学附属花巻温泉病院へ赴任。
- 7月 ▶ 慶應義塾大学より高原助教が着任。  
▶ 生体肝移植2例目(初の小児、腹腔鏡補助下ドナー肝切除術を導入)
- 9月 ▶ 生体肝移植3例目。
- 10月 ▶ 生体肝移植4例目。
- 11月 ▶ 第1回の肝臓内視鏡外科研究会が開催(若林教授が代表世話人の一人として研究会の立ち上げに尽力)  
▶ 生体肝移植5例目。

### 平成19年 診療・研究状況報告

●入院数：137例

●手術数：121例

▶肝移植(肝硬変合併肝細胞癌：4例[8手術] / 生体肝移植：4例 / 開腹ドナー肝切除：1例 / 腹腔鏡補助下ドナー肝切除：3例 / 先天性胆道閉鎖症：1例 [2手術] / 生体肝移植：1例 / 腹腔鏡補助下ドナー肝切除：1例) ▶肝胆膵悪性(肝細胞癌：30例 / 開腹肝切除：17例[脾摘合併：2例] / 腹腔鏡(補助)下肝切除：8例[脾摘合併：1例] / 腹腔鏡下RFA：1例 / 胸腔鏡下RFA：1例 / 腹膜結節切除：3例 / 転移性肝癌：17例 / 開腹肝切除：9例 / 腹腔鏡(補助)下肝切除：7例 / 経皮的RFA：1例 [単純子宮全摘+両側付属器切除合併] / 肝カルチノイド：2例 / 開腹肝切除：2例 / 胆管癌：20例 / PpPD：12例 / 肝切除+胆管切除：3例[門脈合切：1例] / 胆管切除：1例 / 非切除：4例 / 胆嚢癌：3例 / S4aS5切除：1例 / 胆摘+胆管切除：1例 / 腹腔鏡下胆摘：1例 / 乳頭部癌：1例 / PpPD：1例 / 膵癌：

13例[膵管癌：8例, IPMC：2例, IPMN：3例] / PpPD：6例[門脈合切2例] / 脾合併膵体尾部切除：3例 / 膵全摘：1例 / 腹壁結節切除：1例 / 非切除：2例) ▶肝胆膵良性(肝良性疾患：4例[肝血管腫：2例、肝内結石：1例、肝内胆管狭窄：1例] / 開腹肝切除：1例 / 腹腔鏡(補助)下肝切除：3例 / 胆道良性疾患：7例 [胆嚢結石：3例、胆嚢ポリープ：2例、先天性胆管拡張症：1例、胆管空腸吻合部狭窄：1例] / 腹腔鏡下胆摘：4例 / 開腹胆摘：1例 / 胆管切除：1例 / 胆管空腸吻合：1例 / 膵良性疾患：4例 [慢性膵炎：4例] / PD：1例 / 脾合併膵体尾部切除：2例 / 膵管空腸吻合：1例) ▶その他(後腹膜腫瘍：2例 / 腫瘍摘出：1例 / 胆道内瘻：1例 / 脾腫瘍：1例 / 脾摘：1例 / 左副腎腫瘍：1例 / 左副腎摘出：1例 / 小腸皮膚瘻：1例 / 小腸部分切除+腹壁再建：1例 / 小腸壊死：1例 / 小腸部分切除：1例 / 門脈血栓：1例 / 門脈血栓除去：1例 / 内ヘルニア+小腸穿孔：1例 / 小腸部分切除：1例 / 腹壁瘻痕ヘルニ

ア：2例／ヘルニア根治術：2例)

### ●平成19年の研究報告

#### 《教室内》

- ・「胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第I相試験・feasibility試験」他の消化器癌と比較し、全国的に決して手術成績が良好とはいえないStage II以上の胆道癌術後患者を対象とした新規抗癌剤の第I相試験。症例集積中。
- ・「生体肝移植における腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の導入」当科で考案し、手術成績も習熟・安定した腹腔鏡補助下肝切除術をドナー肝切除術に応用。2007年は4例に対して施行し、成績は良好であった。今後も手技の工夫を積み重ね、手技の確立に努める。
- ・「BCAA製剤(リーバクト顆粒)による、肝切除後およびRFA施行肝硬変患者に対する肝予備能改善、肝癌再発抑制効果に関する検討」症例集積中。

- ・「切除可能膵癌に対する補助化学療法のRandomized Phase II Trial」切除可能であった進行膵管癌に対する術後補助化学療法(GEM)の投与方法(3投1休 or 隔週)に関するRCT。青森、秋田、岩手の北東北3県で行っている。症例集積中。

#### 《全国規模》

- ・「肝外病変を伴う進行肝細胞癌に対するTS-1/INF併用化学療法の有効性第II相ランダム化比較試験」厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)-進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究。

### ●今後の研究課題

- ・「生体肝移植周術期における好中球エラスターゼ阻害剤役割の検討」
- ・「サイトカインからみた腹腔鏡補助下肝切除の低侵襲性評価」
- ・「大腸癌肝転移に対する全身化学療法後の肝予備能評価」

専門外来

火曜・金曜  
8時30分-17時

## 内分泌グループ《乳腺》

STAFF：柏葉匡寛・稲葉 亨・滝山郁雄(非常勤講師)・  
武田雄一郎・小松英明



火曜・金曜の週2回、朝8:30から受付けております。主に検診(盛岡市・岩手県の2次検診)と手術前の診断、そして多くの再発患者様のホルモン療法、化学療法を実施しております。検診での微細石灰化症例や非触知病変にはステレオガイド下マンモトームも行っております。(金曜午後のみ、予約制)。手術までに外来で検査を終了させ、1~2週間の入院後(最短で2泊3日も可能になりました)、術後のフォローアップは御紹介医にフォローをお願いする病診連携を推進しております。セカンドオピニオン・薬物療法の相談もガイドライン、コンセンサスに沿って治療方針を説明させ手頂いております。化学療法の安全性も確立され、95%以上が外来で実施可能です。患者様を中心としたチーム医療を目指し、医師の告知・IC後の看護師の面談等、より親身で納得の出来るシステムの実践に努めています。＜入院業務＞専門医師2~3名+研修医、薬剤師3名、看護師3名からなるチームでの診療を实践、より満足度の高い診療の提供と個々の専門性の増進と乳癌一般の理解向上を目指します。特に、手術、補助化学療法の初回入院、再発でのoncology emergencyに対応しています。コメディカルと共にチーム回診を毎週月曜夕方に、放射線科医、病理医、コメディカルを交えた乳がんカンファレンスを毎月第2木曜日の18:30開催しています(クリニック、他病院の先生、コメディカルの参加も歓迎します)。

平成19年の  
ニュース

- 1月 ▶ 乳癌懇話会@近畿で講演会(乳癌最新情報)。
- 2月 ▶ 臨床試験(Capecitabine/CPT-11)講演会@福岡  
▶ チーム医療・乳癌最新情報の講演会を早川先生に企画していただく@函館  
▶ 厚生労働省班研究「癌診療QI設定委員会(乳癌)」参加。
- 3月 ▶ 第4回乳癌学会東北地方会@仙台を若林教授が世話人で開催、盛況。  
▶ St.Gallenコンセンサスミーティングに参加。
- 4月 ▶ ブラハ国際乳癌会議に招聘。
- 5月 ▶ JBCRGにて講演会@京都(Capecitabine/CPT-11)。
- 6月 ▶ ASCO@Chicagoに参加  
▶ アストラゼネカ社TV会議@盛岡開催(北関東一帯向け)。  
▶ 第15回日本乳癌学会総会 プレジデンタルシンポジウムおよび口演で発表@横浜。
- 8月 ▶ 乳癌学会中国地方会でランチョンセミナー@広島。
- 9月 ▶ 聖路加 中村清吾氏を迎え乳がん市民セミナーを開催、大盛況。  
▶ 柏葉に次女誕生。  
▶ 乳管内視鏡研究会でランチョンセミナー@大阪。
- 10月 ▶ ファイザー社TV会議 盛岡より中継(全国向け)。
- 11月 ▶ OOTR国際会議で示説発表。  
▶ 堺市市民公開講座で講演。
- 12月 ▶ St.Antonio Breast Cancer Symposium参加。  
▶ 柏葉が念願の乳腺専門医合格。

平成19年 診療・研究状況報告

- 入院数：220例
- 手術数：98例

《内訳》

胸温存：77例（うち内視鏡補助下：20例）／乳房切除：21例／（開始からの）センチネルリンパ節生検実施症例数：498件

●過去3年間の手術数

平成17年：69例／平成18年：80例／平成19年：107例

- ・センチネルリンパ節生検バックアップ症例数：52例
- ・（開始からの）センチネルリンパ節生検実施症例数：410例

●平成19年の研究報告

《教室主導》

- ・アンスラサイクリン／タキサン耐性再発乳癌に対するCapecitabine/CPT-11。併用療法の第I相試験：終了しASCOにて発表予定
- ・Trastuzumab治療中のHER2可溶性抗原の変動
- ・術前化学療法と内視鏡補助下手術の組合せによる整容性の向上の評価
- ・Trastuzumab/taxane先行術前化学療法の有用性とAntracyclineの必要性の検討
- ・術前化学療法後のsentinel node biopsyの適応に関するvalidation study

《臨床試験グループ》

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)
  - 03 「原発乳癌に対するDocetaxel followed by FEC100術前化学療法の有用性の検討」 T1-3,N1M0乳癌に対する術前化学療法の有用性と安全性の検討。
  - 04 「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法に

おけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験。

- ・ OOTR (Organization of Oncology and Traslational Research)
  - N003 Organization of Oncology and Translational Research (OOTR)-N003手術可能な女性乳がんに対する術前化学療法としての5-フルオロウラシル+ エピルビシン+シクロホスファミド(FEC)療法に連続するドセタキセル(T)療法とドセタキセル+カペシタピン(TX)療法のランダム化比較試験。
- ・ 治験：アンスラサイクリンによる術前/術後補助化学療法後の転移・再発乳癌患者を対象としたLY188011 (Gemzar) 及びパクリタキセルの併用試験(B9E-JE-MB22)。
- ・ 治験：転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646 (Avastin)とパクリタキセルの併用第II相試験。
- ・ 癌集学的医療財団：JFMC34-0601「ホルモン陽性Stage II、ⅢA、閉経後乳癌に対するエキセメスタン24週間術前治療の有用性の検討(臨床第Ⅱ相試験)」。
- ・ 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験」。
- 今後の臨床試験
  - ・ Triple-negative (ER/PgR/HER2陰性)乳癌への至適治療の検討。
  - ・ バイオマーカーによるTrastuzumab (ハーセプチン)耐性化のメカニズムの検証。
  - ・ 術前化学療法後の残存病変内の乳癌幹細胞の同定。
  - ・ 病診連携パス実施による患者満足度向上の検証と乳癌標準的治療の普及のシステム化validation study。

専門外来

水曜

9時-12時

14時-17時  
(午前のみ2診)

## 内分泌グループ《甲状腺・副甲状腺(上皮小体)》

STAFF：小笠原 聡・富澤勇貴



基本的には他の専門外来と同様、術後患者さんのフォローアップ、薬剤投与によって保存的加療を継続する方のフォローアップ、そして紹介患者さんの診察を行っております。また、まれですが非常に悪性度が高く予後のきわめて悪い未分化癌に関しても患者さんのQOLを重視しつつ積極的な治療を行っております。

### 《甲状腺癌治療に対する我々の考え方》

- ・甲状腺の疾患、特に甲状腺癌の手術術式、術後治療に対する考え方は施設によりまちまちであることは否めません。例えば腫瘍径1cmであっても全摘する施設もあれば、3cmを超える腫瘍でも片葉に局限していれば片葉摘出を選択する施設があるなど、様々です。これは、甲状腺腫瘍が非常に特殊で、それ故治療ガイドラインが未だ無い為であることは明白です。甲状腺の分化癌は概して予後がよく、ややもするといかなる治療も許容されがちですが、数年先あるいはもっと後に再発、転移が生じた際、治療に難渋する後継者のことを考えると、統一性を持った治療法は存在して然る可きであり、当科は微力ながらそのような統一性のある治療方針を発信する基地でありたいと考え、日々精進しております。
- ・統一性のある治療方針の確立、患者さんにとって最良の治療法の確立に欠かせないのは、『問題を抽出し、基礎的検討を加えた研究を行い、その結果を臨床に反映させ、そしてその情報を県内の諸先生方に提供すること』と認識しております。我々大学病院外科医の存在理由は、それにつきると考えております。

## 平成19年 診療・研究状況報告

### ●手術数：38例

#### 《内訳》

▶甲状腺悪性疾患：27例／乳頭癌：16例／濾胞癌：1例／未分化癌：3例／その他(局所再発) 8例 ▶副甲状腺疾患：11例／原発性副甲状腺機能亢進症：6例(副甲状腺癌1例含む)／続発性副甲状腺機能亢進症：5例

### ●過去3年間の手術数

平成17年：48例／平成18年：64例／平成19年：38例

### ●平成19年の研究報告

外部競争的研究資金獲得に対しても我々は積極的であり、日本学術振興会による科学研究費助成(科研費)取得状況は、平成13年より連続3課題(各2年継続)が交付を受けている。

### ●現在進行中の研究

#### 《臨床研究》

- ・「甲状腺乳頭癌手術におけるリンパ節郭清範囲縮小の可能性」(米山)
- ・「薬剤感受性試験を用いた甲状腺未分化癌に対する至

#### 適薬剤の選択」(富澤)

・「甲状腺未分化癌発生における石灰化病変の意義」(小笠原)《基礎研究》

・「甲状腺乳頭癌に対するCOX-2阻害剤の増殖能抑制効果」(富澤)

・「甲状腺未分化癌細胞株の樹立とその生物学的検討」(富澤)《共同研究》

・甲状腺未分化癌細胞に対するリンドウ根抽出物の増殖抑制効果の検討(岩手大学農学部付属寒冷バイオシステム研究センター、堤賢一先生との共同研究)

・甲状腺濾胞癌に特異的に発現する蛋白、ミオシリンの臨床応用の検討(虎ノ門病院三浦大周先生、田口学先生との共同研究)

### ●今後の研究課題

・COX-2阻害剤と5-LOX阻害剤を併用した際の相互作用による甲状腺乳頭癌細胞増殖能抑制効果の検討(富澤)

・HMG-CoA還元酵素阻害剤が甲状腺良性腫瘍に及ぼす影響の検討(富澤)

・CDDPを投与した甲状腺未分化癌症例における白金の体内分布および抗腫瘍効果の検討(PIXE法を用いて)  
(富澤、野田)

・甲状腺癌幹細胞の同定と、それを標的にした治療戦略の開発(富澤、小笠原)

専門外来

火曜

10時-12時

14時-17時

## 小児外科グループ

STAFF：水野 大・福澤太一



一般小児外科外来：原則的には火曜日10時から12時、14時から16時ですが、他の曜日・時間も可能な限り対応しておりますので、お問い合わせ下さい。紹介の有無を問わず新患者様の診察・検査、術後患者様のフォローアップをしております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から17時。WOCナースと協力し、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケアの指導をしております。

平成19年の  
ニュース

- 3月 ▶ 東北大学より小児外科専門医取得のため当科で研修をしていた佐々木英之医師が十分な研修指数を獲得し、東北大学へ帰任。
- 4月 ▶ 佐々木英之医師の後任として福澤太一医師が専門医取得の研修目的に赴任。  
▶ 水野医師が准教授に昇進。
- 7月 ▶ 肝胆膵グループとともに本県初の小児生体肝移植施行。
- 10月 ▶ 水野赴任後の新生児手術件数が150件を突破。
- 12月 ▶ 東北で最も研修指数の高い小児外科学会認定施設に。  
▶ 佐々木英之医師が小児外科学会専門医取得。

## 平成19年 診療・研究状況報告

● 入院数：246人

● 手術数：239例

《内訳(重複あり)》

▶ 新生児(横隔膜ヘルニア/腹壁異常/食道閉鎖/腸閉鎖など：25例) ▶ 悪性腫瘍(神経芽腫/腎芽腫/肝芽腫/奇形腫など：14例[含む生検]) ▶ 上部消化管(胃食道逆流症/胃軸捻転/幽門狭窄症など：19例) ▶ 下部消化管(イレウス/Hirschsprung病/直腸肛門奇形など：10例) ▶ 肝胆膵(胆道閉鎖/胆道拡張症/胆石など：5例) ▶ 急性虫垂炎：15例 ▶ 鼠径ヘルニア(停留精巣含む)：

43例 ▶ 泌尿器系(水腎症/膀胱尿管逆流症など)：26例

▶ 呼吸器系(気管切開/気胸/肺分画症など)：10例

● 過去3年間の手術数

平成17年：256件/平成18年：245件/平成19年：239件

● 平成19年の研究報告

《臨床試験》

・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験

・JPLT2 日本小児肝癌スタディグループ

・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

専門外来

24時間  
年中無休

## 高度救命救急センター

STAFF：佐藤信博、青木毅一(2008年1月から)、  
小鹿雅博 ※外科学講座から3年目医師3ヶ月応援1名です。



年間約6000件の救急搬送患者を収容しております。高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。

我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間どのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話(019-651-5111)から救急センター事務経由で青木、小鹿を呼び出すように命じてください。

平成19年の  
ニュース

- 4月 ▶小川雅彰医師が盛岡赤十字病院へ異動。鴻巣正史医師赴任。
- 7月 ▶鴻巣正史医師から管野将史医師に交代。
- 10月 ▶管野将史医師から野田宏伸医師に交代。

### 平成19年 診療・研究状況報告

●入院数：214

●手術数：154

《内訳》

▶内因性疾患(胃十二指腸潰瘍穿孔：17例[8例] / 十二指腸憩室穿孔：1例[1例] / 小腸イレウス：20例[3例] / 急性胆嚢炎：22例[20例] / 虫垂炎：44例[40例] / 大腸癌イレウス：4例[3例] / 大腸穿孔：12例[12例] / 急性虚血性腸疾患：2例[2例] / 嵌頓ヘルニア：7例[7例] / 内臓動脈瘤：2例[0例] / フルニエ症候群[3例] / 自然気胸：3例[3例]) ▶外傷(胸部外傷：13例[4例] / 横隔膜破裂：2例[2例] / 食道破裂：1例[1例] / 腐食性食道、胃、十二指腸壊死：1例[1例] / 腸間膜・腸管損傷：5例[5例] / 十二指腸損傷：2例[2例] / 肝損傷：11例[2例] / 脾損傷：6例[1例] / 膝損傷：4例[3例] / 腎損傷：4例[3例] / その他(異物等)：3例[3例] / 他科依頼の気切・PEGなど：25例)

●過去3年間の手術数

2005年：233例(保存治療68例/手術165例)

2006年：173例(保存治療35例/手術138例)

2007年：222例(保存治療62例/手術161例)

●平成19年の研究報告

《教室内》

- ・文科省科学研究費基盤C「敗血症における免疫抑制性メディエーターの解明」
- ・文科省科学研究費若手B「ビーズアレイ法を用いた敗血症における多項目同時サイトカイン・ケモカインの変動解析」
- ・文科省科学研究費 萌芽的研究「soluble CD14サブタイプによる感染症迅速診断法の開発」
- ・岩手県保健医療研究事業「救急領域における様々な病態解析」
- ・厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療器械レギュラトリーサイエンス総合研究事業「輸血用血液製剤中のエンドトキシンに関する研究」
- ・大学院生(箱崎将則)テーマ「敗血症における血中サイトカイン・ケモカインの多項目同時定量」
- ・大学院生(高橋学)テーマ「in situ hybridization法による敗血症早期診断」

《全国規模》

- ・重症敗血症に対するTLR-4阻害剤(TAK)の国際第2相、3相試験

- ・重症敗血症に対するエンドトキシンantagonist (E5564)の国際第3相試験
- ・多臓器不全に対するサイトカイン吸着カラム(CTR001)の第3相試験
- ・エンドトキシン吸着カラム(PMX)の長時間施行の検討
- ・ARDSに対する経腸栄養剤オキシーパの比較対照試験
- 今後の研究課題
- ・敗血症における多臓器不全の対策。特に人工臓器(血液浄化法、人工臓器)を用いた支持療法の有用性に関する検討
- ・腹腔内大量出血時の回収血液輸血に関する検討
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
- ・多臓器不全、重症敗血症における超微量元素の変動について。
- ・血糖値、インシュリンが生体反応に及ぼす影響。
- ・ショック時、多臓器不全時の酸素需給動態モニタリングの開発。



専門外来

火曜・金曜  
10時-12時  
14時-16時

## 鼠経ヘルニアグループ

STAFF : 岩谷 岳・板橋哲也・中嶋 潤・他医局スタッフ・川村英伸(花巻温泉病院)

「再発0、合併症0、より早い回復」をめざしております。大学病院では様々な併存疾患を有している患者様の御紹介も多いですが、局所麻酔手術導入によりリスクの減少、早期回復が得られております。術式は鼠径管に操作を加えないスタンダード・クーゲル法をメインとしております。新患は平日の一般外来でも受け付けておりますので、いつでも御紹介下さい。

平成19年の  
ニュース

- 4月 ▶ 川村先生 花巻温泉病院へ赴任。  
▶ 岩谷 ヘルニア担当責任者に就任。  
▶ 第5回日本ヘルニア研究会出席(川村医師、板橋医師、岩谷)。
- 5月 ▶ 局所麻酔下クーゲル法を導入。
- 9月 ▶ 執行クリニック 執行友成先生をお招きし、岩手ヘルニアセミナー開催。
- H19年 ▶ 鼠径ヘルニア手術数88件。

### 平成19年 診療・研究状況報告

●入院数：87例  
●手術数：88例(男性：67例／女性：21例／平均年齢：65歳[21～91歳])  
《内訳》  
外鼠径ヘルニア：52例(54病変)／内鼠径ヘルニア：25例(27病変)／大腿ヘルニア：8例／複合ヘルニア：3例／閉鎖孔ヘルニア：1例／麻酔(全麻33[両側例、再発例、他疾患同時手術など]／腰麻22(現在はほとんど施行してい

ません)／局麻：33)／抗凝固・抗血小板療法施行中患者：20例(22%)  
《術式》  
クーゲル法：75例／ダイレクト・クーゲル法：10例／メッシュ・プラグ法：3例  
《術後合併症》  
血腫：3例、感染：1例、遅発性疼痛：1例  
いずれも保存的に改善。

コンサルティング  
随時受付

## リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲・小笠原 聡・岩谷 岳・石田和茂・  
野田宏信・藤原幸子・小財 恵・池田みゆき



2007年秋から外科講座の研究室が本格的に始動しました。西4階の術後代謝研究室を二つのセクションに分け、一つをオフィススペースに、もう一つを細胞実験用に区切ったほか、並びの物置として使用されていた標本室には、免疫染色用の自動染色装置を設置いたしました。さらにこの2月には4号館の消化機能研究室に、本邦初となる米国オーションバイオシステムズ社のプロテインマイクロアレイヤーを設置、癌の治療・診断に必要な分子生物学的根拠を、ここ岩手医大外科から発信する準備が整いつつあります。岩手大学農学部からの研究助手、外科講座で学位取得を目指す大学院生など、若い力も充実してきました。また、臨床と平行して研究を行いたいという若手医師の参加も活発になってきています。この環境を生かし、少しずつでも「目に見える進歩」をお見せできるよう努力いたしてゆく所存です。研究に興味のある研修医・大学院入学希望者・それ以外の皆様の見学・コンサルティングも随時受け付けております。

平成19年の  
ニュース

- 8月 ▶西塚 哲、米国国立がん研究所より10年ぶりに帰局。
- 9月 ▶研究室の改装を開始。  
▶ロリンスカ研究所(スウェーデン)よりアンダース・ブラーム博士を招聘し  
第一回Research in Oncologyセミナーを開催。
- 10月 ▶文科省科学研究費に教室から過去最高の申請数。
- H20年1月 ▶研究室改装が終了。標本室に免疫染色用の自動染色装置を導入。
- 2月 ▶岩手大学農学部より小財恵・池田みゆきが研究助手として参加。  
▶理化学研究所主催の招待シンポジウムでプロテインマイクロアレイを紹介。  
▶米国オーションバイオシステムズ社のマイクロアレイヤーを国内で初めて導入。  
▶オーションバイオシステムズ社(米国) CEOジョン・オースティン博士による  
第二回Research in Oncologyセミナーを開催。

### 平成19年 診療・研究状況報告

●平成20年度研究報告(開始されているもの)

- ・甲状腺未分化癌の発生機序の解明(小笠原)
- ・食道癌のチロシンキナーゼ変異と治療抵抗性の解析(岩谷)
- ・制癌剤感受性試験の結果予測分子マーカーの同定法の確立(石田)
- ・シスプラチン耐性胃癌モデルの確立とその分子プロフィール(野田[宏])
- ・PIXE法を用いたシスプラチンの体内分布の測定(野田[芳])
- ・膀胱癌培養細胞を用いた抗癌性薬剤感受性および作用機序の解明(鴻巣)
- ・胃癌術前化学療法後切除標本を用いた組織学的プロフィール(千葉)
- ・腹膜播種癌細胞を用いた分子生物学的制癌剤感受性予測(肥田・西塚)

# 岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：川村英伸・米澤仁志

2008年1月より、岩手医大麻酔科より阿部光二先生が当院の常勤(2007年9月より非常勤)となり、手術がストレスなくできるようになりました。2007年の手術件数は、全麻78件、腰麻15件、局麻33件、総数126件となっております。また、入院数は194人で、本学を中心とした紹介患者が増えており、緩和ケアの重要性が高まっております。また、2007年9月からは癌化学療法ワーキンググループを設置し、11月より運営(安全キャビネットを使用した調剤、オーダーシステムの確立)をしております。近隣の開業医さんや消化器内科からの紹介が増えており、手術件数が増加傾向にあります。



平成19年の  
ニュース

- 4月 ▶川村が本院より移動。
- 7月 ▶川村が左アキレス腱断裂。
- 9月 ▶本学麻酔科の阿部先生が当院へ(非常勤)。癌化学療法WGが発足。
- 11月 ▶癌化学療法室の運営開始。

## 平成19年 診療・研究状況報告

●入院数：194例

●手術数：126例

《内訳》

▶乳腺腫瘍[良性](核出：2例) ▶胃癌(幽門側胃切除：8例/全摘：5例) ▶大腸癌(結腸切除[open] 9例/結腸切除[lap]：3例/直腸切除[open]：5例/直腸切除[lap]：1例/両側卵巣摘除：1例/人工肛門増設：6例) ▶胆石

症(Lap-C：14例) ▶遺残胆嚢管結石(胆嚢管切除：1例) ▶鼠径部ヘルニア(Kugel：16例/Mesh-Plug：4例) ▶閉鎖孔ヘルニア(Mesh-Plug：1例) ▶腹壁癍痕ヘルニア(根治術：3例) ▶イレウス(イレウス解除：7例) ▶急性虫垂炎(虫垂切除：3例) ▶痔核、肛門周囲膿瘍(根治術：3例) ▶その他：34例

## 入院患者分類

疾患	例数	
顔面・頸部	2	
甲状腺・上皮小体	良性	28
	悪性	24
乳腺	良性	1
	悪性	216
食道	良性	9
	悪性	126
胃・十二指腸	良性	2
	悪性	190
結腸・直腸・肛門	良性	24
	悪性	237
肝・胆・膵・脾	良性	84
	悪性	122
イレウス	11	
虫垂炎	19	
ヘルニア・腹壁・腹膜	99	
副腎	1	
その他	60	
入院者合計	1255	

## 関連病院手術件数

施設	手術数	全麻手術	腰麻手術	局麻手術	内視鏡下手術	緊急手術	入院数	全麻/医師
函館五稜郭病院	1138	823	129	114	347	105	1354	138
八戸赤十字病院	502	402	25	75	78	49	691	101
盛岡市立病院	206	178	4	24	52	14	362	89
盛岡赤十字病院	649	508	51	90	155	107	992	85
鹿角組合総合病院	265	155	35	75	33	28	416	78
岩手県立宮古病院	529	358	82	89	94	117	959	72
盛岡友愛病院	501	400	26	75	50	62	785	67
岩手県立大船渡病院	746	523	65	158	87	146	885	65
岩手県立二戸病院	365	234	40	91	36	62	603	59
岩手県立久慈病院	461	288	48	125	67	86	657	58
岩手県立釜石病院	501	270	82	149	56	89	931	54
山本組合総合病院	279	192	48	39	39	42	507	48
岩手県立千厩病院	258	135	54	65	36	38	681	45
花巻温泉病院	126	78	15	33	19	17	194	39
岩手県立大槌病院	34	28	0	6	12	5	96	28
岩手県立江刺病院	414	54	32	328	8	13	265	27
北上済生会病院	154	75	24	54	17	21	373	25
岩手県立軽米病院	75	24	9	42	6	5	158	24
岩手県立一戸病院	39	21	18	123	148	9	153	20
岩泉済生会病院	209	0	1	208	0	0	231	0
岩手県立沼宮内病院	14	1	9	4	1	1	36	1

## 外科専門医制度修練施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2008. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2008. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2008. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2008. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2008. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2008. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2008. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2008. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2008. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2008. 12
指定	北上済生会病院	～ 2007. 12
関連	盛岡市立病院	～ 2007. 12
関連	岩手県立軽米病院	～ 2007. 12
関連	山本組合総合病院	～ 2007. 12
関連	鹿角組合総合病院	～ 2007. 12

## ■ 関連病院医師数(平成19年12月現在)

施設	医師	所属長	卒業	役職		卒業		卒業		卒業		卒業		卒業
函館五稜郭病院	6	高金明典	62	外科部長	小林 慎		目黒英二	1	早川達郎	2	入野田貴	7	木村聡元	14
八戸赤十字病院	5	佐瀬正博	51	外科長	玉沢佳之	59	細井信之	6	川崎雄一郎	11	藤田倫寛	14		
盛岡市立病院	2	須藤隆之	63	外科長	伊藤直子	12								
盛岡赤十字病院	5	旭 博史	49	第2外科長	杉村好彦	59	畠山 元		星川浩一	12	富澤勇貴	12		
鹿角組合総合病院	2	阿部 薫	3	外科長	飯島 信	10								
岩手県立宮古病院	4	亀井真理	58	外科長	坂下伸夫		菅原俊道	8	船渡 治	7				
岩手県立大船渡病院	8	菅野千治	47	院長	村上雅彦	2	野田芳範	12	東北大5					
岩手県立二戸病院	4	伊藤達朗	56	副院長	菊池俊弘	62	菅原 聡	8	千葉文弘	15				
岩手県立久慈病院	5	阿部 正	51	院長	下沖 収		武田雄一郎	12	大淵 徹	14	3外科			
岩手県立釜石病院	5	八島良幸	47	院長	吉田 徹	59	小原 眞	6	菅野将史	16	東北大			
山本組合総合病院	3	青木毅一	6	外科長	大山健一	8	高橋正統	12						
岩手県立千厩病院	3	遠藤秀彦	54	院長	佐藤 一	4	遠野千尋	5						
岩手県立大槌病院	1	馬場祐康	62											
岩手県立江刺病院	2	川村秀司	61	副院長	石川 徹	5								
北上済生会病院	4	斎藤和好	40	院長	須原 誠		旗福公英	63	米山幸宏	5				
岩手県立軽米病院	1	葛西敏史	63	副院長										
岩手県立一戸病院	2	坂本 隆		副院長	藤社 勉	8								
岩泉済生会病院	1	塩井義裕	15											
岩手県立沼宮内病院	1	大津友美	54											
岩手県立紫波病院	1	松尾 力	57											
内丸病院	2	遠藤直樹	38	院長	日下純男	40								

## ■ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
認定	岩手医科大学附属病院	～ 2008. 12	認定	岩手県立大船渡病院	～ 2008. 12
認定	函館五稜郭病院	～ 2008. 12	認定	岩手県立久慈病院	～ 2008. 12
認定	盛岡赤十字病院	～ 2008. 12	認定	岩手県立釜石病院	～ 2008. 12

### 外科学講座に入局して

外科学講座 大学院3年

#### 石田 和茂

平成19年3月に臨床研修過程を終了し、同年4月より岩手医科大学 外科学講座に大学院生として入局させていただいた石田和茂と申します。この度は、「2008年教室年報」に投稿する機会をいただきありがとうございます。まだまだ外科医である以前に医師としての何たるかを先輩方や患者さんを通して学ぶ毎日ではありますが、この場を借りて私の外科医としての目標や外科学講座に入局して実感したことなどを書かせていただきたいと思います。

私が学生の時分に漠然と抱いていた外科医のイメージは、患者さんの体にメスを入れ病変部に直接手を下すことが許された集団。また、余計なこととお叱りを受けるかもしれませんが、お酒に強く、仕事も遊びも一生懸命で、24時間働けるタフな集団といったものでした。ふざけているわけではありませんが、外科とはなんぞや？という域を超えない学生にとって、このような印象で直感的に入局を考えた同期も少なくないのではと思います。恥ずかしいながら私もその1人であり、おそらく自分が興味を持って力を発揮できるのはこの分野だ！この医局だ！と片思いの末に入局に至った次第であ

ります。書いていて情けなくなる入局同機ではありますが、忙しいながらも興味の尽きない毎日を送っていることを考えると、正しい選択だったことを実感しております。

また、今後外科医として大学病院で仕事をするとはどういうことなのかを自分なりに考えると、臨床のみならず、研究・教育に携わる責任を負うことであり、それは自ら経験した症例を研究することで臨床にフィードバックする責任・後輩に伝える責任なのではないかと考えております。現在、私は大学院生であり西塚先生の御指導の下で学位取得を目指し研究する準備を進めておりますが、これは正に大学病院の研究機関としての一面であり、本格的に研究を始められる日を心待ちにしている状態です。

最後になりますが、忙しくても立ち止まらずに頑張れるのは、「こんな外科医になるんだ！」と思わせられる先輩方への憧れがあるからだと思っております。あえて安直な表現をさせていただくと、カッコいい先輩方に囲まれた医局で勉強できる事が幸せだと実感している毎日であります。御指導してくださる先輩方の期待に応えられるよう努力していく所存であります。今後とも御指導の程よろしく御願ひ致します。



### 外科学講座に入局して

外科学講座 大学院3年

#### 野田 宏伸

このたび外科学講座に入局させていただいた、野田宏伸と申します。出身地は福島県郡山市、出身大学は岩手医科大学です。盛岡で四季を数えるのもかれこれ十回を数え、もはや第二の故郷と言えるほどになっております。

私の実家の稼業は医師ではないため、大学卒業後の進路についてはある程度自由に決めることができましたが、逆に選択肢が多すぎる感もありました。というのも私たちの世代においては卒後臨床研修制度が始まっており、実家近辺や、それ以外の地域で研修をするという選択肢もあり、医局に入局せずに市中病院で研修後そのまま働くということも可能になったからです。

私が外科という道を選んだのはやはり学生時代の印象が強かったことが挙げられます。大学時代はバスケットボール部に所属しておりましたが、外科にはOBの先生方が多く、低

学年の頃より激励をいただき、納会や追い出しコンパなど様々な機会でお話をする事ができ、お世話になっていました。そのような訳もありで外科は他科に比べてなんとなく気になる科でありました。5年生になってポリクリをローテートする中で、一番興味をひかれたのはやはり外科でした。手術はもちろんのこと、何事に対しても全力で取り組む先生方の多い科という印象を受けました。学生に対しても真剣に向いあって頂き、情熱的に指導をして頂きました。そして6年生時のスーパーポリクリでも外科を選択し、さらに非常に勉強させていただいたことを覚えています。その様な理由で進路選択の際は外科に入局を希望し、母校の医局に入局するのだからと、母校の大学で臨床研修をすることにしました。

臨床研修では外科だけでなく様々な科をローテートし、消化器内科はもちろん、麻酔科や循環器科、精神科など、違っ



た角度から外科に接することもできました。また様々な科の先生方とつながりを持てたことが最も研修制度で得たものであったと思います。

卒後臨床研修終了後は大学院生として山本組合総合病院外科、高度救急センター、下部消化管グループとお世話になっ

ております。医師としては三年目ではありますが外科医としては一年目であり、至らぬ点ばかりで上級医の先生方にはご迷惑をかけてばかりですが、何とぞこれからもご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

## 外科学講座に入局して

外科学講座 大学院3年

### 馬場 誠朗

平成19年4月より、伝統ある岩手医科大学外科学講座に入局させていただいています。今回、同門会誌へ投稿させていただく機会を与えていただいたことを光栄に感じております。

私は県立久慈病院で2年の臨床研修を行いました。何をしてもよいかも分からない自分に阿部院長先生をはじめ、外科の諸先生方の一から御指導いただきました。研修医の2年間で外科をローテートできたのは5ヶ月間と短期間でしたが、その中で様々な経験をさせていただきました。経験させていただきただけではなく、患者さん思う熱意を学ばせていただきました。

大学で仕事をするようになってすぐはシステムもわからず、また自分の無力さに悩みました。苦しく、辛い時もありましたが、諸先生方の暖かい御指導のおかげで少しずつ大学になれることができてきました。大学で勉強させていただく中で、外科学は学問であるということを強く感じています。その一つとして、朝会の術前発表でのディスカッションで

の治療法の選択・適応の有無・EBM等様々な角度から症例検討を行い、的確で最良な医療を施し、術後発表で再検討し今後の治療の方向性を決定していくことです。また、そこには若林教授をはじめとする諸先生方の情熱が感じられ、外科医としての魅力を再確認しました。



実際、外科医として現場に立ってみると、チームとして医療を行っていくことが重要だということを改めて感じました。日々の忙しさの中で、報告・連絡・相談を怠らなく行うことで、円滑にミスがなく、患者さんが有益な医療が受けられることを実感しました。基本的なことですが、チーム医療の必要性和重要性を忘れずに継続していきたいと思います。

この一年を振り返ってみると、術者経験・トランク・学会発表等々、すべてが新鮮で、緊張にあふれていました。何も分からず、未熟で、諸先生方には数々のご心配と、ご迷惑をおかけしましたが、一歩ずつ前に進んで行きたいと思いますので今後とも御指導よろしくお願いいたします。

## 岩手医科大学外科に帰還して

助教

### 西塚 哲

この題名による教室年報への寄稿のお願いをいただいた時、直ぐさま高校時代に読んだ立花 隆の「宇宙からの帰還」を思い出した。1983年に出版されたこの本は、地球とは全く異なる環境である宇宙空間で生活した宇宙飛行士達が、帰還後、人生観や宗教観また生と死に関わる概念が大きく変わってしまったという話を立花がインタビュー形式でまとめているものである。極端に環境の異なる世界で生活をすると、自分自身の元いた場所に対する感受性が変化する。宇宙飛行士は地球を出たことで自分の日常に対する感じ方が変わったのであ

る。宇宙とはかけ離れすぎて恐縮だが、医学研究という分野でこのわずか50年足らずの間に世界の牽引車となり得た米国の実情を交えながら、ほぼ10年にわたる米国生活で、私のなかで起こったものの方の変化を中心に延べさせていただきたい。



1998年の大学院卒業直後のことである。かつての医局のルールからすると言語道断であったのにも拘わらず、米国に就職先を選んだのは、自分を高めたいという抑えきれない衝動があったからである。ヒトゲノム計画が開始され、経験則に基づいた医療のみならず物質的また客観的な判断が求められる時代の到来に備えて、極端に

環境を変え、競争に「勝つ」仕事がしたいと燃えに燃えてカリフォルニアの地を目指した。そこでは言葉という環境が変わるといふ不安があった。どのような仕事でもコミュニケーションは重要であるが、自然科学の分野では明らかに英語が世界標準言語である。それは英語を母国語としない人達もここでは英語でコミュニケーションを取っているということの意味する。ではどのようなレベルの英語で複雑な実験などの議論をしているのだろうか？多くの日本人が感じているように、私も英語で必要なコミュニケーションができないということに、若干の後ろめたさを残したまま渡米した。渡米当時の私は「英語が話せるか？」と聞かれたら、少しためらいながら「Yes」と答えていた。一方的に話をするなら胸を張って「Yes」なのだが、英語で「Do you speak English?」は「英語を理解できるか」という意味も含まれているので状況によっては「No」だったからである。初めは誰にでも自分の英語が分かるかを聞いたり、スーパーでわかりきった質問をして店員がどう答えるかを予想したりしながら英語の進展評価をしていた。数ヶ月たった頃、実は自分の英語が自分で思っているより遙かに英語として機能している感触が出てきた。後で分かったことだが、アメリカ全土でも英語を母国語としない人達の割合は年々増え続けており、カリフォルニア州においては人口の半分以上の人達の日常使う言語が、文法も発音も、さらに本来英語にはない発想まで英語になっているブローケンイングリッシュなのである。

自分の話す言葉は少なく留め、他人の言うことを敬う。日本の美德とされている「奥ゆかしさ」は世界の手本となるべきである。ただし、その前にブローケンイングリッシュの日常で、大切なことに順番をつけるとすれば「奥ゆかしさ」が筆頭に来ないことは明白である。英語を母国語としない研究者が大多数を占める研究室で、自分が行っていることを他人に納得させながら行うには、コミュニケーションを取ろうという態度が前面に出る話し方や背景の知識（話し相手の言語や国の事情）の豊富さがはるかに優先される。

米国の移民の数は19世紀後半から急激な伸びを続け、先進国ではほぼ唯一人口減少の問題があまり深刻になっていない。医学研究においても米国にある研究室に米国人がいないということは全く珍しいことではなく、必然的にブローケンイングリッシュでのコミュニケーションが主流となっている。この「必要なことを必要な態度で相手を納得させるように表現する」ことは、とりもなおさず論文での表現や、基礎でも臨床でも研究計画書を申請する時に非常に強く求められるスタイルである。米国はもともとあった英語での自己表現を求める文化に加え、移民を寛大に受け入れ、その新しいエネルギーが研究の土壌を強固にしたことは特筆に値する。

このような米国研究体制賞賛ともとられる文章を、米国の愛国リベラル主義者が読んだら私に研究助成金をポンと出してくれるかもしれない。しかし、私はその気分を少し害することになるかもしれないことも書いておく。私の行っていた医学研究は、私も含めた米国居住者の税金を使って、新しく高価な技術や試薬をふんだんに用い、それなしには得られない情報を基に腫瘍マーカー同定やがん細胞の分子動態の検証し、臨床試験への道筋をつけることであった。しかし、その結果がいかに興味深いものであっても、それらを見据えた診断・治療をすべての人が受けられる方向に配慮する国家行政のシステムは確立されていないのである。例えば、少し極端な例になるが、私は10年間で日本ならばすぐさま救急車を呼ぶような状況に2度遭遇した。両方のケースで、その当事者は値段が高いという理由でそのような状況でも救急車を断念せざるを得なかったのである。それぞれの国の医療制度が成り立った事情は異なるので、単純な批判はできないが、自分が病気や怪我などの事態に陥った時、米国人は日本人が感じているような「病院へ行ってお医者さんに診てもらおう」という安易な気持ちは持てない。「新薬が開発された」こともすぐさま安心や希望にはつながらないのである。米国では自己破産の最も多い理由は医療費による家計の圧迫であるという。日本の医療制度・行政にも批判はあるが、「病院へ行ってお医者さんに診てもらおう」という前提で生活できる日本のような国とは、日常生活の安心の度合いが全く異なる。

一方で、日本のような医療制度が成り立っているのは医療従事者の献身的な姿勢による所が大きい。世界的にもトップレベルの医療を確実に供給しつつも、外科医の大変さは相変わらずである。勿論現行の医療制度が完璧であると断言できないことは受け入れなければならないが、米国やその他の様々な国の医療従事者と医学研究という舞台上で意見を交換した結果、私は今「病院へ行ってお医者さんに診てもらおう」という気持ちを持てるというこの上ない安心感、希望を持つ権利のようなものを、感じるできるようになった。

我々医師にとって、日々可能な限りの良質の医療を供給することが使命である。そしてその検証・発展のために良質の研究活動を行う。私が米国生活を経て、自分の職業を別の視点から見ることができるようになったとすれば、その国や地域の人たちの生活に無意識のうちに、臨床だけではなく基礎研究も含めてこれら医師たちの努力が、ある種の得がたい安心感を与えていることと無関係ではないことに気がついたということである。今再びその医師の一人として、外科の仲間に加えていただいたことは、米国での10年間以上に新たな研鑽を積む機会になりえると感じている。



## 新教室員として

助教

高原 武志

はじめまして。2007年7月より、伝統ある岩手医科大学外科学講座にて、肝胆膵グループに所属することになりました。私は、慶応義塾大学医学部を2000年3月に卒業し、同年4月に慶応義塾大学一般・消化器外科学教室に入局しました。1年目は、慶応義塾大学と東海大学にて研修医生活を経験し、2年目・3年目には、関連病院にてヘルニア・アッペから消化器外科全般の多数の手術を経験させて頂きました。4年目から慶応義塾大学病院での胆道班・移植班のレジデントとして若林 剛先生・島津元秀先生・北島政樹先生のもとで勉強させて頂きました。若林先生には、自分の研究テーマである脾臓のSide Population cellを用いた肝再生治療の開発に関してもご指導して頂いています。5年目には京都大学移植外科に国内留学をさせて頂き、田中紘一先生のもとで、肝移植の臨床に惹かれていき、移植外科医と消化器外科医の融合が自分の理想の外科医のように思えました。6年目には、再度慶応大学病院で胆道班・移植班のチーフレジデントとして縮小手術から拡大手術まで、生体肝移植を含め、幅広く臨床経験を積ませて頂きました。昨年は、市中病院にてもう一度いろんな消化器癌の手術を経験させて頂きました。

自分のこれまでの外科医としての研修生活の中で、魅力的で優秀な諸先輩方とともに仕事ができたと何よりの財産であり、自分としてはできる限りその中で吸収し、さらにうまくいかなかった症例に関して真摯なる反省の繰り返しをし

てこれまでやってきました。このスタンスで岩手医大でも臨床に立ち向かい、頑張っていきたいと思っています。これまで岩手医大外科に異動になって半年が経ちますが、佐々木 章先生・新田浩幸先生を始め医局員の寛大で朴訥で面倒見のいい雰囲気のおかげで、自分なりにうまく溶け込めたと感じられ、医局員全員に大変感謝しています。

またリサーチに関しても一度ゴールを設定してそれを通過することが、自分にとって最大の課題であり、そうすることで次の目標が立てられると痛感しています。脾臓という臓器は今でも未知の領域で、その組織幹細胞 (stem cell) を利用して肝細胞に分化誘導させることが可能ならば、脾臓は末期肝不全患者において摘出されることがある臓器でもあり、夢のある治療法と思っています。病理の前沢先生、昨年の夏より教室に帰還された西塚先生にもいろいろ教えて頂きながら、リサーチも頑張りたいと思っています。

臨床では、より多くの肝胆膵領域の症例を経験し、大学病院でしか経験できない拡大手術に立ち会えることを期待して、肝胆膵外科医としてのskill upを図り、できれば実臨床につながるbreak throughを求めていきたいと考えています。盛岡の冬の朝を寒く感じないぐらい熱い気持ちで毎日を過ごせたらなと感じています。何卒、ご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

最後に自分の常日頃の我儘に忍耐強く、家庭を死守してくれている妻に感謝しています。



## 瑞宝章受賞

### 村井 英夫

昨年秋の受賞の折には、大堀理事長、佐藤学長、若林教授、その他多くの方々からお祝いいただき、恐縮至極に存じます。

私の医師としての原点は外科学教室です。故瀬田孝一先生、新津勝宏先生、金野先生、松谷先生、鈴木先生、皆恩師と仰ぐ先生方に御訓導いただきました。

大部分は叱られ、たまには少しほめられる毎日でした。いつしか手術大好き人間になっていました。

10年弱の医局生活の後、函館五稜郭病院に赴任致しました。今と違ってひどいオンボロ病院で、びっくりしました。

以来、今日まで函館の地で42年になります。

その間、外科医として、病院長として、また五病の母体組織である函館厚生院理事長として、与えられた立場で、微力を盡してきたつもりであります。つまり「なすべきこと」「なしうること」を行なうと言うことであります。

いくつかの公職にもつきましたが、今度の受章は何れにしても長い間御苦勞様ということでしょうか。

今、年令も77才を越え、心技体共に衰えを感じる日々が増えました。人生のフィニッシュをどう迎えるかを思う日々でもあります。教室の隆盛と後輩諸氏の充実を念願しております。



## 地域医療修練施設としての経験

### 渡辺 正敏

隔週の火曜日の朝は、医大の医者のおたまご達（当院割り当て2名）と会える楽しさと、幾らかでも彼らのプラスになればという心配が交錯した状態で迎える。

午後2時までには当院を訪れ、事務の三浦君の案内で3階の小生の隠処へ上がり着替え、予定を聞き、すでに始まっているザールへと下りてくる。10～20分間は、小生の背の、裏でじっと（椅子に座るよう促されて）しているようである。終わって初めて互いに自己紹介をして、2番目のOPからは、麻酔、痔の手術の全体を通して見学することとなる。解説が十分にできないこと、術野が狭いことの不便さに関してはご容赦頂いている。

術間の僅かな余暇を利用してティータイムをとり、2人と出身地、クラブ活動などの話をする。15時過ぎには、後半の外来診療の実際（新患と再来の診察、処置）を各ブースに1人ずつ入り体験する。この間、交替で院外薬局との連携とそのしくみを見てもらう。外来終了後、明日のOP予定者の内科的診察を行い、残った3人目のOPに参加（糸結びを手伝ってもらう場合も）して実習を完了する。

第2幕は、三浦君が準備してくれた和食弁当の鍋を囲んでの歓迎会が始まる。あらかじめ医局のレベルで選ばれてきたのか、アルコールがいける口の子供達がほとんどで、これまで1人の脱落者もない。おしゃべりはスーポリ、国試、研修医のことは避け、できるだけ趣味やスポーツ、ファミリーのこと、まれには身の上話に及ぶ場合もある。お開きは翌朝もザールへ入る大変さを考え、例外を除き（この会にリピーターが合流し延長した場合もあり）、21を過ぎないように心掛けた。

世代間の微妙なずれや、おやじと息子ぐらいの年齢差はあったが、皆さんが昔と変わらない医大気質と、将来の夢を凌ぐ今の不安と悩みを持っていることを確認することができたことは小生にとってひとつの収穫であった。

大学と明らかに趣を異にする生業での医療に接してもらうことで、少しでも子供達の役に立ち、これからの糧になれば幸いと思っている。若林教授には外科教室の地域医療修練施設に指定して頂き、大変光栄に感じると同時に、貴重な経験ができたことに感謝している。



## 地域医療実習を受け入れて

菊池 信太郎

佐々木 章医局長からの突然の電話。地域医療実習でポリクリの学生を受け入れてほしい。との要請。何も考えずにただお役に立てればと簡単にお引き受けしたものの後悔する事に。しかしながら、引き受けた以上、何かを学び、感じ取って欲しいという思いと、とにかく茶会の心得である一期一会の精神で接し、大学では経験できない疾患を経験していただき、さらに一般開業医の日常診療の一端を垣間見て地域医療の現状を理解していただければという思いだけでやってきました。

実習内容はいろいろ試行錯誤した挙句、現在は最初に手術見学、次に患者さんの移動介助、病棟オリエンテーション、外来診療の見学、その合間に肛門疾患のムントを行っています。最後に出身地や卒業後の予定、将来の夢、実習の感想などを書いてもらっています。当初は当院のスタッフも緊張して接していましたが、最近は気軽に声をかけることができるようになり、

次はどんな学生さんが来るのか楽しみにしているようです。スタッフにも刺激になり相乗効果をもたらしています。

引き受けて一年、幸いすべての学生さんに肛門の手術をお見せすることができ、さらには、直腸肛門の解剖、三大肛門疾患である痔核、裂肛、痔瘻の拙いレクチャーではありますが、少しはお役に立っているものと思っています。

これまでの22名の学生さんはみな礼儀正しく、明るく、応答も明快で、とても好い印象を持ちました。岩手医大の未来は明るい！別れ際に決まっていた台詞は“卒後研修は可能な限り岩手県で！”

最後に外科学講座 若林 剛教授はじめ、教室の諸先生方に地域医療修練施設認定の御礼とともに日頃の病診連携に感謝致します。



## 地域医療修練施設に認定されて

大森 浩明

平成19年2月下旬に佐々木 章先生より「教授からポリクリ実習の半日を開業医で実習させる話があって、渡辺先生、細井先生と大森先生を推薦したので、よろしく。一度、教授と先生方と食事をしながらその主旨について話す機会を作りたい」と電話がありました。3月上旬に菜園の「朝日亭」でワインを飲みながら、教授から学生教育について熱いお話をお伺いし、渡辺先生、細井先生と私は、喜んで今回のご提案をお受けしたのです。3月の下旬に第1回目の学生が当院にきました。当院は、開院してまだ半年の状態、他の先生のように学生に満足してもらえぬ症例を提供できる環境にないた



め、学生対応に困りました。でも、考えても選択肢がない状況です。できるだけ外科小手術を予定し、助手として手伝ってもらい、その他の時間は私と患者との診療の様子を傍らで見学して貰おうと決めました。最初の頃は、患者が空いた時間を利用して、私が大学でやっていたように胃切除や再建術式などのムントなどをしたりもしました。時が経ち、受診する患者の数も増えましたので、学生とゆっくり話も出来なくなり、丁寧に教えることはほとんど不可能となりました。開業医での診療を実際に見ることは新鮮なようで、見るだけでも勉強になりますとの話をしてくれる学生もいて、少しほっとしました。実習終了後は、都合がつけば学生と食事に行き、飲み食いしながら、将来の進路などについて聞いたり、助言をしたりしました。3Kの職場である外科への入局が少ないこの頃です。「外科医になれば、内科も外科も出来るようになるよ（僕の様には言っておりません）」と言って一人でも多くの学生に外科への入局を勧めました。“tan-tan”という雑誌を御存知でしょうか？ 雫石の応援マガジンと銘打って、今までに準備号、第1、2号と刊行されています。県内の書店の店頭で販売されています。



その第2号に当院での学生実習の様子が、雫石町にお住まいの漫画家“そのだつくし”さんの手によって「あねこが行く」というコーナーに描かれております。花巻の開業医の息子さんM君が実習に来たときには、手術もなく、患者も少ない中で、“そのだつくし”さんのインタビューが実習の主なプログラムでした。とても面白く描かれておりますので、是非、御覧になって頂きたいと思っております。

さて、今年についてはまだ聞いておりませんが、昨年同様3月から学生実習が始まると思っております。開業医生活にもだいぶ慣れ、大学時代とは内容の異なる、“学生に伝えたいこと”も徐々に確立してきたように感じています。一人でも多くの学生が外科に興味を持ってくれるように、お手伝いが出来ればと思っています。今年も頑張るぞ！

ばと思っています。今年も頑張るぞ！



## 「地域医療修練施設証」を いただいて

細井 典行・細井 昭彦

昨年12月の巖刀会忘年会において、『地域医療修練施設証』を頂きました。3月から12月までの約9ヶ月間、岩手医大医学部5年生の学生を隔週で火曜日午後当院を見学・研修して頂いたことによるものです。

依頼を受けた時は病院での研修と比較し症例の少ないこと、看護・介護施設体験や地域医療研修等を経験している学生に何が提供できるかを考え不安が先立ちました。しかし、現状をありのままを見学していただくと思ってお引き受け致しました。

来ていただいた学生の態度は概ね立派なものでした。初対面での挨拶はつつがなくこなしておりました。服装も、いわゆるジーパンに白衣1枚といった学生はいなかったと記憶しています。患者さんに「お大事に」と声をかける学生もあり、実習経験が生かされていると感じられました。

学生には小手術の手伝いや大腸内視鏡の見学のほか、来院さ



れた患者さんの病状を話し、診断基準や診療のガイドラインなどの本を示し診断・治療していることを説明しました。いわゆる口頭試問形式はとらないよう心がけました。

時間に余裕のきたときは、いろいろと話を聞きました。出身地やクラブさらに臨床研修病院や進路など



についてです。高校のクラブの後輩と知らされた時は大変うれしく思ったものです。

進路に関しては、大部分が5年生の時点で自分の進むべき科を決めていることに驚かされました。外科系あるいは内科系といった返事ではなく、〇〇科か△△科に進もうと思っています。といった答えが返ってきました。女性の場合は、最近医師数が減少している科に進もうと考えている、との返答があり頼もしく思われました。実家が開業しているという学生は、介護保険を視野に入れて考えている、と話してくれました。まだ決めていないとの答えは1名のみでした。

おおむね学生の医学に対する志は高いと感じられました。現在は学生に入る情報量も多く、なるべく早い時期から外科に興味を持ってもらうよう働きかけることも必要と痛感させられました。

盛岡は幾多の文化人・政治家を輩出した街です。当院は盛岡城跡の真ん前に位置しており、近隣には著名人のゆかりの地も多く存在します。新渡戸稲造博士誕生の地、石川啄木や金田一京助博士が通った中学校、宮沢賢治が下宿使用していた井戸、原敬の胸像や米内光政の銅像などなどです。遠方より来ている学生も多く、盛岡の文化に触れてもらいたいと考えそういった話しもさせていただきました。

## 地域貢献優秀賞受賞 (JGNIIシンポジウム2007in広島)

佐々木 章

平成19年1月17日から19日に広島で開催されたJGN II シンポジウムにおいて、外科学講座が実施している超高速インターネットを利用した次世代国際共同研究（主任研究者：佐々木 章）が地域貢献優秀賞を受賞いたしました。我々はJGN II という大容量の回線を利用して、ソウル大学ブダン病院、韓国がんセンター（韓国）、上海交通大学、清華大学（中国）、国立台湾大学、台北榮民総医院（台湾）、シンガポール大学（シンガポール）、フリンダー大学病院（オースト

ラリア）、国内病院（九州大学、宮崎藤元早鈴病院、沖縄豊見城中央病院）との医療カンファランスやアジア太平洋先進学術ネットワーク（APAN）への参加を積極的に行ってまいりました。本賞は、JGN II の利活用において地域の先導的な役割を果たし、地域の産業と学術の発展や人材育成などJGN II を用いた研究開発の推進および地域活性化に貢献した功績を高く評価いただきました。今後もこのシステムを利用して、岩手医科大学と国内外施設間で高画像を共有した医療カンファランス、遠隔手術指導などが期待されます。



## 高速ネットワークを利用した 遠隔医療カンファランスに ついての発表報告

大淵 徹

平成19年11月30日、第69回日本臨床外科学会総会パシフィコ横浜小ホールにおいて  
特別企画：遠隔地外科医療—基幹病院との連携のあり方進め方—医師不足にどう対応する—と題し、県内関連病院の諸先輩のお力添えをえて、この度発表させていただく機会をいただきましたので、ここに報告させていただきます。

岩手県では、沿岸地域での医師の引き上げが進み、医師不足問題が生じ



てきております。

また、東北地方における外科専門医、消化器外科専門医数は首都圏に比較して少ない現状にあります。本県の消化器外科専門は36人で、この3割が岩手医科大学で勤務しており、地域偏在が存在しております。本県における専門医の充足率は、外科専門医で人口10万人に対して10.7人、消化器外科専門医は2.6人です。本県の専門医はどちらも約60%と東京都と比較して不足しているのが現状です。



そこで施設間の治療較差是正や、県民への標準的医療の提供を目標として、2006年5月より双方向テレビ会議を月1回の割合で開始しました。

岩手県では2002年より全国初の地方自治体と医大の連携によるいわて医療情報ネットワークの運用を開始し、2005年12月から県内保険医療圏を網羅し岩手医科大学とのテレビ会議システムが整備されておりますのでこのシステムを利用して、いわて遠隔外科医療カンファランスをたちあげ県内関連病院と回線を接続し2006年5月より月1回の割合でカンファランスを実施しております。また、2006年1月からは高速ネットワークも利用し、九州大学清水周次先生のご高配により福岡内視鏡手術フォーラムへも参加しました。看護師の看護分野への研究会参加でモチベーションの向上、教育にも有用であるものと考えております。

海外とのテレカンファランスでは、アジア太平洋先進学術ネットワーク（国内3地点と海外7地点）において腹腔鏡下大腸手術テレカンファランスへの参加、アジア太平洋内視鏡外科学会（ソウル）において内視鏡下甲状腺ライブ手術の送信、上海で開催された中国医学会では腹腔鏡補助下大腸切除術を岩手医科大学附属病院手術室から学会場へ配信し、腹腔鏡下肝臓ライブ手術（ソウルと国内3地点）の受信経験も出ましたが、胸部大動脈瘤に対するライブ手術中の死亡例があり、ガイドラインが設定されましたので、今後の実施には十分な注意・配慮が必要でありものと考えております。

以上、岩手県での高速インターネットを利用した遠隔医療カンファランスについて紹介しました。本ネットワークの利用により、県内外科医療の標準化、先進医療の指導、難度の高い手術や人員の少ない病院への診療支援などが今後期待されるものと考えております。今後ともご指導のほどお願い申し上げます

## 第1外科時代の歴史

### 八重樫 雄一

今回「教室年報」を刊行するにあたり、教授より第1外科時代の回想と、現教室員に対する訓示等の寄稿依頼がありましたので、学術的業績以外のことについて記憶を辿りつつ私見を交えて記載します。

#### 1.1928年創立以来の外科教室の歴史

##### A 岩手医学専門学校時代

###### 1) 外科教室の歴代教授（教授就任年順）

- 副島鎮雄 教授／1897年生／九州大学1922年卒／在任期間 1929年～同1938年
  - 三宅徳三郎 教授／1899年生／九州大学1926年卒／在任期間 1930年～同1935年
  - 永松之幹 教授／1899年生／九州大学1925年卒／在任期間 1938年～同1942年
  - 瀬田孝一 教授／1910年生／東北大学1936年卒／在任期間 1944年～岩手医大教授
  - 菅 千里 教授／1907年生／慶應大学1934年卒／在任期間 1944年～同1949年
- 外科教室名は教授名に教室をつけて称していた。

###### 2) 外科教室在籍者数の変遷（多少不正確）

1929年 5名、1938年 8名、1948年 18名。

##### B 岩手医科大学時代（昭和22年大学昇格）

###### 1) 第1外科教室歴代教授（教授就任年順）

- 瀬田孝一 教授／1910年生／東北大学1936年卒／在任期間 1949年～同1979年
- 森 昌造 教授／1932年生／東北大学1955年卒／在任期間 1979年～同1986年
- 斉藤和好 教授／1939年生／岩手医大1965年卒／在任期間 1987年～2005年
- 若林 剛 教授／1957年生 慶應大学1982年卒／在任期間 2005年～現在

この期間の外科教室の名称は、当初瀬田外科であったが昭和31年第2外科の新設にともない、以後は第1外科教室と称し、平成18年よりは統合により外科教室となった。

###### 2) 第1外科教室在籍者数の変遷（多少不正確）

1949年 9名、1955年 25名、1968年 59名、1978年 39名、1988年 44名、1997年 45名、2007年 45名。

昭和45年頃教室員数は大学1の大所帯となった。

《以上は岩手医科大学40年史昭和43年出版の第1外科教室史－小生分担執筆などよりの引用である》



#### C 関連病院の変遷（岩手県内に限定）

##### 《1955年頃》

- 病院長（第1外科に在籍した）－なし
- 関連病院 国立盛岡・花巻温泉、済生会黒沢尻、松尾鉦山、盛岡鉄道、岩手サナトリウム、県立一戸・世田米病院など。

##### 《1970年頃》

- 病院長（第1外科に在籍した）県立大槌・世田米病院の2病院
- 関連病院（一般病床200床以上に限定）県立久慈・釜石・福岡、盛岡赤十字、済生会黒沢尻病院の5病院（他に県外4病院）

##### 《2008年（現在）》

- 病院長（第1外科に在籍した）県立大船渡・宮古・久慈・釜石・千厩、済生会北上・盛岡友愛病院の7病院。
- 関連病院（一般病床200床以上に限定）県立大船渡・宮古・久慈・二戸・釜石・盛岡赤十字・済生会北上・盛岡友愛病院の8病院。（他に県外4病院）

#### 2.現外科教室への希望

##### 1) 外科学の研究－現在標準以上のレベルと推察。

##### 2) 外科教室員教育の基本（私見）

- 病を医すのみでなく人を医す外科医の育成。
- 外科全般を診療出来る外科医の養成。
- 主要疾患について手術後予後調査を実施し、進歩・反省の可能な診療体制。
- 教室員個々の将来の進路（教室の幹部・勤務医・開業医など）を考慮した指導教育。

3) 教室関連病院について現在関連病院との連携は良好であると思います。今後は教室員数と関連病院数の調和を図りつつ、関連病院数の多さのみでなく、教育関連となる基幹病院の充実・増加への努力を希望します。以上については、教授を中心とする幹部の長年の尽力によりますが、近い将来期待に応じてくれる外科教室になるものと信じております。

## 第2回みちのく ウインターセミナーに参加して

阿部 正

昨年（平成19年）2月「第1回みちのくウインターセミナー」が安比高原で開催されるということで、医局からご案内をいただきましたが、恒例の久慈病院北海道スキーツアーと重なってしまい、団長の私としては断腸の思いでセミナー不参加を決めました。参加された先生方から後で「阿部はどうして来ないんだ」といわれ申し訳なく思っておりました。そんなこともあって20年1月19-20日の第2回は万難を排して、19日朝から参加しました。土曜日なのに安比高原がこんなに空いていていいのかとよけいな心配しながらも若林教授や池田准教授、川崎市立井田病院の川原先生らとゲレンデを独占、ひさしぶりに最高のパウダースノーを楽しんだ後、合流した森昌造先生とともに盛岡グランドホテルに移動し、2時間のウインターセミナーに参加しました。スキーのほどよい疲れもあったので、やがて襲ってくるであろう睡魔対策としてセミナーは後ろのほうで聞いておりました。しかしながら、始まってみると信じられないことに、眠気どころかどんどん4人の教授の講演に引き込まれて、座席が前方に移動してしまいました。講師は講演順に北川雄光教授（慶応大外科）の「食道癌の集学的治療」、瀧内比呂也先生（大阪医大化療センター長）の「胃癌の治療戦略」、海野倫明教授（東北大肝胆膵外科）の「肝門部胆管癌の外科治療」、渡邊昌彦教授（北里大学外科）の「大腸癌に対する腹腔鏡下手術」でした。何が素晴らしいって、4人の教授の講演はすべて大きなタイトルにもかかわらず、コンパクトにまとめられてわかりやすく、2問のくらいの質疑応答を含めて狂いなく30分できっちり終わり、しかも聴衆

を引き込むようなattractiveな講演であったということです。医局の各グループのチーフが担当した座長も講演に花を添えていました。懇親会でも翌日のスキーでもセミナーの講演が絶賛されておりました。

安比グランドに場所を移しての懇親会では、若林教授からのセミナーを始めた経緯等のお話がありましたが、私が在局時代に森昌造先生のかばん持ちで参加させていただいた「立山がんセミナー」で全国のご高名な先生方のすばらしい講演を拝聴し、一緒にスキーができることの楽しさすばらしさが、若林教授の号令の下、この地でもできるようになったことは私にとっても多くのスキーファンにとっても大きな楽しみであり、ぜひとも継続してもらいたいものです。

翌日は4人の講師のほか大阪大学松田暉前教授や東北大学松野正紀前教授、栃木県がんセンターの尾形佳郎先生ともゴンドラに同乗し、一緒に滑ることができ楽しい1日を過ごすことができました。若林教授をはじめ北川教授や海野教授、松田暉前教授は学生時代スキー部でゲレンデでも若々しく瞳が爛々と輝いており、教授たちのパワーの根源を窺い知ることができました。

それにしても森昌造先生（76歳とお聞きしました）の新雪に描く見事なシュプールはなんら現職のころと変わらず、技術もスピードも体力もただただ目を見張るばかりで、池田健一郎准教授と後ろを追いかけながらこのように年を取りたいものだと思感し、この2日間で大きなスピリットをいただいて帰りました。



## 医学部5学年に対する 新たな教育法の試み

佐々木 章

平成19年度から医学部5学年に対して外科学講座主導の新たな教育法を試みておりますのでご報告いたします。第一は、大学の臨床実習では経験できない地域医療を理解するために、開業医実習（第1週火曜日の3・4時限）を取り入れたことです。実習の実現には、わたなべ肛門科クリニック（渡辺正敏先生）、しんたろうクリニック（菊池信太郎先生）、雫石大森クリニック（大森浩明先生）、細井外科医院（細井義行先生）に多大なるご協力をいただきました。平成19年12月の巖刀会忘年会の席で感謝の気持ちも含め、地域医療修練施設証を交付させていただきました。この実習は学生からも好評で、今後も継続していきたいと考えておりますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

第二は、「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」に基づく実践型実習を開始したことであります。5学年の臨床実習中に内視鏡下手術シュミレーター（VRS）を用いた実習、ブタを用いた外科基本手技修得実習を行い、実践的な技術を身につけさせることを目的といたし

ました。VRS実習では、5つのタスクを2週間トレーニングさせました。スコア化による評価では、トレーニング後に有意な学習効果が認められました。ブタを用いた外科基本手技修得実習は10人程度のグループに分け、土曜日を利用して実施しました。実習時間は3時間で、ブタの解剖についての講義後に2匹のブタを使用して実習を行いました。開腹手術モデルでは、開腹・閉腹操作、血管結紮・切離操作、腸切除・吻合、胃切開・縫合、胆嚢摘出術など、腹腔鏡下手術モデルでは、トロカー挿入、内視鏡・鉗子操作、血管のクリッピングと切離、胆嚢摘出術などの実習を行いました。実習後のアンケート調査では、動物実習は大変有意義（77%）、VRS実習よりも動物実習が有意義（67%）であり、動物実習に対する満足度が高い結果でありました。これらの実習を経験することは、将来の医療事故防止、基本外科手技の向上が期待でき、特に動物を使用した実践的な実習では学生に医療措置における生命の尊さを実感できる利点の多い実習と考えております。



## 肝移植の立ち上げから現状まで

高原 武志

今日、肝移植とは、内科的治療にて救命出来ない末期肝不全患者に対する最後の治療手段として位置付けられています。肝臓移植手術には、脳死肝臓移植と生体部分肝臓移植の二つに分けられ、生体肝移植は、健康なドナーから提供された肝臓の一部を移植する手術で、日本で行われている肝臓移植手術の99%にあたります。これまで国内で約4000例以上の生体肝移植が施行され、欧米の脳死肝移植と比較しても優れた成績を残しています。

本学でも若林教授のもとで2007年1月より生体肝移植が始まり、2008年2月までで7例の生体肝移植が施行されました。

外科医だけでなく、麻酔科スタッフ・臨床病理・臨床検査・手術部の看護スタッフ・ICUの看護スタッフ・西4階と西5階の看護スタッフ・放射線科・肝臓内科・精神科・薬剤部・栄養科・医療事務・ソーシャルワーカー・透析室・その他多数の方々の力が結集して、生体肝移植医療は行われています。



●（表1）本学における生体肝移植症例

	Date	Age	Sex	Donor	Age	Graft	Blood combination	Current state
1	07/1/15	57	M	HCV-LC-HCC	27	Right	Compatible	PS 0
2	07/7/30	1	F	BA	29	Lateral	Incompatible	PS 0
3	07/9/12	56	F	HCV-LC-HCC	30	Right	Identical	PS 0
4	07/10/22	56	F	Unknown-LC	57	Left	Compatible	ICU
5	07/11/12	49	M	HCV-LC-HCC	54	Right	Compatible	PS 0
6	08/1/7	57	F	PBC	32	Right	Identical	PS 0
7	08/2/18	56	F	AIH	32	Right	Identical	ICU



● (表2) 移植関連スタッフ

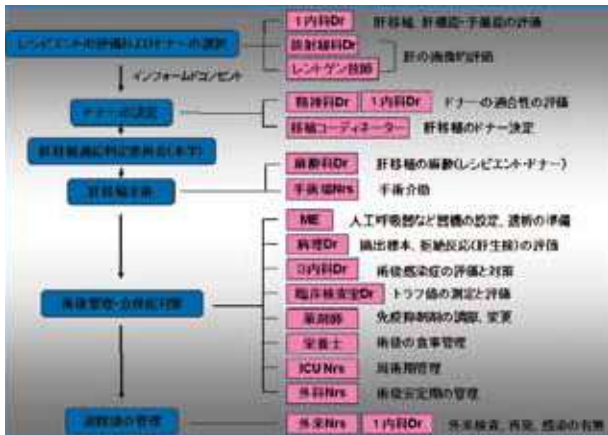


表2でわかるように、移植医療は病院全体の協力を得て乗り越えられるいわば病院の総合力が問われる医療であり、これ程短期間に生体肝移植の症例を積み重ねられたのも関係各部署の協力があつたからだこそと痛感しています。これから、さらに症例は増えていく可能性があり、病院全体としてさらにレベルアップしていくことが何より重要だと考えています。

移植手術に関してですが、ドナーは術前のCTシミュレーションソフトを用いて、予想グラフト重量・脈管解剖や副肝静脈の灌流容積を測定し、ドナーの機能的残肝容積を確認して、レシピエントの体重や標準肝容積との割合からグラフトを選択します。生体肝移植手術においてドナー手術の安全が最も重要で、ドナーの術前肝予備能評価に細心の注意を払っています。

一般的には非常に大きな傷でドナー肝切除を行っていますが、生体肝移植ドナーに関する調査によると、手術後に傷のひきつれや感覚のマヒ、ケロイド、膿がでたなどの症状を、

術後1年までが36%、1年以上経過しても約20%の方が訴えているのが現状です。岩手医科大学では1997年から腹腔鏡での肝切除を開始し、2007年までに120例を越える手術をしており、日本で最も腹腔鏡下肝切除術を行っている施設の一つであり、肝臓外科、内視鏡外科に精通した手術スタッフを豊富に有していることから、安全性が最も重要となるドナーへの肝切除にも腹腔鏡補助下肝切除術を導入しました。2例目以降、ドナーに腹腔鏡補助下肝切除を全例導入し、全員1週間で合併症なく退院され、現在全員社会復帰されています。

レシピエント手術ですが、ドナー手術の進行具合をモニターで確認しながら、全肝摘出を施行し、グラフト到着後、肝静脈・門脈を吻合し再灌流し、次いで肝動脈・胆管を吻合します。術後1週間はICU管理で、その後一般病室に戻り順調であれば約2か月弱で退院されます。

最後に、生体肝移植は末期肝不全のレシピエントを何とかして救済したいというドナーの尊い自発的な意思によって成立する医療であり、我々移植スタッフもそれにプロフェッショナルな意識を強く持ち、取り組んでいきたいと思っています。世界有数の肝・小腸移植施設である米国マイアミ大学で活躍中の加藤友朗先生が言われているように、移植手術・移植の術後管理は、どんなに疲れていてもどんなに忙しくても、納得がいくまで追求し、GoodではなくPerfectを目指すべきだと思っています。それが、ドナーの尊い自発意思に対する我々移植スタッフの責任だとも考えています。

当院で生体肝移植を受けたいと思われる方や生体肝移植についてお話を聞きたいと思われる方には、是非気軽に外科外来もしくは第1内科外来を受診されることをお勧めいたしますようお願いいたします。

# 03 March

## 壮行式

川村英伸先生、小川雅彰先生、中屋 勉先生、佐々木英之先生、秋山有史先生。どこに行っても心は一つ。頑張りましょうー!!



板橋哲也先生がiPos賞を受賞しました。

# 04 April

## 第107回日本外科学会総会

〈4月11日～13日〉

06  
June



6月3日は  
チャグチャグ馬っこ



若林同門会会長挨拶



森先生の音頭で乾杯!



翌日の同門会ゴルフコンペ《6月3日》

### 同門会総会《6月2日》



### 中国医学会でのライブ手術

《6月21日》

腹腔鏡下結腸切除術を大塚講師が当院手術場と  
上海・台湾・福岡を結んで行いました。

06  
June



みんな日頃の行いが良いおかげで、今年も快晴。ケガもなく、家族みんな  
いい笑顔。



毎年恒例となった、「北上川ボート下り」。いざ出発!

### 北上川ゴムボート川下り大会

《7月29日》

07  
July

# 08 August

## ISW 2007 in Montreal

《8月30日～9月1日》

若林教授、佐々木章准教授以下、中嶋先生、大淵先生、馬場先生が発表しました。



8月1日はさんさ踊り。病棟スタッフもこの通り!



## 岩手県医師会野球大会 《8月19日》

恒例のことですが、今年もようやく9人集まりました。モットーは「勝ち負けにこだわらず、楽しく、ケガなく」です!でも悔しかった!!

# 08 August



質疑応答も活発でした。



真剣なまなざし。

# 09 September

## テレビカンファレンス 《9月21日》

「内視鏡手術の際の環境の工夫」手術場スタッフ中心にテレビカンファレンスを開催。全3カ所と中継しました。

## 池田健一郎准教授腫瘍センター長就任記念祝賀会

池田健一郎准教授が腫瘍センター長に就任しました。みんなに祝福されてニコリ!良い笑顔。

09  
September



## 第1回肝臓内視鏡外科研究会

《11月29日》  
若林教授が立ち上げに尽力された、  
肝臓内視鏡外科研究会が開催された。

11  
November

## 第69回 日本臨床外科学会

《11月29日》  
第69回日本臨床外科学会にて大淵先生が「岩手県における遠隔医療カンファレンスの現状」を報告し、岩手日報で紹介されました。



村井英夫先生が叙勲を受けられました。



同門会を「巖刀会」と名付けて初めての忘年会。



「地域医療修練施設に対する認定証」が学生の地域医療実習でお世話になっている渡辺先生、菊池先生、大森先生、細井先生に授与されました。



今年、一番会場を湧かせていたのは写真の「ビリー」

## 外科学講座同門会「巖刀会」忘年会

《12月8日》

12  
December

## 岩手県立久慈病院

Iwate Prefectural Kuji Hospital

久慈病院の歴史につきましては前年号に載せましたので省略しますが、同門では昭和61年から平成6年までの9年間、故盛合薫夫先生が院長職を務めています。盛合先生は医大や県医療局との太いパイプによって久慈病院の医師を増員し、病院管理棟を増築して旧病院を建て直した功労者です。

平成20年1月現在のスタッフは阿部正（院長）、下沖収（外科長／医局長）の下に医局から常勤医2名派遣していた

だいております。現在は伊藤直子さんと箱崎将規君です。また心臓血管外科／救急医学講座所属の皆川幸洋先生（平成2年卒、救



命救急科長）がスタッフの一員として救急、血管外科、肺外科を中心に手伝ってくれていますし、心臓血管外科医局から月2回サポートがありますので、外科トランクが肺がんや腹部大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症など肺・血管外科の手術を経験できるのも久慈病院の特徴です。さらに大学から乳腺班の柏葉講師や武田先生、小児外科の水野准教授、種市病院から荒谷先生のほか、大学から随時手術応援をいただいております。阿部が外科の、下沖が細菌学の非常勤講師として大学の講義を受け持っています。

平成19年のイベントとしては、6月23日阿部が総会長として第21回東北救急医学会（日本救急医学会東北地方会）を盛岡市アイーナで開催させていただきました。テーマは「救急医療とIT化」で700名以上の参加者で成功裡に終了致しました。



久慈病院は岩手医大生の臨床研修先として、義務化された平成16年から臨床研修医を受け入れ、初期研修修了後はほとんど岩手医大に返ってきました。その数は他大学で研修中の2名も含め3年で計12名になります。初期研修医の中からこれまで平成18年に菅野将史君、平成19年に馬場誠朗君が外科に入局しました。平成20年には外科志望の研



修医が2人来る予定です。全国的に外科系の志望者が少ない中、入局者がいることは大学の外科医局の魅力を示していると思いますし、久慈病院としては初期研修の場で外科の楽しさを教えながら医師としての人間教育をしていきたいと考えています。まだ進路の決まっていない研修医も来ますのでそういった学生になんとか外科の楽しさを教えて入局を勧めています。

限られた医療圏（7万人）のなかですが消化器を中心とする内科が充実しており手術症例が多いこと、救急センターがあるため救急搬送患者が多いことから待機手術、緊急手術も多く周術期管理、輸液・栄養管理、緩和医療、院内感染対策等いくらかでも勉強できます。研修医だけでなく医局トランクも幅広い研修ができます。学生たちが臨床研修を希望する病院、また医局員が出張に行きたがるような魅力あるマグネット病院にしたいといつも考えています。

急性期病院として平成20年からDPCが本稼働します。IT化への取り組みも進んでおり、すでにフィルムレス装置は導入済みで20年のフルオーダーリング、21年の電子カルテ導入も決まっています。医療機器整備も64列MDCT、MRI（1.5T）も整備されています。これだけの機器が揃っていて足りないのは指導医数です。3年前には50人以上（研修医含む）いましたが今は39人、研修医がいなくていけない状況です。医師が足りないのは国の政策が悪いと言ってしまうかもしれませんが、これから大学の医師が充足されて、関連病院の医師が増えて、久慈病院の医師も60名くらいになって、外科スタッフも7～8人、これって医師が人間的な生活ができて医療の質を維持できる最低必要人数だと思うのですが、いまの私にとって定年までに実現する可能性は皆無、夢みたいな話です。



#### 《外科関連施設認定》

臨床研修病院（医師、歯科医師）、日本医療評価機構認定病院、ISO14001登録病院、日本外科学会専門医修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本救急医学会専門医指定施設、日本がん治療研修施設、日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設

#### 《指導医スタッフ》

阿部 正：外科専門医／指導医、消化器外科専門医／指導医、救急専門医  
下沖 収：外科専門医／指導医、消化器外科専門医、救急専門医、ICD、がん暫定教育医  
皆川幸洋：外科専門医、胸部外科認定医、救急専門医  
救急専門医は院内に4名、ACLS・JATEC取得者10数名で救急専門医指定施設です。

#### 《外科の行事・イベント》

毎週1回：消化器科との症例検討会、術前症例検討会、マンモグラフィ読影会  
毎月1回：英文抄読会、死亡症例検討会、緩和ケア勉強会、2ヶ月毎：CPC  
毎年3回：東北外科集談会（久慈、二戸、一戸、軽米ほか）  
毎年2回：開業医との紹介症例報告会、救急症例検討会等  
毎年1回：久慈病院スキーツアーや医大外科ウインターセミナーへの参加  
久慈病院はハイレベルで院長、外科長はじめ有資格者がズラリ  
不定期：超特級ワインやスコッチ30年ものを堪能する会です。初オベ謝金、ペナルティ（発表や論文の義務不履行）を出しあっておいしい料理と普段飲めないお酒をいただく会です。もちろん Selection は Sommelier Abe 担当です。初参加者は感激しますよ。

## 岩手県立軽米病院

Iwate Prefectural Karumai Hospital

当院は岩手県の北端に位置する一般病床と医療型療養病床を併せ持つ病院です。医師不足が深刻なこの地域において、近隣の県立病院や岩手医大、東北大学などから応援をいただきながら地域に根ざした医療を行っています。外科学教室からも応援をいただいております。皆様には本当に感謝の念は絶えません。

さて、医療改革が進む中、当院は2つの明確な方針を打ち出しております。

一つは軽米町を中心とした地元の一次医療への取り組みです。軽米町内の救急搬送の70～80%が当院に来ます。できることは地元で行い、専門的な検査・治療が必要な場合には中核病院等へお願いしています。もちろん、近隣病院への支援も忘れずに行っており、二戸病院・九戸地域診療センターへは毎週応援に出向いております。また、糖尿病をはじめとした生活習慣病の治療や予防活動にも力を入れており、教育入院も積極的に受け入れています。

二つめは二戸圏域・久慈圏域を含む、広い岩手県北の慢性期医療を支える病院を目指すことです。

当院は療養病床45床を有し、脳卒中などのリハビリテー



ションを行う体制もあります。また、褥創対策については早くから湿潤療法を取り入れており、早期回復が見られております。NSTも歯科医師の加入もあって、積極的にラウンドをしており、患者さん達の指示を全科にわたって出すことが可能なシステムになっています。緩和ケアにも積極的に取り組んでいま



す。また、毎月保健医療福祉連絡会を行っており、ケアマネージャーや施設の方々たちとも密な連携をとって、次の受け入れ先の相談も行っています。以上からも、中核病院で急性期の治療を終えた患者さん達を、地域の中で見て行くことが可能になっています。

これらが徐々に認知された結果、今年度は一般・療養の全体でも病床稼働率90%超で過ごすこともできました。

今後は、医療を取り巻く環境が今まで以上に厳しい状況となることが予想されますが、近隣の中核病院と連携しながら邁進する所存でございます。大学関係の皆様にはこれまで以上にご指導・ご鞭撻をいただきたくよろしくお願い申し上げます。



## 岩手県立沼宮内病院

Iwate Prefectural Numakunai Hospital

平成14年10月現在地（岩手町五日市地区）に新築移転し診療科は内科、外科、整形外科、リハビリテーション科でベッド数60床です。常勤医4名の当院にとって平成19年は大変な年となりました。

内科医1名が突然退職したため、外来、入院、検査、手術、当直等すべての業務に影響が出ました。

地域の病院として取り組んでいる公衆衛生活動にも影響が出ており検診数も約5%減っております。集団検診約6500名、個人検診約100名、予防接種約800名を行いました。集団検診の内訳では大腸癌一次検診約4500名、乳癌一次検診約500名、一般健康診断役1500名を行いました。また、大腸癌二次検診約450名、乳癌二次検診約200名を行いました。マンパワー不足から訪問診療は月4回から1回となりました。



また、大腸癌二次検診約450名、乳癌二次検診約200名を行いました。マンパワー不足から訪問診療は月4回から1回となりました。

当院の内科の検査数は上部消化管内視鏡700例、下部内視鏡750例、超音波検査900例、入院での大腸ポリペクトミー70例でした。

外科手術は14例で全麻は1例しかありませんでした。整形



外科は全麻0でした。

診療応援は岩手医科大学第一内科（火、水）、整形外科（月、木）。岩手県立中央病院循環器科、脳外科（2回/月）、小児科（月、金）、皮膚科（火）、耳鼻科（隔週水曜）より受けていますが、循環器科は月2回から1回となりました。

この状況下、唯一の救いは研修医で岩手県立中央病院2年次研修医を地域医療研修として引き受け平成19年度は5名で計10ヶ月の研修をしていただきました。研修医が大きな戦力となっており、50代以上の常勤医より多くの仕事をしてもらい大変助かりました。平成20年度も5名で計10ヶ月の予定です。

外科学講座医局からも数回の当直応援をいただき大変ありがとうございました。今後ますますお願いすることが増えると思いますが何卒よろしく願いいたします。

医局の先生方、沼宮内は近いですからいつでも当直にいらしてください。

## 岩手県立釜石病院

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

平成19年は釜石病院にとって大きな変革の年でありました。釜石市民病院との合併（事実上は市民病院の閉院）に伴い外来・入院数は増え、また市民病院から異動となった二人の東北大学第2外科の医師も退職され、三年前の岩手医大外科学講座純正のスタッフに戻りました。

5月には10年間釜石病院の院長を勤められた八島良幸先生が、大船渡病院へ移られ、遠藤秀彦先生が新院長として千厩病院から赴任されました。

外科のスタッフは吉田徹（S59）小原眞（H4）藤田倫寛（H13）に加えて6ヶ月トランクの若い先生方（菅野将史、石田和茂、馬場誠朗）を派遣していただいて忙しい中にも楽しく仕事させていただきました。

平成19年度は手術件数501件（全麻270件、腰麻82件、



局麻149件）でしたが、大槌病院の全麻手術症例28件の手伝いに全例当院から出掛け、石黒先生の御努力のおかげで、大槌在住の方も地元で治療を完結できる症例が増えた事も今年の大きな収穫でありました。

今年は腹腔鏡下胆嚢摘出は全例吊り上げで行う方針とし、直腸腫瘍は症例を選択してTEMを行い、ヘルニア手術にはDirect Kugel法を術式の選択として加えまし



た。また、腹腔鏡下大腸手術やLADGなどの最新の手術手技も、医局の先生方のご指導を受けてその習得に努力している所であります。今年、緊急全麻手術が52件と増加しこれに緊急 Appe37件が加わり忙しい一年となりましたが、毎月スタッフ持ち回りで英文抄読会も開催し、Annals of surgery 等の最新の文献の輪読を行い、日常診療に役立つ努力をしております。

医局の若い先生方が派遣されてくることにより、常に新しい風を釜石の医局に吹き込んでいただける事は本当にあ

りがたい事と思っております。

今後も外科学会、消化器外科学会の専門医の教育関連機関



であり続けられるよう努力していきたいと考えております。

## 岩手県立千厩病院

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

平成19年は当院にとって大きな移動がありました。それは5月に遠藤秀彦院長が岩手県立釜石病院へ転勤となり、私が岩手県立二戸病院より院長として赴任しました。当院は平成16年ごろより診療科縮小を余儀なくされ、常勤医師は外科3名（佐藤一・遠野千尋・伊藤達朗）、消化器科2名、循環器科1名、泌尿器科2名、自治医大よりの内科研修医1名、2年次初期研修医1名、そして12月より2年次初期研修医が1名加わり合計10名です。この人数で千厩病院（入院149人/日、外来389人/日）を運営するのは大変なことです。

外科の業務は昨年より整形外科休診に伴い、整形外科外来（36人/日）を週3日行っており、外科外来（53人/日）、病棟回診（37人/日）、午後手術と多忙を極めています。しかしながら医局より月曜日の外来：池田健一郎准教授、火曜日の当直および水曜日の外来：木村祐輔助教、木曜日の当直および金曜日の午後：小笠原聡助教の応援をいただい



ています。

当科の特徴は手術症例の平均年齢が68.2歳（全身麻酔144例中70歳代61人、80歳代26人、90歳代2人）と高齢で、必ず糖尿病や循環器系、呼吸器系の基礎疾患を持っている人々を診療対象としていることです。また、疾患は消化器がん、乳がん、甲状腺がんなどの他に骨粗しょう症、腰痛などの整形外科疾患、蜂窩織炎などの糖尿病合併疾患、急性肺炎、栄養障害などがあり、そのほとんどは70歳以上の患者です。

以上のような状態が毎日続くと診療レベルがダウンしてしまうので今年6月より佐藤、遠野は手術見学のために月に1回以上は教室へ行っています。皆さん、このような千厩病院の外科を今まで以上に応援してください。若い医局員の皆さん、当院は日本外科学会専門医修練施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設に認定されており、高齢者外科総合医の研修でしたら当院がぴったりですので是非来てください。

## 岩手県立大船渡病院

Iwate Prefectural Ōfunato Hospital

岩手県立大船渡病院は岩手県沿岸南部に位置し、精神病棟105床、救命救急センター20床を含む479床の気仙医療圏の広域基幹病院であります。当院は病院機能評価認定、ISO14001認証を取得しておりますとともに、救命救急センター併設のため脳死下臓器提供施設に指名されております。

気仙医療圏の人口は大船渡市、陸前高田市、住田町の2市1町で約8万人であります。医療局の県立病院改革により、県立高田病院は平成16年度に1病棟休止となりましたし、県立住田病院は平成20年度より診療所化が決定しております。気仙地区の医療をまもるためには当院の充実・強化が不可欠となっているのですが、岩手県沿岸部の医師不足は



厳しく、なかでも当院は内科系を中心に深刻なものとなっております。

平成10年の救命救急センター併設を



きっかけに、東北大二外科のジッツであった外科に岩手医大一外科2名が参入し今日に至っております。平成19年の外科の体制は、副院長の蔵本純一（平成19年6月退職）、第1外科長の小山田尚、血管外科を専門とする第2外科長玉手義久、医長の尾崎雄飛、児玉秀夫（平成19年11月宮古病院産婦人科医として転任）。岩手医大外科より院長の八島良幸（前任菅野千治より19年5月1日交代）、救急診療科長の村上雅彦、医長の中屋勉。常勤外科医8名体制でありましたが、19年末には2名減で6名（院長を除くと5名）体制となりました。村上先生は平成20年2月より能代の山本組合病院に転勤予定であり、写真には後続の木村聡元先生が入っております。また、非常勤医としては、平成19年7月から中嶋潤先生、冨澤勇貴先生に月2回当直を含めてお手伝いいただき大変ありがたく思っております。

ちなみに、平成19年の手術数は全手術数746例（全麻：523、腰麻：65、局麻：158）で、うち内視鏡下手術87例、緊急手術146例でありました。

## 岩手県立二戸病院

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

2007年は二戸病院外科にとって激動の1年でした。2006年暮れの病院機能評価 ver.5 の認定に引き続き、2007年1月31日の地域がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会において岩手県で2番目の地域がん診療連携拠点病院の認定を受けることができました。約1年という準備期間ではありましたが、これまでの緩和ケア支援委員会の機能を強化するとともに、緩和ケアチームを立ち上げ、外来癌化学療法室、カシオペアがんなんでも相談室等を設置し、院内をはじめ広く地域の患者さんのきめ細かいケアを行うべく準備を進めました。また認定に前後してオンラインでの患者紹介システム（メディカルネットカシオペア）も立ち上げ、迅速・双方向でのがん診療をはじめとした病診連携を目指しています。更に岩手県地域がん登録を包括する形で厚労省の奨める院内がん登録システムの構築を行っており、これらのシステムは2008年度に稼働する電子カルテと連動する予定です。

緩和ケア領域の業務では1997年5月から取り組んでいる在宅ホスピス事業が満10年を迎えました。11月の時点で症例数は



50例となり、男女比は25：25、平均年齢69.7才、平均の在宅日数59日、訪問診療回数9.1、訪問看護回数22.0、在宅で看取った症例は27例（54.0%）を数えました。手術が立て込んでいるときにはスケジュール調整に四苦八苦していますが、地元の訪問看護ステーションとの連携も徐々に成熟し、地域からも暖かい励ましの声も聞かれ、だいぶ浸透してきていることを実感しています。

当院の緩和ケア病床は外科病棟の一角に2床を有しており、通常の4床室の広さににベッドを2台置き、隣でご家族も一緒に過ごせるようにしております。年間の利用患者数は約33例で、平均在室日数は13.7日であり、常に1床は利用されている状態

です。家族と一緒に過ごしたいが、在宅までは行けないという患者さんのための重要な選択肢と考えております。

4月に迎えた坂本副院長を中心として菊池、菅原、川崎の常勤4人体制で診療を行っております。一戸病院の藤社先生、軽米病院の葛西先生の手術応援、また外来応援として教室から柏葉先生（乳腺外来、月）、高橋先生（月）、新田先生（金）、救急センターから山田先生（木）に来て頂いております。当院からは一戸、軽米への手術応援、4月から診療所化した九戸地域診療センターへの外

来応援を週2回行っております。これからもカシオペア管内の要として地域の連携を密にし、また特になん診療においてはがん診療連携拠点病院として教室との連携を更に強く進めていきたいと存じます。より一層のご支援をよろしくお願いいたします。



## 盛岡市立病院

Morioka Municipal Hospital

当院は昭和35年に鉾屋町に開業、平成11年7月1日新病院を本宮に開業いたしました（Fig.1）。地上8階建てで1、2階は外来部門、3階は手術棟、4階～6階が一般病棟、7階が精神科病棟、8階が運動療法室で無料駐車場を502台分用意しております。病床数は、一般病床180床、精神病床80床、感染症病床6床の計266床であり、個室を一般病棟の約3割とし、大部屋は4床室としております。診療科は、昨年より産婦人科、小児科の休診のため消化器科、糖尿病代謝科、循環器科、呼吸器科、神経内科、外科、整形外科、耳鼻科、眼科、麻酔科、精神科、歯科、皮膚科となっております。今年より地方公営企業法の全部適応により県立病院と同じ形態となり岩手医科大学第一内科より加藤章信先生を事業管理者兼院長として迎え、経営改善を進めております（県立病院では、医療局長が、事業管理者。）

近年盛南開発により、田園地帯であった本宮地区もすっかり様変わりし、周辺にはアイスアリーナ、市立総合プール、子ども科学館、県立美術館等の文教施設、盛岡南サテイ等の大型商業施設が立ち並び、杜の大橋の開通により盛岡駅よりのアクセスも良好となり、マンションの建築も進められております。



外科は須藤隆之外科科長（昭63卒）、江村栄章外科医長（昭50卒）、岩手医大外科より1年派遣医師大淵徹医師（平14卒）の3人で診療を行っております。外科病床数は15床であります。外来は、月、木は、江村、水は、岩谷岳医師（岩手医大外科より外来応援）、火、金は須藤が診察を行っております。手術日は、月曜日から金曜日としております。昨年須藤は、日本がん治療認定医機構の暫定指導医を取得し、当院も認定研修施設となることができました。また、平成20年1月に行われた



がん治療認定医試験に須藤、大淵両名が合格いたしました。今後、更なる研鑽に努めていきたいと思っております。

平成16年よりクリニカルパスを導入し胃切除、結腸切除、脾頭十二指腸切除、肝切除、化学療法など30種類のパスを紙パス運用していましたが平成18年2月の電子カルテ導入に伴い現在は、54種類の電カルパスを使用しています。

平成17年よりNutrition Support Team（NST）を立ち上げ、池田准教授のお力添えにて医大NST回診に薬剤師、栄養士、看護師をそれぞれ1名ずつ参加させて頂き、昨年NST専門療法士試験に富山道彦薬局長が、今年は、村上尚子看護師が合格いたしました。また、本年よりNST稼働施設、NST認定教育施設になることができました。

今年より4床で外来化学療法室も運用しております。

盛岡市内には、岩手医大病院、県立中央病院、盛岡日赤病院と大病院があり、当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

昨年より、若林教授のご高配により岩手医大外科医局より1年トランクの医師を派遣頂けるようになり、第一期医師として伊藤直子先生に来て頂きました。これを期に消化器科、外科病棟合同送別会を温泉一泊で企画いたしました（Fig. 2）。恒例行事として続けていきたいと思っております。来年の同門会誌には大淵先生のPhoto掲載予定となっております。

## 盛岡友愛病院

Morioka Yuuai Hospital

盛岡友愛病院の外科スタッフは現在、長澤 茂（院長）、吉田弘之（心臓血管外科）、多田隆士（乳腺外科）、西成尚人（消化器外科）、千葉 覚（消化器・血管・小児外科）、藤井祐次（呼吸器外科）の計6名で、昨年手術件数も外科、眼科、脊椎・神経外科医師の増員で年間150件以上増加して1220件となり、3室のみの手術室は手狭になりつつあります。

研修医は主に、盛岡赤十字病院から「地域医療枠」として年間1~2名を受け入れています。研修医からの評判もまずまずのようです。

さて2007年の出来事ですが、1月には病院内に「通所リハビリテーション」をオープンし、2月には通院化療者の増加を踏まえて「外来化学療法室」を開設、3月からは院内連絡用の携帯電話を採用しました。ですが、10月に「医療福祉複合施設 ゆうあいの里」を開設したことが何より



大きな変化でしょう。

当院に定着している年間行事には「盛岡さんさ踊り」への参加、地域の皆様や患者さんを対象にした「友愛さんさ」、年2回の「星をみる会」（盛岡天文同好会）、「院内卓球大会」、「山と自然を愛でる会」主催の登山、他にも新館7階ホールを利用した歌謡ショーやグリーンコンサート（盛岡吹奏楽団演奏会）、「食と健康祭り」、つなぎ温泉での「友愛病院大忘年会」などがあり、日々多忙な職員と高齢化傾向にある医局を盛り上げています。

また、当院の理念は「地域に密着した、親切で、思いやりのある病院」であり、この時代に、あえて「患者さま」とは呼ぶことはやめ、「患者さん」と「私たち」という関係を大切にしたいと考えています。

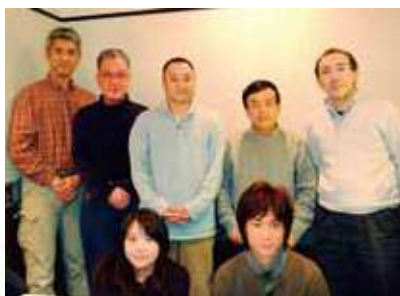
これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院は現在の地に移転してから、昨年の12月で20年が経過しました。現在では盛南地区の中核病院としてその機能を十分に果たしています。

昨今、とくに本院のような急性期病院の経営状況は厳しく、当院でも平成14年以來の収支は毎年赤字が続いていました。これに対し、平成18年4月診療報酬包括化DPCを導入し、これに併せ、外来化学療法室、内視鏡センターを設置、クリニカルパスの推進、ジェネリック薬品への切替等の対策を行ってきました。19年4月からは7対1看護規準を導入しました。これにより入院料単価の上昇が大きく、19年度は念願の黒字収支になる予定です。しかし、



現在入院患者数が減少しており、その確保が重要課題となっています。

外科に関しては、現在常勤5名（旭博史、杉村好彦、畠山元、馬場



祐康、小川雅彰）、研修医1名で、病床数が44（小児外科2を含む）です。前年度より患者数が増加しており、平成19年の症例数は、一日平均外来患者数56人、平均入院数37人、平均在院日数は13.4日でした。手術総数は667例（45例増）で、そのうち全身麻酔症例が505例（84例増）、小児外科74例、内視鏡手術が161例（32%）、急患手術が102例（20%）、PEG60例でした。また、外来化学療法室の月平均症例数は156例で、うち外科症例が107例と最も多く、毎日担当1名であっています。症例数、内容ともに豊富で外科学会はもちろん消化器外科専門医取得にあたり認定施設として十分機能しています。

緩和ケア病棟の新設が本年2月に日赤支部により承認され、7月着工、21年3月竣工、5月開設予定となりました。

厚労省施設基準に基づく病棟で、病院敷地内に外建で平屋、病床数22、全室個室で、医師数は2名で外科で担当することになりました。現在、緩和ケアチーム、NSTも外科

中心で運営しており、スタッフの不足が顕著となってきており、早急な増員が望まれます。

## 函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

平成19年の総手術件数は1136例（全麻823例）で前年とほぼ同数でした。ただし、5年前に比べると300件以上の増加となっております。平成19年4月から赴任した秋山有史先生と御供真吾先生は9ヶ月間で術者としてそれぞれ140例以上の手術を執刀しております。また、救急疾患に伴う緊急手術は100例を超えており、入野田 崇先生を中心に対応しております。癌関連における手術では特に大腸癌手術が184例と最も多く、腹腔鏡下大腸癌手術は96例（52.2%）と年々増加しております。また、乳癌、胃癌とも100例以上の切除症例数であり、いずれも道内屈指の症例数です。そこで当院では平成20年4月の地域がん診療連携拠点病院認定のため整備を進めており、当科では全国に先がけて平成19年6月から乳癌連携パス、9月から胃癌術後補助化学療法連携パスの運用をはじめました。また、11月には消化器癌の鏡視下手術を中心とした市民公開講座を開催しました。

全国規模の医師主導型臨床試験にも積極的に参加しております。昨年は12件（胃癌5件、大腸癌6件、乳癌1件）の臨床試験に症例登録をしており、登録数は全国でも上位です。平成20年はさらに5件の新しい臨床試験への参加を予定しております。

平成19年は学会活動も積極的に行われ、4件の国際学会発表をはじめ全国規模の学会を中心に29件の発表を行いました。また、小林 慎先生が“Design of a New Technique Using a Free Tracheal Autologous Graft for



Reconstruction of the Cricoid Cartilage and Trachea”で平成19年日本外科学会研究奨励賞を受賞しております。

認定医、専門医の取得も順調に進んでおり、早川善郎先生が日本内視鏡外科学会技術認定医を取得し、当院の認定医は3名となりました。また、小林 慎先生と早川善郎先生が日本消化器外科学会専門医試験に合格し、当院の専門医は5名となりました。平成19年より新設された日本がん治療認定医機構より高金明典、目黒英二両先生が暫定教育医に認定されました。

平成19年4月よりスタッフが1名増員となり、7名体制で診療しておりますが、1100例を超える手術の他に非切除・再発癌症例に対する化学療法や外来業務、乳腺検診、救急医療、さらに医師の業務負担増加、学会活動や地域医療への貢献など多忙をきわめており、まだスタッフが足りない状態です。当院では平成19年度管理型研修医が6名、協力型研修医4名おりますが、研修医1名が常時当科に所属するような体制をとり大切な戦力となっております。

平成20年も更なる医療レベルの向上とチーム医療の充実を目標に、スタッフ一丸となってがんばります。



## 北上済生会病院

Kitakami Saiseikai Hospital

明治44年(1911年)、明治天皇の勅語により『恩賜財団済生会』が創設されました。『恩賜』とは、「天皇からいただいた」ということを指し、『済生』の「済」は救済 すくう たすける、つまり「生きることをたすける」という意味になります。『恩賜財団』と書くことにも理由があるそうで、『恩賜財団済生会』と一行に書いた名称を申請したところ、天皇は国民と一緒に「済生事業」を行うのだから、皇室だけが先行しているような印象を与えるのは適切ではない、とおっしゃられ、二行に分けた『恩賜財団』という書き方になっているそうです。

当院、「北上済生会病院」の開設については、昨年の教室年報(2007年)に記しました。現在、外科スタッフは斎藤和好(院長、昭40卒)、須原 誠(昭60卒)、旗福公英(昭63卒)、米山幸宏(平5入局)の四人です。それに研修医が断続的に一人ローテーションとして回ってきます。今年4月、当院で初期研修を終了した石田 馨君が大学外科に入局させていただきました。よろしくお願ひいたします。また、大学医局からは、手術、



外来、検査、当直などの応援をいただいております。その他、病院としての診療以外に、行政、医師会と連携により各種検査業務を行っております。また、毎年、研修医を含めて、救急・災害救助訓練なども参加しております。



## 岩手県済生会岩泉病院

Iwateken Saiseikai Iwaizumi Hospital

平成19年10月8日、岩泉町と盛岡市の境界にある早坂峠を貫通する早坂トンネルが開通した。国と岩手県が97億円を投じ、県管理トンネルとして最長の3.1kmのトンネルである。早坂峠は68の急カーブと急勾配のある交通の難所であったが、トンネル化で約15分短縮され、夏場の盛岡-岩泉間は1時間30分で結ばれる。江戸時代から、この小本街道は生活必需品である塩の交易ルートの一つで、早坂峠はその「塩の道」の最大の難所であった。現在、小本街道は「国道455号」となり、岩泉と盛岡を結び、岩手医科大学の渡り廊下の下を通過している。

臨床研修必修化により顕在化した医師不足は全国の病院を直撃しましたが、意外にも当院はその恩恵をいただきました。斎藤和好院長のご配慮で北上済生会病院から4人の研修医が地域研修として4月から



1ヶ月ずつ赴任していただきました。4人全員が持ち前の個性を發揮して岩泉町の地域医療を支えてくれました。11月からは、西根町の開業



医の先生が小児科常勤医として当院に赴任し、乳幼児から小中学生が病院を多数受診して院内が活気に溢れるようになりました。全国では診療科の閉鎖や病院の閉鎖に追い込まれる報道が相次ぐなかで、大変ありがたい年であったと思います。(現在、98床で医師5人です。)

最近ではBLSなどの普及で心肺蘇生法が画一化され、職員の教育が行いやすくなりました。BLSのインストラクターの資格をもつ岩泉町消防署の協力を得て、定期的に職員の技術向上に努めています。

少子高齢化に過疎化が追いつくのを懸念し、高齢者による医療費負担増加や介護の受け皿の不足など、地域病院を取り巻く環境は年々厳しいものとなっております。岩泉町民が安心して暮らせるよう、よりよい医療サービスを提供できるよう職員一同全力を尽くしております。岩手医科大学附属病院をはじめ、岩手県立宮古病院、岩手県立久慈病院には並々ならぬご配慮をいただき、感謝申し上げます。

# 岩手県立江刺病院

Iwate Prefectural Esasi Hospital



皆様お久しぶりでございます。お変わりございませんでしょうか。時と共に体内時計が遅くなり、時間の経つのが早く感じられるようになってきております。1年は早いものです。

さて当院での近況を申し上げますと、昨年2月に日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価を受審しました。本審査1回で認定できるよう皆万全の状態（自画自賛）で望みましたが、やはり世の中はそんなに甘いものではありませんでした。3ヶ月後の審査結果は…見事“保留!!”になりました。受審3ヶ月前に模擬審査も受け万全の体制で臨みましたがそれでも甘かったようです。しかし奮起し、その後も定期的に検討会を重ね、7ヶ月後の12月に再審査を受け、そしてついに苦勞が実り平成20年2月1日無事認定されることになりました。ゼロからのスタートでしたので審査期間も合わせ長い約5年間の道のりでありましたが、逆に良い経験をさせていただきました。機能評価を受けたくても諸事情で受けられない状況にある病院や評価機構に否定的な意見を唱える病院等がありますが、今回受審してみて感じましたことは、項目内容を一通り検討し実施することによりようやく本来の病院の有るべき姿、基本ラインに並んだという印象を受けたことでもあります。各項目内容の中には一部不合理なものであったり、無理なものが含まれておりましたが、患者さんのためには当然の内容のことであり、我々医療従事者の医療に対する考えを再認識させられたものでした。特に普段あまり接触の少ない他部門との横のつながりがより一層強くなったことが収穫であったのではないかと感じております。このことが今現在問われている「医療・診療連携」の在り方なのでしょう。

2月中旬には“特定非営利活動法人サポートセンター NPO えさし”が企画している「はつらつ高齢者交流会」に講師として招かれまして、『在宅で看取る ―あなたは最期をどのように迎えますか?―』という演題で、地域の約300名のじん



つあん、ばんつあんを対象に講演させていただきました。可能な限り介護期間を少なく、健康寿命を延ばすよう元気で暮

らしていただきたいという主旨で、生活習慣病をはじめ、寝たきり、介護、死生観等の内容を含んだものを提供してきました。”としより”ガンバレ!

平成18年夏から始めました訪問診療は順調に機能しております。特に癌末期の在宅での緩和ケア・看取りにつきまして需要はポチポチですが患者・家族にとって好評であります。私どももそのような声を聞かされると安心しますし、苦勞が和らぎ次へのステップに繋がる心境に駆られます。また、今年4月から診療報酬改定に伴い、後期高齢者医療制度に向けて地域医療連携部門（仮称）を立ち上げるべく現在検討しているところです。現在稼働している福祉・保健・医療連携合同会議を基盤に施行予定ではありますが、我々医療従事者としての『限られた人生を、よりそのひとらしく生きていくために手助けする』という使命をもって微力ながら貢献したいと思っております。

些細な要望を申し上げますと、外科診療はもちろんですが、救急医療（含メディカルコントロール）、訪問診療、緩和医療、院内感染防止対策、NST（含褥瘡）、パスおよび地域医療連携に興味のある方、手伝ってくれる方、おりませんでしょうか? どうしても外科の守備範囲は広く、現在の状況では辛くなってきております。

最期に、大学から（外科・第2病理・救急センター）の診療応援・当直応援等の多大なる御協力をいただいていることに心から有り難く厚く御礼申し上げる次第であります。それぞれの部署でマンパワー不足で日々大変であると思っておりますが、お互いくれぐれも身体に気を付けていきたいところでございます。それではまた。



## 岩手県立大槌病院

Iwate Prefectural Ōzuchi Hospital

ここ大槌は、三陸海岸のほぼ中央に位置しており、人口約1万7千人の町です。

NHKの「ひょっこりひょうたん島」のモデルになった弁天島、井上ひさしの「吉里吉里人」により、日本から独立した「吉里吉里国」もある、おいしい海の幸が味わえるところ。

病院の沿革は、昭和14年10月に岩手県医薬購買販売利用組合連合会大槌病院として開設（23床）されました。昭和18年に岩手県農業会に経営移管され、昭和25年に、岩手県医療局に移管となり「岩手県立大槌病院」として発足しました。（一般43床・伝染12床）。昭和51年増改築により一般119床に増床となりました。平成14年には、処方オーダリングシステムが導入されました。

釜石医療圏に属し、県立釜石病院、せいてつ記念病院、独立行政法人釜石病院、釜石医師会の先生方との、病病、病診連携を行っております。岩手県立大槌病院の特色は、二次救急病院



群輪番制実施とともに、訪問診療も実施し、県立釜石病院の臨床研修に際して「協力施設」として、地域医療実習を担当しております。

また、岩手医大外科からの化学療法実施中の患者様を、引き継いで実施する症例も増加してきました。

院内のスタッフは、内科に岩田院長、黒田副院長、藤丸先生の3人が常勤でおります。その他、循環器内科、整形外科、眼科、産婦人科、皮膚科の診療応援を岩手医大、県立釜石病院より受けて、「地域の病院」として診療にあたっております。

しかし、何といたっても、「岩手医大外科」からの応援は、手術時のみならず、当直の応援もしていただき、当院にとって非常に心強い医局となっております。（この場をお借りして、感謝申し上げます。）

外科のスタッフは、外来2名、オペ室（外来兼務）3名の看護師さんで、皆で連携し、外傷初期治療から、全麻の手術までを、こなしております。

今後は、岩手医大、県立釜石病院と更に連携を強めて、釜石医療圏の発展に努めたいと思います。

## 鹿角組合総合病院

Kazuno Associated General Hospital

当鹿角組合総合病院外科スタッフは、阿部 薫（平成3年卒）が平成16年2月から、飯島 信（平成10年卒）が同14年7月から赴任し、常勤医二人体制で鹿角（鹿角市、小坂町）はもとより、岩手県（八幡平市）からの患者さまの診療に従事しています。また、大学医局から岩谷 岳先生、米沢仁志先生の応援を各週一回していただき、診療・手術に励んでいます。（研修医はいません。）

平成19年のニュースとして病院では、外来化学療法室（3床）の運用を開始しました。それまで病棟のベッドを使用し行っていた外来化学療法を、専用のベッドで施行できるようになりました。ベッド数が少ないため他科（消化器科、呼吸器科）との調整が大変ですが、当科は毎日午前を中心に2～3人の治療を行っています。FOLFOX、FOLFIRI

療法は、殆どの患者さんが入院を希望するため、入院での治療になっています。

外科では、平成19年は前年に比較し、手術件数が20件ほど増加していました。

胃癌手術は31件（腹腔鏡手術5件、16%）、結腸・直腸癌手術は50件（同5件、10%）となりました。これら疾患の腹腔鏡手術は各5件のみでしたが、地域柄（？）極端な進行癌が多いだけでなく、高齢患者の割合も高く合併症併存症例が多いのが、鏡視下手術の少ない理由と言いつけていただきます。また、大学からの麻酔科医派遣は週に





一回のため、以前から、その他の全身麻酔は自分たちで行い、術中管理もしているのが現状です。

昨年の特徴としては、全症例数が少ないのにも関わらずGIST症例が多く、胃原発で4例、小腸原発で3例と計7例の症例を経験しました。

逆に胆道系疾患は例年より少なく、PDを施行できたのは2例のみでした。

手術症例数はあまり多くありませんが、近隣の外科治療を

殆どカバーできるのが当病院の特徴です。

気力・体力・運のある、若き外科医の増員を切望いたします。



## 山本組合総合病院

Yamamoto Associated General Hospital

2007年は前年の3人体制を3月まで継続した後、医局のご配慮により4月から若手医師の補充を受け、青木毅一、大山健一医師、星川浩一医師（3月までの高橋正統医師より交代）、野田芳範医師の4人体制で新年度のスタートをきりました（10月からは野田医師に代わり松尾鉄平医師が赴任）。さらに当院臨床研修医のローテートに対しても外科の基本事項を中心に講義、臨床指導を行っています。

前期研修を終了した若い先生（本年は野田、松尾医師）には、輸液、栄養管理の基本からCVカテーテル挿入、胸腔ドレーン挿入といった基本手技、さらに虫垂炎、鼠径ヘルニアなど低侵襲の手術を中心に、これから生涯続く外科学の醍醐味を十分に味わうための技術的、精神的基盤を当院での経験を通して身につけてもらうよう心がけて指導に当たっております。

中堅医師（高橋医師、星川医師）にはさらなるスキルアップを目標として胃癌、大腸癌を中心に非定型的緊急手術も含め幅広く執刀医となることで、将来の各種資格試験の症例経験を積んでもらう他、化学療法や緩和ケアを含めた術後症例のフォローアップなど、大きな戦力として頑張ってもらっています。

大山医師は当院3年目であり、一人前の医師として科長のサポート役も含め、若手医師の指導、院内スタッフの教育を含め大きな存在となっています。多忙な毎日の中、12月には消化器外科学会専門医試験に合格しました。

外科全体のトピックとしては、大山医師を中心に鏡視下手術



への本格的な取り組みを開始したことが挙げられます。腹腔鏡下大腸癌手術はまだ年間7例と他施設に比較してはまだまだの症例数ではありますが、これから多くの症例を積



みたいと思っています。また、青木が2005年より開始した院内NST活動も徐々に院内に浸透し、院外にも活動を広げ、10月には地域の関連施設を対象とした「第二回山本地域栄養勉強会」を開催し150名近くの参加者が集まりました。

さらに、各種臨床試験への参加も継続しており、なかでも「経口フッ化ピリミジン系薬剤S-1を用いた胃癌に対する補助化学療法（ACTSGC）」はThe New England Journal of Medicineに掲載され、日本から初の胃癌補助化学療法のエビデンスとして注目を集めました。

スタッフの平均卒後年数が8.75年と若い点は各々の医療に対する好奇心、熱意、体力によってカバーしたいと思っています。前回の年報でも述べましたが、外科学は決して楽ではありませんが、やりがいのある分野です。自分の現在の能力より少し高

### 2007年（1-12月）手術症例

甲状腺	10
乳腺	15
胃	51
大腸	29
直腸	12
胆道系	34
肝切除	1
イレウス	10
虫垂炎	14
ヘルニア	49
その他	8
全手術症例数	277

いところを目指し、努力し、克服したときのみ得られる充足感、自己成長感を、縁あって当院で共に働くこととなったスタッフの全員に経験してもらいたいと常日頃より考えており、「メリハリのある充実した日々を送る」をモットーに日々診療に励んでおります。

## 八戸赤十字病院

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

スタッフに恵まれ消化器全般・乳腺・甲状腺の各分野で診療実績が高まっており、大腸・胃疾患に対する鏡視下手術においても症例数が増加し治療技術が着実に進歩しています。平成20年1月18日、八戸で『北東北のがん医療－岩手医科大学外科の役割』のご講演を若林教授からいただき、今後地域のがん医療に一致団結して取り組む必要性を強く感じています。皆でさらに努力してまいります。

(佐瀬正博)

故郷八戸の赤十字病院に勤務し6年となりました。これほど長くいられるとは思っていませんでした。佐瀬先生を初めスタッフに恵まれたおかげと感謝しております。

外科の仕事以外にも、フライフィッシング、写真、テニスなどまわりの皆さんと楽しくやっています。今年は48歳の年男です。

2月現在コンピューターを更新したものの設定がうまくいかず四苦八苦です。

(玉沢佳之)

平成19年度当科では腹腔鏡下大腸手術19例施行。

(癌18例、腺腫1例)

部位：盲腸1例、上行結腸4例、横行結腸3例、下行結腸2例、S状結腸8例、直腸1例

平均手術時間：232 ± 37分

平均出血量：56 ± 101ml

歩行開始日中央値：1.3病日

排ガス日中央値：2.2病日

経口摂取開始日中央値：3.9病日



術後在院日数中央値：10.7日

合併症：創感染1例、肺炎1例であった。(細井信之)

八戸日赤は初めての勤務となりますが、中核病院が3病院あるのになぜか急患が多いように思う毎日(それも穿孔が多い)。2008年1月30日、八戸日赤で第一例目の腹腔鏡補助下幽門側胃切除を執刀させていただきました。助手にDr.T&Hに入って頂くという豪華な手術だったと思いにふけります(この上Dr.Sまでに入ってもらったら、Dr.Iは外来で困るだろう)。このメンバーで全摘までやろうと野望を抱く一方で、ビデオを見直し手技の甘さに反省しています。(藤原久貴)

昨年4月より八戸赤十字病院に勤務しております板橋英教です。佐瀬部長を筆頭に玉澤先生、細井先生、藤原先生と共にご指導を受けながら様々な経験をさせて頂き、日々精進しています。仕事としても実り有る生活を送らせて頂いておりますが、外科主催の行事も多く私生活でも楽しく過ごすことが出来ました。今春からの異動が決まり少し寂しい思いがありますが、医師として成長し、是非再び先生方と共に仕事が出来ればと思っております。(板橋英教)

1年目の研修中です。昨春岩手医大を卒業し八戸日赤で初期臨床研修をしています。はじめは何も分からず、先生方をはじめとする現場の方々に迷惑をかけてばかりでしたが、1年を経過して徐々にですが病院にも慣れ、日々充実した研修生活を送っています。7週間の外科研修では毎日1、2件の手術の助手として、鉤の引き方、糸の結び方など外科医としての基本をご指導いただきました。残り1年の研修医生活で、一般臨床医としての基本となる知識、技術を習得し、より一層成長できるように精進して行きたいと思っております。(研修医 小豆嶋立頼)

# 岩手県立宮古病院

Iwate Prefectural Miyako Hospital

宮古病院は、宮古・下閉伊地区約11万人の住民の唯一の広域中核病院で387床を有しています。陸中海岸国立公園の高台に建つ9階建ての病院は、本州最東端の病院であり、東の眼下に広大な太平洋を望み、水平線に昇る朝日を見る良好な環境にあります。平成19年8月には日本がん治療認定医機構教育病院の指定を受け、平成20年1月には厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。また、3月には最新の64列マルチスライスCTスキャンが導入されました。

外科の平成19年度の手術件数は、530件（全麻359件、腰麻82件）であります。当院は救急患者が多く、緊急手術は118件あり、3日に1件の割合で急患の手術をしていることになります。また、鏡視下手術を大腸癌や急患にも積極的に行っております。鏡視下手術は全98例（大腸癌：12例、胆石：58例、そのうち急性胆嚢炎7例、急性虫垂炎：12例、胃・十二指腸潰瘍穿孔：5例、癒着性イレウス：2例、交通外傷：4例、その他、胃石落下イレウス、肝膿瘍破裂、クローン病穿孔、憩室炎穿孔、S状結腸軸捻転症等）



でした。特に急性腹症に対しては鏡視下手術が非常に有用と考えております。3月には岩手県内初のハイビジョン・カメラ、モニター（オリンパス）も導入され、今後もさらに適応を拡大していく予定であります。また、平成20年度から乳癌の手術に対し、センチネルリンパ節



生検を開始する予定です（ガンマプローブ購入済み）。

外科スタッフは菅野千治院長以下、亀井真理、坂下伸夫、菅原俊道、船渡 治の計5名です。また小児外科外来・手術を水野大準教授に、呼吸器外科外来を谷田達男教授に、血管外科外来を循環器センタースタッフにお願いしております。平成19年より外来化学療法室の運用が開始。緩和ケアチーム、NST活動、がん登録業務、地域連携システム、救急外来運営等も全て外科が中心となって行っております。

症例検討会は消化器内科と毎週水曜、外科の術前術後ミーティングと死亡症例検討を毎週木曜、その他地域医師会カンファランス、研修医の症例発表会も行っています。

また、船渡が熊本済生会病院に研修に行き最先端のクリニカルパスを、国立がんセンター中央病院で約3ヶ月間、肝胆膵手術を学んできました。

今後は外科スタッフ一同、国内研修、学会発表、論文作成等も積極的に行っていく所存です。大学医局とも更に連携を深めたいと思いますので、御指導、御支援を頂ければ幸いに存じます。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
秋田赤十字病院	宮下 正弘	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢 222-1
秋田大学医学部附属病院	溝井 和夫	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼 44-2
秋浜内科クリニック	秋 濱 玄	028-4132	岩手県	盛岡市	玉山区洪民字駅 73-7
あすみのクリニック	斉藤 宏之	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字湯舟沢 479-2
安部医院	安部 彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り 1-11-23
あべ内科消化器科クリニック	阿部 礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町 17-45
阿部内科小児科医院	阿部 知成	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野 3-1-2
飯島医院	飯島 仁	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鶴飼字狐洞 1-277
石井内科消化器科医院	石井 隆	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘 23-26
いしだ外科胃腸科クリニック	石田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通 14-9 ヒラトヤビル 3F
一関病院	加藤 栄一	021-0884	岩手県	一関市	大手町 3-36
猪苗代病院	猪苗代 盛貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町 1 丁目 3-7
岩手医大 循環器センター	岡林 均	020-8505	岩手県	盛岡市	中央通 1-2-1
岩手医大 花巻温泉病院	猪又 義男	025-0305	岩手県	花巻市	台第 2 地割 85 番 1
岩手県ガン検診センター	狩野 敦	020-0834	岩手県	盛岡市	永井 14-46
岩手県立 一戸病院	高田 耕	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	字砂森 60-1
岩手県立 胆沢病院	松本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場 61
岩手県立 磐井病院	鮫名 勉	029-0131	岩手県	一関市	狐禅寺字大平 17
岩手県立 江刺病院	小岡 文志	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り 5-23
岩手県立 大槌病院	岩田 千尋	028-1111	岩手県	上閉伊郡大槌町	新町 8-14
岩手県立 釜石病院	遠藤 秀彦	026-0055	岩手県	釜石市	甲子町 10-483-6
岩手県立 軽米病院	横島 孝雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米 2-54-5
岩手県立 北上病院	後藤 勝也	024-0063	岩手県	北上市	九年橋 3-15-36
岩手県立 久慈病院	阿部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第 10 地割 1 番
岩手県立 千厩病院	伊藤 達朗	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢 32-1
岩手県立 中央病院	佐々木 嵩	020-0066	岩手県	盛岡市	上田 1-4-1
岩手県立 遠野病院	貴田岡 博史	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩 14-74
岩手県立 二戸病院	佐藤 元昭	028-6103	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛 38-2
岩手県立 沼宮内病院	岡田 行生	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第 10 地割 4 番地 7
岩手県立 花巻厚生病院	高橋 司	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町 4-57
岩手県立 宮古病院	菅野 千治	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶽ヶ崎 1-11-26
岩手県立 山田病院	及川 修次	028-1321	岩手県	下閉伊郡山田町	山田第 5 地割 66 番地 1
いわてリハビリテーションセンター	高橋 明	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森 16-243
岩手保養院	森 莊 祐	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野 3-14-1
岩手県予防医学協会		020-0834	岩手県	盛岡市	永井 4-42
内丸病院	日下 純男	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通 1-12-7
えいづか内科胃腸科クリニック	永塚 健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘 4-1-7
江村胃腸科内科医院	江村 洋弘	020-0044	岩手県	盛岡市	城西町 7-33
鶯宿温泉病院	石田 薫	020-0573	岩手県	岩手郡雫石町	南畑 32-265

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
おうしゅくクリニック	小 泉 幸 子	020-0573	岩手県	岩手郡雫石町	南畑第 32 地割字南柳沢 277-1
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通 1-3-4
大日向医院	大 日 向 充	020-0114	岩手県	盛岡市	高松 2-9-9
大船渡市国民健康保険 越喜来診療所	佐々木 道夫	022-0101	岩手県	大船渡市	三陸町越喜来字所通 26-1
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町 3-5
荻野病院	荻 野 忠 良	020-0865	岩手県	盛岡市	本宮 1-6-12
小野外科医院	小 野 勢 津 男	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘 3-32-6
小原クリニック	小 原 紀 彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り 2-22-15
鹿角組合総合病院（厚生連）	松谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字八正寺 13
加藤胃腸科内科医院	加 藤 博 巳	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺中田 207
鎌田内科クリニック	鎌 田 広 基	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮 2-20-1
川久保病院	尾 形 文 智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田 26-30-1
川村内科医院	川 村 光 郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町 4-4
川村 腎・泌尿器科皮膚科クリニック	川 村 繁 美	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園 2 丁目 15-1
北上済生会病院	斎 藤 和 好	024-8506	岩手県	北上市	花園町 1-6-8
北上脳神経外科クリニック	北 上 明	028-4307	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市 11-79-65
くどう医院	工 藤 卓 次	020-0127	岩手県	盛岡市	前九年 3-16-15
工藤内科医院	工 藤 博 司	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通 1-7-13
久保田医院	久 保 田 公 宜	020-0147	岩手県	盛岡市	大館町 26-3
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通 1-16-4
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町 2-51
コアクリニック	相 川 礼 子	310-0851	茨城県	水戸市	千波町 214-6
孝仁病院	井 筒 俊 彦	020-2252	岩手県	盛岡市	中太田泉田 28
国立がんセンター東病院	江 角 浩 安	277-8577	千葉県	柏市	柏の葉 6-5-1
国保 川井中央診療所	高 木 秀 峯	028-2302	岩手県	下閉伊郡川井村	川井 2-169-5
国保 葛巻病院	高 橋 克 郎	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻 16-1-1
国民健康保険 金ヶ崎診療所	佐々木 峻	029-4503	岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	西根鑑水 98
国民健康保険 藤沢町民病院	佐 藤 元 美	029-3405	岩手県	東磐井郡藤沢町	藤沢字町裏 52-2
国民健康保険 普代村診療所	工 藤 正 一 郎	028-8333	岩手県	下閉伊郡普代村	第 10 割字羅賀 4 番地 1
国立病院機構 盛岡病院	山 口 一 彦	020-0133	岩手県	盛岡市	青山 1-25-1
児島内科小児科医院	児 島 陽 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ 3-11-36
こんの神経内科・脳神経外科クリニック	紺 野 敏 昭	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字牧野林 1010-4
斉藤ささき医院	佐々木 正孝	020-0816	岩手県	盛岡市	中野 1 丁目 27-10
坂井医院	坂 井 博 毅	028-4307	岩手県	岩手郡岩手町	五日市 10-151-1
ささきクリニック	佐々木 盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目 836
佐藤皮膚科医院	佐 藤 雅 子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山 3-6-3
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田 4-7
三愛病院	山 内 文 俊	020-012	岩手県	盛岡市	月が丘 1-31-31
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田 79-2

# 外科紹介医療機関

さ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
篠村外科医院	篠村 達雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下 105-12
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北 3-13-20
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正博	024-0094	岩手県	北上市	本通り 4 丁目 13-6
紫波地域診療センター	小野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木 32
しんたろうクリニック	菊池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮 1 丁目 9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅澤 治彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋 6-440-1
鈴木こう門科クリニック	鈴木 俊輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町 16-14
鈴木内科医院	鈴木 知己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町 2-17
須藤内科クリニック	須藤 守夫	020-0045	岩手県	盛岡市	盛岡駅西通 2-9-1 マリオス 11F
せいてつ記念病院	田名場 善明	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町 4-3-7
仙北市立角館総合病院	西野 克寛	014-0314	秋田県	仙北市	角館町上野 18
仙北市立田沢湖病院	佐々木 英人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂 17-1
仙台赤十字病院		982-8501	宮城県	仙台市太白区	八木山本町 2-43-3
総合花巻病院	大島 俊克	025-0075	岩手県	花巻市	花城町 4-28
総合水沢病院	石井 元康	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町 3-1
曾根産婦人科医院	曾根 昌雄	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通 3-13-7
高橋医院	高橋 孝	020-0525	岩手県	岩手郡雫石町	源太堂 38-9
高松病院	田中 哲夫	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町 4-8
滝沢中央病院	小時田 宏侑	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鶴飼字狐洞 1-104
たぐち脳神経外科クリニック	田口 壮一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通り 1 丁目 4-19
ちばクリニック	千葉 直樹	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通 3-1-10
千葉内科医院	千葉 修二	021-0015	岩手県	一関市	山目字才天 227
照井内科医院	照井 虎彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町 3-5-8
照井消化器科内科医院	照井 孝臣	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通 1-8-9
東北労災病院	三浦 幸雄	981-8563	宮城県	仙台市青葉区	台原 4-3-21
遠山病院	千葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町 6-14
遠山病院付属 青山町クリニック	須田 正房	020-0133	岩手県	盛岡市	青山 2-12-33
栃内内科医院	栃内 秀貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町 10-35
栃内病院	湊 祐廣	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町 2-28
栃内第二病院	栃内 秀彦	020-0151	岩手県	岩手郡滝沢村	大釜字吉水 103-1
十和田市立中央病院	蘆野 吉和	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町 14-8
内科クリニックすずき	鈴木 康之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園 2-15-4
成田内科胃腸科医院	成田 知史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第 8 地割 101 番地
新里医院	新里 滋	028-0516	岩手県	遠野市	穀町 13-1
西島産婦人科医院	西島 光茂	020-0066	岩手県	盛岡市	上田 1-19-11
西根町国民健康保険 西根病院	嶋 信	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭 22-79-1
西松園内科医院	斉藤 恵子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園 3-22-1
西和賀町国民健康保険 沢内病院	藤井 大和	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田 2-68
二戸クリニック	青木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合 32-1

た

な

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
二宮内科クリニック	二宮 一見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町 2-47
八戸赤十字病院	瀬尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸 2
八戸市立市民病院	三浦 一章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平 1
八幡平市国民健康保険 安代診療所	和田 進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町 144-1
八幡平市国民健康保険 田山診療所	藤沢 勲	028-7604	岩手県	八幡平市	丑山口 18-8
坂東内科クリニック	坂東 武志	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原 1-3-17
東八幡平病院	及川 忠人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台 2-8-2
日高見中央クリニック	岡本 秀樹	024-0072	岩手県	北上市	北鬼柳 22-46
藤巻胃腸科内科クリニック	藤巻 英二	025-0016	岩手県	花巻市	高木 15-16-1
ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加藤 典博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷 87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊藤 純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字宮沢 5-1
宝陽病院	石原 敬夫	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀 15-23
細井外科医院	細井 照彦	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原 2-1-2
松園第一病院	河嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野 3-2-1
松園第二病院	後藤 昌司	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園 3-22-3
三島内科医院	佐藤 倫郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町 1-34
水沼内科循環器クリニック	水沼 吉美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通 2-11-12
緑ヶ丘消化器内科医院	鈴木 昇	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘 3 丁目 2-34
湊医院	湊 浩満	026-0021	岩手県	釜石市	只越町 2-6-10
むつ総合病院	小川 克弘	035-0071	青森県	むつ市	小川町 1-2-8
もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤 邦夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通 2-3-2
もりおか往診クリニック	木村 幸博	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前 6-85-1
もりおかもも病院	米沢 俊一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷 11-14
盛岡市立病院	加藤 章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字小屋敷 15-1
森整形外科	森 茂雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第 25 地割 117-2
盛岡赤十字病院	沼里 進	020-0856	岩手県	盛岡市	三本柳 6-1-1
盛岡友愛病院	長澤 茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井 12-10
八角医院	八角 正司	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木 101-2
八角病院	遠藤 憲幸	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木 70-190
山下医院	山下 栄敏	014-0023	秋田県	大仙市	大曲黒瀬町 3-45
やまだ胃腸科・内科クリニック	山田 宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央 2-18-31
山田クリニック	山田 行夫	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通 1-13-8
夕顔瀬産婦人科医院	牧野 俊重	020-0064	岩手県	盛岡市	梨木町 6-12
吉田医院	吉田 耕太郎	020-0886	岩手県	盛岡市	若園町 10-4
吉野外科医院	吉野 公喜	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸 1-6-20
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉田 昌明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通 1 丁目 9 番 28 号 岩井ビル 2 階
来久保医院	似内 裕	028-3171	岩手県	花巻市	石鳥谷町中寺林 10-46
わたなべ肛門科クリニック	渡邊 正敏	020-0062	岩手県	盛岡市	長田町 14-39

## 1. 学術論文

### 1-1 英語論文

1. J.Haga, G.Wakabayashi, M.Shimazu, M.Tanabe, T.Takahara, T.Azuma, Y.Sato, Y.Hakamata, E.KObayashi, M.Kitajima .In vivo Visualization and Portally Repeated Transplantation of Bone Marrow Cells in Rats with Liver Damage.STEM CELLS AND DEVELOPMENT.16 : 319-327,2007.
2. T.Nakajima, K.Kawazoe, T.Oka, K.Ikeda, K.Ishida.Successful repair with omental flap attached to gastric tube for aorto-esophageal fistula with mycotic pseudoaneurysm.CHIRURGIA.20 : 133-135,2007.
3. T.Akatsu, K.Aiura, M.Shimazu, M.Ueda, G.Wakabayashi, M.Tanabe, S.Kawachi, M.Shinoda, K.Kameyama, M.Kitajima, Y.Kitagawa. Successful pancreatic resection with en-bloc resection of the celiac artery and portal vein for pancreatic endocrine carcinoma. Hepatogastroenterology.54 (76) : 1269-1271,2007.
4. J.Haga, G.Wakabayashi, M.Shimazu, M.Tanabe, T.Takahara, T.Azuma, Y.Sato, Y.Hakamata, E.Kobayashi, M.Kitajima.In vivo visualization and portally repeated transplantation of bone marrow cells in rats with liver damage.Stem Cells Dev.16 (2) : 319-328,2007.
5. R.Miyata, M.Shimazu, M.Tanabe, S.Kawachi, K.Hoshino, G.Wakabayashi, Y.Kawai, M.Kitajima.Clinical characteristics of thrombotic microangiopathy following ABO incompatible living donor liver transplantation.Liver Transpl.13 (10) : 1455-1462,2007.
6. T.Nakamura, M.Yoshida, H.Ishikawa, K.Kameyama, G.Wakabayashi, Y.Otani, M.Shimazu, M.Tanabe, S.Kawachi, K.Kumai, T.Kubota, Y.Saikawa, K.Sano, M.Kitajima.Candida albicans aggravates duodenal ulcer perforation induced by administration of cysteamine in rats.J Gastroenterol Hepatol.22 (5) : 749-756,2007.
7. R.Sasaki, T.Fujita, Y.Takeda, K.Hoshikawa, M.Takahashi, O.Funato, H.Nitta, Y.Yaegashi, T.Nakajima, K.Saito, G.Wakabayashi, N.Ohkohchi.Portal vein reconstruction using a left renal vein graft for a patient with hilar cholangiocarcinoma.Hepatogastroenterology.54 (79) : 1919-1921,2007.
8. R.Sasaki, Y.Takeda, O.Funato, H.Nitta, H.Kawamura, N.Uesugi, T.Sugai, G.Wakabayashi, N.Ohkohchi.Significance of ductal margin status in patients undergoing surgical resection for extrahepatic cholangiocarcinoma.World J Surg.31 (9) : 1788-1796,2007.
9. N.Shimajima, M.Shimazu, H.Kikuchi, S.Kawachi, M.Tanabe, K.Hoshino, G.Wakabayashi, Y.Morikawa, M.Kitajima.Serum alcohol dehydrogenase: a sensitive biomarker of ongoing graft function after liver transplantation.Clin Transplant.21 (4) : 498-501,2007.
10. M.Shinoda, A.W.Tilles, N.Kobayashi, G.Wakabayashi, A.Takayanagi, T.Totsugawa, H.Harada, H.Obara, K.Suganuma, F.Berthiaume, M.Shimazu, N.Shimizu, N.Tanaka, M.Kitajima, R.G.Tompkins, M.Toner, M.L.Yarmush.A bioartificial liver device secreting interleukin-1 receptor antagonist for the treatment of hepatic failure in rats.J Surg Res.137 (1) : 130-140,2007.
11. U.T.Shankavaram, W.C.Reinhold, S.Nishizuka, S.Major, D.Morita, K.K.Chary, M.A.Reimers, U.Scherf, A.Kahn, D.Dolginow, J.Cossman, E.P.Kaldjian, D.A.Scudiero, E.Petricoin, L.Liotta, J.K.Lee, J.N.Weinstein.Transcript and protein expression profiles of the NCI-60 cancer cell panel: an integrative microarray study.Mol Cancer Ther.6 (3) : 820-832,2007.
12. S.Ramalingam, P.Honkanen, L.Young, T.Shimura, J.Austin, P.S.Steeg, S.Nishizuka.Quantitative assessment of the p53-Mdm2 feedback loop using protein lysate microarrays.Cancer Res.67 (13) : 6247-6252,2007.
13. B.Spurrier, F.L.Washburn, S.Asin, S.Ramalingam, S.Nishizuka.Antibody screening database for protein kinetic modeling.Proteomics.7 (18) : 3259-3263,2007.
14. M.Toi, S.Nakamura, K.Kuroi, H.Iwata, S.Ohno, N.Masuda, M.Kusama, K.Yamazaki, K.Hisamatsu, Y.Sato, M.Kashiwaba, H.Kaise, M.Kurosumi, H.Tsuda, F.Akiyama, Y.Ohashi, Y.Takatsuka.Phase II study of preoperative sequential FEC and docetaxel predicts of pathological response and disease free survival.Breast Cancer Res Treat.2007 Sep 19.

### 1-2 和文論文

1. 板橋英教, 及川浩樹, 前沢千早. ラット活性型肝星細胞におけるエンドセリン受容体一上皮成長因子受容体一上皮成長因子受容体のクロストーク. **岩手医学会誌**.59 (4) : 267-275,2007.
2. 井上善文, 池田健一郎, 大村健二, 田平洋一, 福島亮治, 大柳 正. TNT 受講者に対する栄養療法の実施状況に関するアンケート調査報告 (8). **静脈経腸栄養**.22 (2) : 53-57,2007.
3. 井上善文, 池田健一郎, 大村健二, 田平洋一, 福島亮治, 大柳 正. TNT 受講者に対する栄養療法の実施状況に関するアンケート調査報告 (9). **静脈経腸栄養**.22 (2) : 59-72,2007.
4. 大塚幸喜, 若林剛. 潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術の適応と工夫. **臨床外科**.62 (1) : 13-18,2007.
5. 大塚幸喜, 秋山有史, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 細井信之, 若林剛. 結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清の手術手技. **手術**.61 (7) : 999-1005,2007.



6. 大塚幸喜, 秋山有史, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 佐々木章, 若林剛. 結腸癌に対する安全な腹腔鏡下手術. **手術**. 61 (9) : 1239-1244, 2007.
7. 大塚幸喜, 板橋英教, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章, 若林剛. 大腸癌Ⅱ 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の現状と課題. **癌と化学療法**. 34(11) : 1766-1767, 2007.
8. 御供真吾, 大塚幸喜, 秋山有史, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 若林剛. 腹腔鏡補助下腹会陰式直腸切除術を施行した直腸原発悪性黒色腫の1例. **日本内視鏡外科学会誌**. 12 (1) : 105-110, 2007.
9. 御供真吾, 小笠原聡, 前沢千早. 甲状腺由来の未分化癌株と乳頭癌株間で発現変動のみられる microRNA. **岩手医学会誌**. 59 (4) : 245-254, 2007.
10. 大山健一, 青木毅一, 高橋正統, 若林剛. 胃全摘術後縫合不全に対して内視鏡的クリッピングが有効であった2例. **岩手医誌**. 59 (1) : 41-45, 2007.
11. 柏葉匡寛, 稲葉亨, 藤原久貴, 高金明典, 上杉憲幸, 神谷亮一, 若林剛. アロマトーゼ阻害薬 (Anastorazole)/Doxifuridin(5' DFUR) 併用療法が著功した化学療法の方法と治療成績. **乳癌の臨床 jpn j Breast Cancer**. 62 (9) : 1181-1184, 2007.
12. 柏葉匡寛, 若林剛, 中村清吾, 黒井克昌, 岩田広治, 大野真司, 増田慎三, 佐藤信昭, 麻賀太郎, 山本尚人, 青儀健二郎, 佐藤康幸, 黒住昌史, 津田均, 秋山太, 戸井雅和. JBCRG03: Docetaxel 75mg/m<sup>2</sup> by FEC100mg/m<sup>2</sup> による術前化学療法 - JBCRG1,02 からの review と breakthrough-. **乳癌の臨床 jpn j Breast Cancer**. 22 (5) : 372-373, 2007.
13. 肥田圭介, 佐々木章, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 若林剛. メシル酸イマチニブ奏功後、腹腔鏡下に切除した胃全摘術後脾門部局所再発 GIST の1例. **臨床外科学会雑誌**. 68 (9) : 2229-2332, 2007.
14. 佐々木章, 若林剛. 肥満症に対する外科治療. **Diabetes Frontier**. 18 (2) : 113-118, 2007.
15. 佐々木章, 新田浩幸, 中嶋潤, 大淵徹, 池田健一郎, 若林剛. 脾動・静脈および脾臓を温存した腹腔鏡下尾側脾切除術. **手術**. 61 (7) : 995-997, 2007.
16. 佐々木章, 中嶋潤, 大淵徹, 川村英伸, 上杉憲幸, 若林剛. 脾臓および脾動静脈を温存して腹腔鏡下尾側脾切除術を施行したインスリノーマの1例. **日本臨床外科学会雑誌**. 68 (6) : 1545-1549, 2007.
17. 佐藤信博, 小鹿雅博, 鈴木泰, 吉川智宏, 柴田敏啓, 小野寺誠, 藤澤靖久, 井上義博. 重症急性胆管炎のサイトカイン動態と抗ショック療法. **Surjical Trauma & Immunological Responses**. 16 (4) : 34-36, 2007.
18. 塩井義裕, 鎌田喜博. 緊急機関関を必要とした喉頭外傷の1例. **日本外科系連合学会誌**. 32 (1) : 19-22, 2007.
19. 塩井義裕, 柴野良博, 中島隆之. 糖尿病性足壊疽で保存的に治癒した2症例. **治療**. 89 (3) : 631-635, 2007.
20. 塩井義裕, 下沖収, 皆川幸洋, 馬場誠朗裕, 阿部正, 井上義博, 遠藤重厚. 岩手県北東部におけるハチ刺傷症例の検討. **日本救急医学会雑誌**. 18 (4) : 135-142, 2007.
21. 杉立彰夫, 高森吉守, 若林剛. 局所停留性・徐放性抗がん剤キトサンおよびシスプラチン 特集; がんの動注、局所治療. **Drug Delivivey System**. 22 (5) : 22-27, 2007.
22. 杉立彰夫, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 板橋哲也, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 吉田康夫, 高森吉守, 黒住誠司, 森隆利, 若林剛. 局所停留性・徐放性を付与した新剤系 Cisplatin. **癌と化学療法**. 34 (12) : 2159-2161, 2007.
23. 高橋正浩, 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 船渡治, 川村英伸, 若林剛. 大腸癌肝転移に対する局所凝固療法の方法と治療成績. **臨床外科**. 62 (9) : 1181-1184, 2007.
24. 千葉睦実 (小児科), 佐々木美香, 塚原央之, 水野大. 小児の噴門形成術前後における血糖、インスリン、glucagon-like peptide-1 の測定ブドウ糖負荷試験による検討. **岩手医学雑誌**. 59 (4) : 277-282, 2007.
25. 富澤勇貴, 畠山元, 杉村好彦, 細井義行, 星川浩一, 旭博史. 経皮内視鏡的胃瘻造設後の胃結腸皮膚瘻に対して胃内視鏡下クリッピング術を行い、保存的に改善した1例. **臨床外科**. 62 (12) : 1603-1607, 2007.
26. 富澤勇貴, 池田健一郎, 新田浩幸, 伊藤直子, 小笠原聡, 若林剛. 経皮経食道胃管挿入術 (PTEG) を施行した頭頸部癌の6例. **日本臨床外科学会雑誌**. 68 (7) : 1649-1653, 2007.
27. 新田浩幸, 若林剛. 腹腔鏡下肝外区域切除術. **消化器外科**. 30 (6) : 913-920, 2007.
28. 新田浩幸, 佐々木章, 藤田倫寛, 高橋正浩, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡 (補助) 下肝切除. **手術**. 61 (6) : 721-727, 2007.
29. 新田浩幸, 佐々木章, 若林剛. V、肝臓に対する肝切除術 1, 積極的な立場. **外科**. 69 (6) : 663-666, 2007.
30. 箱崎将規, 佐藤信博, 小鹿雅博, 小川雅彰, 高橋学, 鈴木泰, 前沢千早, 若林剛. 敗血症における血中サイトカインケモカイン多項目同時定量ーサスペンションアレイシステムを用いた検討ー. **岩手医誌**. 59 (2) : 127-138, 2007.
31. 増田慎三, 戸井雅和, 高塚雄一, 中村清吾, 岩田広治, 大野真司, 黒井克昌, 日馬幹弘, 久松和史, 山崎弘資, 辛栄成, 佐藤康幸, 海瀬博史, 柏葉匡寛, 岩瀬弘敬, 黒住昌史, 津田均, 秋山太. 乳癌術後化学療法法の現状および Supportive Care の工夫 JBCRG01 試験アンケートより. **癌と化学療法**. 34 (10) : 1609-1615, 2007.
32. 水野大, 佐々木英之, 友安信, 出口博之, 谷田達男, 川副浩平. 【まれな新生児外科疾患の治療】 超低出生体重児の気管支穿孔. **小児外科**. 39(3) : 241-245, 2007.
33. 若林剛. 身近にある胆・膵疾患 外科診療腹腔鏡による胆嚢摘出術を受けたいと相談された. **診断と治療**. 95 (3) : 417-423, 2007.
34. R.Miyata, M.Shimazu, M.Tanabe, S.Kawachi, K.Hoshino, G.Wakabayashi, Y.Kawai, M.Mukai, M.Kitajima. Clinical characteristics to Thorombotic Microangiopathy Following ABO Incomratible Living Donor Liver Transplantation. **Liver Transplantation**. 13 : 1455-1462, 2007.

## 2. 著書

- 池田健一郎, 若林剛. 癌化学療法施行時の栄養管理. **オンコロジークリニカルガイド消化器癌化学療法 食道・胃・大腸** 南山堂 .209-215,2007.
- 池田健一郎. 4. 血清マグネシウム. **身につく水・電解質と酸塩基平衡** 南江堂 .72-76,2007.
- 池田健一郎, 斎藤和好. 27. **食道癌・胃癌**. **新臨床栄養学** 医学書院 .507-512,2007.
- 池田健一郎. 5. 血清リン. **身につく水・電解質と酸塩基平衡** 南江堂 .73-87,2007.
- 池田健一郎. 2. 栄養アセスメント Q19 尿中窒素および窒素化合物って何のこと? . **「ナーシングケアQ&A」全科に必要な栄養管理 Q&A 初歩的な知識からNSTの実際まで 改訂版** 総合医学社 .38-39,2007.
- 柏葉匡寛. 焦点 最新! 乳がんの化学療法・ホルモン療法 とケア 「乳がん術後補助化学療法」. **看護技術** .53 (11) : 18-21,2007.
- 佐藤信博, 遠藤重厚, 若林剛. 7. その他 1. 腹部外傷. **消化器外科学レビュー** .153-161,2007.
- 西塚哲. Protein Microarrays Tech Guide.Ganome Technology 別冊インタビュー記事 2007年4月号.
- 若林剛. 身近にある胆・脾疾患 外科診療腹腔鏡による胆嚢摘出術を受けたいと相談された. **診断と治療** .95 (3) : 417-423,2007.

## 3. 学会発表

### 3-1 国際学会

- 7th International Gastric Cancer Congress,Brazil,2007/5/9~5/12.
- 1.M.Takahashi,A.Takagane,K.Koeda,K.Abe,K.Oyama,H.Fujiwara,T.Chiba,K.Ikeda,G.Wakabayashi.A case of advanced cardiac cancer responding to neoadjuvant chemoradiotherapy.Poster.
- 2007.ASCO Annual Meeting,Chicago,IL,USA,2007/6/1~6/5.
- 1.H.Narahara,W.Koizumi,T.Hara,A.Takagane,T.Akiya,M.Takagi,K.Miyashita,T.Nishizaki,O.Kobayashi.Randomized phase III study of S-1 alone versus S-1 + cisplatin in the treatment for advanced gastric cancer (The SPIRITS trial) SPIRITS: S-1 plus cisplatin vs S-1 in RCT in the treatment for stomach cancer. .Oral presentation.
- 3rd International Symposium on Living Donor Organ Transplantation,Essen,Germany,2007/6/11~6/12.
- 1.G.Wakabayashi.Laparoscopic living donor hepatectomy.Invited presentation.
- Laparoscopic Surgery Update2007,Korea,2007/6/16.
- 1.G.Wakabayashi.Basic Skill of Laparoscopic Liver Surgery.Invited presentation.
- 15th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES) ,Athens,Greece,2007/7/4~7/7.
- 1.M.Takahashi,H.Itabashi,T.Fujita,K.Hoshikawa,Y.Takeda,H.Nitta,H.Kawamura,A.Sasaki,G.Wakabayashi,K.Miura,Y.Aoki.Usefulness of surgery simulation in laparoscopic hepatectomy.Poster.
  - 2.A.Sasaki,J.Nakajima,T.Obuchi,S.Baba,H.Nitta,K.Otsuka,H.Kawamura,K.Koeda,K.Ikeda,G.Wakabayashi.Laparoscopic splenectomy to use interferon therapy in hepatitis C and cirrhotic patients .Poster.
- International Surgical Week (ISW) 2007,Montreal,2007/8/26~8/30.
- 1.S.Baba,A.Sasaki,H.Nitta,J.Nakajima,H.Kawamura,T.Obuchi,K.Koeda,K.Ikeda,G.Wakabayashi.Laparoscopic distal pancreatectomy with preservation of spleen and splenic vessels.Poster.
  - 2.T.Obuchi,A.Sasaki,O.Shimooki,Y.Minakawa,K.Fujisawa,Y.Takeda,T.Abe,G.Wakabayashi.A case of laparoscopic hernioplasty using a Bard Composix Kugel patch for 5th recurrent inguinal hernia after a mesh-plug and a Kugel-patch hernioplasty.Poster.
  - 3.A.Sasaki,H.Nitta,J.Nakajima,H.Kawamura,T.Obuchi,K.Koeda,K.Ikeda,G.Wakabayashi.Achalasia and chest pain:therapeutic effect Heller myotomy and Dor fundoplication.Poster.
  - 4.M.Shinoda,A.Tillas,G.Wakabayashi.N.Kobayashi,A.Takayanagi,M.Kitajima,R.Tompkins,M.Toner,M.Yarmush.A bioartificial liver device secreting interleukin-1 receptor antagonist for the treatment of hepatic failure in rats.Poster.
- The 14th International Congress of The XIV HPBA ,Russia St.Petersburg,2007/9/19~9/21.
- 1.G.Wakabayashi.Laparoscopic Liver Resection.Invited presentation.
- AACR-NCI-EORTC,Francisco,CA,USA,2007/10/22~10/26.
- 1.A.Takagane,W.Koizumi,H.Narahara,T.Akiya,M.Takagi,K.Miyashita,T.Nishizaki,O.Kobayashi,W.Takiyama,Y.Toh,M.Takeuchi. Randomized phase III study of a new oral fluoropyrimidine:S-1,combined with cisplatin versus S-1 alone Analyses of efficacy data.Poster.

4th Organisation for Oncojogy and Transrational Research,Kyoto,2007/11/9~11/10.

- 1.M.Kashiwaba.Relationship between concentration of HER2-extracellular domain (HER2-ECD) and EGFR expression in primary breast cancers..Poster.

### 3-2 国内学会

#### 第 22 回日本静脈経腸栄養学会,愛媛,2007/2/8~2/9.

- 1.富澤勇貴,畠山元,杉村好彦,旭博史,細井義行,星川浩一,鈴木聖子,齊藤純子,藤原真希子,池田健一郎,若林剛.経皮内視鏡的胃瘻造設において胃横行結腸皮膚瘻を形成した 1 例.一般示説.

#### 第 64 回日本病理学会東北・新潟支部学術集会,仙台,2007/2/11~2/12.

- 1.御供真吾,及川浩樹,前沢千早,佐藤孝,小笠原聡,荒井敬史,鈴木正通,菅井有,増田友之.頭蓋腫瘍の 1 例.一般口演.

#### 第 79 回日本胃癌学会,名古屋,2007/3/1~3/3.

- 1.高橋正統,青木毅一,肥田圭介,大山健一,藤原久貴,千葉丈広,高金明典,若林剛.発症 1 年後に二期の根治切除手術が可能であった切除不能胃癌穿孔の一例.一般示説.
- 2.千葉丈広,肥田圭介,藤原久貴,高金明典,阿部薫,大山健一,高橋正統,若林剛.当科における早期胃癌クリニカルパス術式別検討.一般口演.
- 3.肥田圭介,藤原久貴,高橋正統,千葉丈広,高金明典,若林剛.胃癌術後腹膜再発に対する緩和手術症例の検討.一般口演.
- 4.藤原久貴,肥田圭介,高橋正統,千葉丈広,高金明典,若林剛.当科における非切除・根治度 C 胃癌の長期生存例に関する検討.一般口演.

#### 第 43 回日本腹部救急医学会,東京,2007/3/8~3/9.

- 1.箱崎将規,佐藤信博,小鹿雅博,高橋学,遠藤重厚,池田健一郎,大塚幸喜,若林剛,小川雅彰,中嶋潤.腹膜炎術後の経口摂取過程における経腸栄養補助療法の有用性.一般口演.
- 2.馬場誠朗,及川伸也,小山由晃,大淵徹,藤澤健太郎,武田雄一郎,皆川幸洋,下沖収,阿部正.高齢者に腸重積にて発見された肺癌小腸転移の 1 例.一般口演.

#### 第 96 回日本病理学会総会,大阪,2007/3/13~3/15.

- 1.御供真吾,前沢千早,増田士郎,板橋英教,櫻井英一,古谷泰慈,小笠原聡,若林剛,増田友之.甲状腺未分化癌で differential な発現を示した microRNA.一般口演.

#### 第 27 回日本医学会総会,大阪,2007/4/6~4/8.

- 1.若林剛,新田浩幸,佐々木章,川村英伸,池田健一郎,北島政樹.腹腔鏡下肝胆膵外科の最前線.シンポジウム.

#### 第 107 回日本外科学会学術集会,大阪,2007/4/11~4/13.

- 1.板橋哲也,大塚幸喜,秋山有史,藤澤健太郎,池田健一郎,若林剛.高齢者による腹腔鏡下大腸切除術の治療成績.一般口演.
- 2.伊藤直子,池田健一郎,木村祐輔,岩谷岳,藤原久貴,青木毅一,大塚幸喜,肥田圭介,川村英伸,佐々木章,佐藤信博,石田薫,若林剛.過大侵襲術後の感染性合併症と至適血糖値に関する検討.サージカルフォーラム.
- 3.大塚幸喜,秋山有史,板橋哲也,藤澤健太郎,細井信之,杉立彰夫,若林剛.大腸癌に対する腹腔鏡下手術の当教室の現状.一般口演.
- 4.大塚幸喜.より安全な大腸癌手術の追求.腹腔鏡下直腸手術.イブニングセミナー.
- 5.大淵徹,佐々木章,中嶋潤,川村英伸,新田浩幸,池田健一郎,若林剛.肝硬変患者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応と安全性に関する検討.一般示説.
- 6.川村英伸,佐々木章,野田芳範,菅野将史,若林剛.鼠径部ヘルニアに対する Kugel 法の有用性-再発しない手術のコツ-.一般示説.
- 7.木村祐輔,池田健一郎,岩谷岳,肥田圭介,藤原久貴,佐々木章,川村英伸,大塚幸喜,新田浩幸,石田薫,若林剛.食道癌切除における有茎結腸再建症例の検討.一般示説.
- 8.佐々木章,中嶋潤,大淵徹,川村英伸,新田浩幸,大塚幸喜,肥田圭介,池田健一郎,若林剛.内視鏡外科手術の確立に向けての教育法.サージカルフォーラム.
- 9.高橋正浩,新田浩幸,佐々木章,武田雄一郎,星川浩一,藤田倫寛,板橋英教,船渡治,川村英伸,若林剛.手術リスク評価法 E-PASS による高齢肝癌患者の鏡視下手術の検討.一般示説.
- 10.中嶋潤,佐々木章,大淵徹,小笠原聡,川村英伸,新田浩幸,池田健一郎,若林剛.内視鏡下甲状腺切除後の愁訴と整容性に関する検討.一般示説.
- 11.新田浩幸.TissueLinkTM を用いた腹腔鏡下での肝切除.腹腔鏡(補助)下肝切除術の手技と成績.ランチョンセミナー.
- 12.新田浩幸,佐々木章,板橋英教,藤田倫寛,大淵徹,星川浩一,武田雄一郎,高橋正浩,中嶋潤,船渡治,川村英伸,若林剛.Laparoscopic liver resection for hepatic cancer.ビデオシンポジウム.
- 13.若林剛.腹腔鏡を用いた肝胆膵手術(国際ビデオシンポジウム).座長.
- 14.若林剛,新田浩幸,武田雄一郎,高橋正浩,中嶋潤,船渡治,川村英伸,肥田圭介,佐々木章,池田健一郎.腹腔鏡(補助)下肝切除における肝実質切離の工夫.ビデオシンポジウム.
- 15.若林剛.Tissue LinkTM を用いた腹腔鏡下での肝切除.座長.

**第 44 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2007/5/31~6/2.**

1. 佐々木英之, 水野大, 堀江圭, 友安信, 出口博之, 谷田達男, 若林剛. 13 歳男児に発祥した盲腸憩室炎の一例. 一般示説.
2. 福澤太一, 風間理郎, 高野洋志, 菅原稔, 齊木由利子, 柳沼克幸, 山本雅達, 星川裕, 野田哲生, 林富. コンディショナルターゲットティング法を用いたマウス Patched1 遺伝子の不活性化による横紋筋肉腫発生の試み. 一般示説.
3. 水野大, 佐々木英之, 友安信, 出口博之, 谷田達男, 若林剛. 胎児診断された先天性嚢胞性腺腫様肺奇形 (CCAM) の 3 例. 一般示説.
4. 若林剛. 腹腔鏡下肝切除の最前線. ランチョンセミナー.

**第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2007/6/6~6/8.**

1. 大淵徹, 下沖収, 佐々木章, 若林剛. 膵癌術後局所再発に対し Gemcitabine が奏功した 1 例. 一般示説.
2. 鴻巣正史, 新田浩幸, 川村英伸, 船渡治, 高橋正浩, 板橋哲也, 菅野将史, 若林剛. 肝動注化学療法後に肝切除を行った胆嚢癌術後肝転移の 1 例. 一般演題.
3. 高橋正浩, 新田浩幸, 板橋哲也, 板橋英教, 箱崎将規, 川村英伸, 佐々木章, 若林剛. エホバの証人に対する腹腔鏡補助下拡大肝左葉切除の 1 例. 一般示説.
4. 若林剛, 新田浩幸, 高橋正浩, 中嶋潤, 佐々木章. シンポジウム 2 肝細胞癌の治療戦略と手術の実際 「比較的大きな肝癌に対する腹腔鏡補助下肝切除術. ビデオシンポジウム.

**第 61 回日本食道学会学術集会, 横浜, 2007/6/21~6/22.**

1. 岩谷岳, 木村祐輔, 池田健一郎, 肥田圭介, 藤原久貴, 御供真吾, 加藤久仁之, 上杉憲幸, 佐々木章, 若林剛. 食道癌切除再建, 咽頭癌放射線化学療法後に派生した下咽頭癌肉腫の 1 例. 一般示説.
2. 御供真吾, 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 木村聡元, 上杉憲幸, 若林剛. 食道癌 (UtCe) 放射線化学療法後 CR 症例の 4 年後に脾動脈幹リンパ節再発を来した 1 例. 一般示説.
3. 加藤久仁之, 岩谷岳, 木村祐輔, 高橋正統, 藤原久貴, 野田芳範, 肥田圭介, 池田健一郎, 若林剛. サンポール引用による腐蝕性食道炎に対する 1 切除術. 一般示説.
4. 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 御供真吾, 木村聡元, 上杉憲幸, 若林剛. 治療に難渋した食道治療術後乳糜胸の 1 例. 一般示説.

**第 32 回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2007/6/22~6/23.**

1. 大淵徹, 下沖収, 佐々木章, 皆川幸洋, 藤澤健太郎, 阿部正, 若林剛. 絞扼性イレウスの診断で手術した左傍十二指腸ヘルニアの 1 例. 一般示説.
2. 佐々木章, 肥田圭介, 藤原久貴, 中嶋潤, 大淵徹, 馬場誠朗, 新田浩幸, 川村英伸, 池田健一郎, 若林剛. 噴門・幽門輪近傍の胃 GIST に対する腹腔鏡下胃局所切除術—手技の工夫と pitfall—. ビデオシンポジウム.
3. 塩井義裕, 佐々木章, 川村英伸, 中嶋潤, 大淵徹, 馬場誠朗, 大塚幸喜, 新田浩幸, 池田健一郎, 若林剛. ダブルバルーン小腸内視鏡検査で診断し腹腔鏡補助下空腸部分切除術を行った GIMT の 1 例. 一般示説.
4. 中嶋潤, 佐々木章, 大森浩明, 馬場誠朗, 大淵徹, 新田浩幸, 川村英伸, 肥田圭介, 高橋正浩, 藤原久貴, 若林剛. cine MR イメージを用いた術後胃運動機能の評価. ビデオシンポジウム.
5. 馬場誠朗, 佐々木章, 中嶋潤, 大淵徹, 新田浩幸, 川村英伸, 池田健一郎, 若林剛. 脾臓および脾動脈を温存して腹腔鏡下尾側脾切除を施行した IPMN の 1 例. 一般示説.

**第 15 回日本乳癌学会, 横浜, 2007/6/29~6/30.**

1. 稲葉亨, 柏葉匡寛, 早川善郎, 滝山郁雄, 若林剛. 当科における FEC100 療法の忍容性についての検討. 一般口演.
2. 柏葉匡寛, 若林剛, 中村清吾, 黒井勝政, 岩田広治, 大野真司, 増田真三, 佐藤信昭, 麻賀太郎, 山本尚人, 青儀健次郎, 佐藤康幸, 黒住昌史, 津田均, 秋山太, 戸井雅和. JBCRG03: Docetaxel followed by FEC100 による術前化学療法: JBCRG01,02 からの review と breakthrough. シンポジウム.
3. 柏葉匡寛. 示説討論 65 基礎 2. 座長.

**第 62 回日本消化器外科学会定期学術総会, 東京, 2007/7/18~7/20.**

1. 秋山有史, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 若林剛. 腹腔鏡下大腸癌手術におけるバイポーラ鉗子を用いた安全な手術手技. ビデオワークショップ.
2. 池田健一郎, 木村祐輔, 岩谷岳, 伊藤直子, 藤原久貴, 肥田圭介, 木村聡元, 佐々木章, 佐藤信博, 若林剛. 切除不能 T4 and/or M1LYM 胸部食道癌に対する化学放射線療法後の手術成績. 一般示説.
3. 板橋哲也, 大塚幸喜, 秋山有史, 藤澤健太郎, 細井信行, 佐々木章, 若林剛. 安全かつ合理的な腹腔鏡下大腸癌手術手技. ビデオワークショップ.
4. 伊藤直子, 池田健一郎, 木村祐輔, 岩谷岳, 藤原久貴, 青木毅一, 大塚幸喜, 肥田圭介, 佐藤信博, 若林剛. 胸部食道癌術後の感染性合併症と至適血糖値に関する検討. 一般示説.
5. 岩谷岳, 木村聡元, 池田健一郎, 藤原久貴, 肥田圭介, 御供真吾, 上杉憲幸, 佐々木章, 若林剛. Long segment Barrett's Esophagus に発生した多発 Barrett 腺癌の 1 例. 一般示説.
6. 大塚幸喜, 秋山有史, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 細井信行, 佐々木章, 若林剛. 進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術手技—標準術式を目指して—. 一般口演.
7. 御供真吾, 岩谷岳, 池田健一郎, 肥田圭介, 木村祐輔, 藤原久貴, 野田芳範, 木村聡元, 上杉憲幸, 若林剛. リンパ球浸潤を伴う髄様癌 (MCLI) の画像を呈した食道低分化型腺癌の 1 例. 一般示説.
8. 大淵徹, 下沖収, 佐々木章, 皆川幸洋, 藤澤健太郎, 阿部正, 若林剛. 門脈ガス血症を伴った閉塞性腸管虚血症の 1 例. 一般示説.
9. 木村聡元, 高金典典, 入野田崇, 早川善郎, 目黒英二, 小林慎. 当院で経験した稀な閉鎖孔ヘルニアの 2 例. 一般示説.
10. 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 木村聡元, 御供真吾, 若林剛. 胸部下部食道癌における郭清領域の検討. 一般示説.

11. 肥田圭介, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 岩谷岳, 木村祐輔, 池田健一郎, 高金明典, 若林剛. 胃癌に対するNo.14vリンパ節郭清の意義. 一般口演.
12. 佐々木章, 肥田圭介, 藤原久貴, 新田浩幸, 中嶋潤, 大淵徹, 馬場誠朗, 大塚幸喜, 川村英伸, 池田健一郎, 若林剛. 胃 GIST に手術成績と再発・転移例に対する治療戦略. 一般口演.
13. 高橋正浩, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 新田浩幸, 川村英伸, 佐々木章, 若林剛. 腹腔鏡下肝切除におけるシミレーションの有用性. 一般口演.
14. 中嶋潤, 佐々木章, 大森浩明, 川村英伸, 大淵徹, 新田浩幸, 池田健一郎, 若林剛. cineMR 画像による胃運動機能評価の試み. 一般口演.
15. 新田浩幸, 高橋正浩, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 中嶋潤, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡下肝切除術における出血対策. ビデオワークショップ.
16. 藤澤健太郎, 大塚幸喜, 秋山有史, 板橋哲也, 佐々木章, 若林剛. ダブルバルーン小腸内視鏡にて術前診断し得た小腸病変の2例. 一般示説.
17. 若林剛. 要望演題 18 肝・術後管理. 司会.

#### 第 21 回キチンキトサンシンポジウム, 神戸, 2007/7/26~7/27.

1. 杉立彰夫, 高森吉守, 黒住誠司, 森隆利, 福田稔, 若林剛. キチンキトサン・臨床利用展開の試み. シンポジウム.

#### 第 39 回日本医学教育学会および学術大会, 盛岡, 2007/7/27~7/28.

1. 佐々木純, 若林剛. 岩手医大の医学教育展示施設について. 一般口演.

#### 第 22 回日本救命医療学会総会, 大阪, 2007/9/14~9/15.

1. 佐藤信博, 小鹿雅博, 鈴木泰, 井上義博, 遠藤重厚, 鴻巣正史, 若林剛. 腐食性消化管壊死に対して一期的に食道切除・胃全摘・結腸再建・全膀胱温存膀胱十二指腸切除, 空腸切除, を施行した1例. 一般口演.

#### 第 66 回日本癌学会, 横浜, 2007/10/3~10/5.

1. A. Sugitachi, T. Itabashi, K. Fujisawa, K. Ikeda, H. Kawamura, G. Wakabayashi. A Novel Anticancer Drug Delivery System. 一般示説.
2. S. Ogasawara, C. Maesawa, Y. Tomisawa, T. Iwaya, S. Nisizuka, T. Matsuo, M. Yamamoto, T. Masuda, G. Wakabayashi. Expressions of the markers of progenitors thyroid cancer. 一般示説.
3. S. Mitomo, C. Maesawa, S. Ogasawara, G. Wakabayashi, T. Masuda. Down-regulation of miRNA-138 is associated with overexpression of hTERT protein in anaplastic thyroid carcinoma. ワークショップ.

#### 第 34 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 仙台, 2007/10/6~10/7.

1. 千葉睦実, 塚原央之, 佐々木美香, 千田勝一, 水野大. 小児の噴門形成術前後における血糖, インスリン, glucagon-like peptide-1 の測定. 一般口演.
2. 戸津五月, 佐々木美香, 佐々木智子, 松本敦, 葛西健郎, 千田勝一, 水野大. 急性胃粘膜病変により循環血液量減少性ショックをきたした新生児例. 一般示説.

#### 第 40 回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京, 2007/10/18~10/19.

1. 小笠原聡, 若林剛, 前沢千早, 増田友之, 富澤勇貴, 米山幸宏, 山本政秀, 旭博史, 杉村好彦, 畠山元, 武田雄一郎. 甲状腺未分化癌と石炭化の関係についての検討. 一般口演.
2. 小笠原聡, 富澤勇貴, 鈴木正通, 前沢千早, 米山幸宏, 菅井有, 増田友之, 若林剛. 濾胞型乳頭癌の検討: 濾胞型乳頭癌は生物学的に乳頭癌の一亜型なのか?. 一般口演.
3. 富澤勇貴, 小笠原聡, 旭博史, 杉村好彦, 畠山元, 星川浩一, 米山幸宏, 若林剛. Mohs surgery により止血と腫瘍縮小効果を認めた甲状腺癌頸部再発の1例. 一般口演.

#### 第 49 回日本消化器病学会, 神戸, 2007/10/18~10/21.

1. 佐々木章, 大淵徹, 中嶋潤, 馬場誠朗, 新田浩幸, 池田健一郎, 若林剛. 消化管機能からみた腹腔鏡下 Heller-Dor 手術の評価. パネルディスカッション.

#### 第 45 回日本癌治療学会総会, 京都, 2007/10/24~10/26.

1. 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 直腸癌に対する鏡視下拡大視効果による機能温存を目指した手技. ワークショップ.
2. 柏葉匡寛, 稲葉亨, 滝山郁雄, 若林剛. <sup>99m</sup>Tc-Phytate を用いた進行乳癌術前化学療法後の sentinel node biopsy の妥当性の検討. 一般口演.
3. 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 須藤隆之, 大塚幸喜, 新田浩幸, 小笠原聡, 柏葉匡寛, 若林剛. 当科における食道癌と他臓器悪性腫瘍重複症例の検討. 一般示説.
4. 肥田圭介, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 池田健一郎, 若林剛. TS-1/CDDP 併用化学療法後に切除が可能となった Stage IV スキルス胃癌の1例. 一般示説.
5. 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 高橋正浩, 中嶋潤, 川村英伸, 若林剛. 原発性肝癌に対する内視鏡下手術の役割. 一般口演.

#### 第 62 回日本大腸肛門病学会, 東京, 2007/11/2~11/3.

1. 板橋哲也, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 秋山有史, 菅野将史, 佐々木章, 若林剛. 腹腔鏡補助下大腸切除における予防的経口抗菌剤投与の検討. 一般口演.
2. 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 腹腔鏡下直腸癌手術の適応拡大に向けての安全な手技. 一般口演.

#### 第 20 回日本外科感染症学会, 東京, 2007/11/7~11/9.

1. 小鹿雅博, 佐藤信博, 鈴木泰, 高橋学, 遠藤重厚, 前沢千早, 若林剛. Linezolid 投与による末梢茂後サイトカイン産生能の検討. 一般口演.
2. 高原武志, 川村英伸, 鴻巣正史, 板橋哲也, 高橋正浩, 新田浩幸, 佐々木章, 池田健一郎, 滝川康裕, 鈴木幸一, 若林剛. 肝移植の C 型肝炎再発

に対する IFN の療法 (a low accelerating dosage regimen). 一般口演.

- 野田芳範, 新田浩幸, 川村英伸, 船渡治, 高橋正浩, 高原武志, 板橋哲也, 千葉丈広, 若林剛. リネゾイドが有効であった術後 MRSA 感染症例. 一般口演.
- 若林剛. 1. 一般演題 (No1113) サイトカイン. 座長.

## 第 50 回日本甲状腺学会, 神戸, 2007/11/15 ~ 11/17.

- 小笠原聡, 富澤勇貴, 前沢千早, 鈴木正通, 米山幸宏, 菅井有, 増田友之, 若林剛. 濾胞型乳頭癌; 予後不良症例の検討. 一般示説.
- 富澤勇貴, 小笠原聡, 米山幸宏, 若林剛. 甲状舌肝嚢胞に発生した甲状腺乳頭癌の 1 例. 一般示説.

## 第 34 回日本低温医学会, 北海道, 2007/11/16 ~ 11/17.

- G.Wakabayashi.Evening lecture. 座長.
- G.Wakabayashi.Workshop 1. 座長.

## 第 29 回日本臨床栄養学会総会, 京都, 2007/11/16 ~ 11/18.

- 池田健一郎, 依万里子, 竹島沙史里, 小原美由紀, 岩動美奈子, 二本木寿美子, 遠藤龍人, 鈴木一幸. がん化学療法施行患者に対する栄養士・NST の介入について. ワークショップ.

## 第 20 回日本内視鏡外科学会総会, 仙台, 2007/11/19 ~ 11/21.

- 秋山有史, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 若林剛. 安全な腹腔鏡下大腸切除のための視野展開における助手の役割. シンポジウム.
- 板橋哲也, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 秋山有史, 菅野将史, 佐々木章, 若林剛. 術中に診断された大腸癌肝転移の 4 例. ビデオワークショップ.
- 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章. 腹腔鏡下低位前方における神経温存のピットフォール. ビデオワークショップ.
- 大塚幸喜. シンポジウム 7 大腸癌手術の術野展望. 座長.
- 大淵徹, 佐々木章, 新田浩幸, 中嶋潤, 馬場誠朗, 池田健一郎, 阿部弘一, 滝川康裕, 鈴木一幸, 若林剛. 血小板減少を伴う C 型肝炎・肝硬変に対するインターフェロン治療を目的とした腹腔鏡下脾臓摘出術の有用性. 一般口演.
- 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 御供真吾, 木村聡元, 野田芳範, 佐々木章, 若林剛. 腐蝕性食道炎に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した 1 例. ビデオワークショップ.
- 肥田圭介, 大塚幸喜, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 木村祐輔, 岩谷岳, 池田健一郎, 若林剛. 胃大腸同時性重複癌に対し腹腔鏡補助下に同時切除を行った 3 例. 一般口演.
- 佐々木章, 新田浩幸, 中嶋潤, 大淵徹, 馬場誠朗, 大塚幸喜, 肥田圭介, 池田健一郎, 若林剛. 高度癒着が予測される手術既往例に対する腹腔鏡下手術. 一般口演.
- 佐々木章. 食道良性 1. 座長.
- 高橋正浩, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 高原武志, 新田浩幸, 川村英伸, 三浦行矣, 若林剛. 肝切除シミュレーションによる腹腔鏡下肝切除. 一般口演.
- 中嶋潤, 佐々木章, 川村英伸, 大淵徹, 馬場誠朗, 新田浩幸, 池田健一郎, 若林剛. 腹腔鏡下副腎摘出に対するクリニカルパスの実際. 一般口演.
- 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 川村英伸, 若林剛. 転移性肝癌に対する腹腔鏡下 (補助) 下肝切除の有用性. シンポジウム.
- 馬場誠朗, 佐々木章, 須藤隆之, 玉沢佳之, 細井信之, 大淵徹, 中嶋潤, 新田浩幸, 大塚幸喜, 肥田圭介, 池田健一郎, 若林剛. 腹腔鏡下摘出手術を施行した神経性腫瘍の 2 例. 一般口演.
- 藤澤健太郎, 大塚幸喜, 板橋英教, 秋山有史, 佐々木章, 若林剛. ダブルバルーン小腸内視鏡にて術前診断し腹腔鏡下手術で治療し得た小腸病変の 1 例. 一般口演.
- 藤田倫寛, 新田浩幸, 大塚幸喜, 板橋英教, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 川村英伸, 佐々木章, 若林剛. 大腸癌多発転移に対する二期的肝切除の初回手術を腹腔鏡補助下に行った 2 例. 一般口演.
- 水野大, 福澤太一, 若林剛. 5.5mm 径トロッカー挿入部位に術後ポートサイトヘルニア嵌頓を生じた 1 乳児例. ビデオワークショップ.
- 水野大. 一般口演 小児外科 3. 司会.
- 山口久美子, 熊谷美佐子, 金野絵里子, 赤平律子, 阿部京子, 佐々木章, 若林剛. 手術室における医療安全の取り組み - 安心で安全な内視鏡手術を受けて頂くために -. 特別企画.
- 若林剛. (HeracoJ.Asbn,MD).JSSES/SAGES Joint Symposium 実際の症例を通して知る, 日米内視鏡外科の相違点 The difference of endoscopic surgery between Japan and US. シンポジウム.
- 若林剛. 肝臓切除手術手技. 座長.

## 第 43 回日本移植学会, 仙台, 2007/11/22 ~ 11/24.

- 高橋正浩, 若林剛, 中村真一, 野坂大喜, 松本光司. 移植肝の病理診断 - パーチャルスライドを用いたコンサルテーションシステムの構築 -. 一般示説.
- 若林剛. 肝 9. 司会.

## 第 54 回日本臨床検査医学会学術大会, 大阪, 2007/11/22 ~ 11/25.

- 三浦吉範, 佐藤祐子, 豊巻和司, 依万里子, 遠藤龍人, 池田健一郎, 諏訪部章. 肝不全を合併した急性大動脈解離患者における栄養療法の 1 例. 一般口演.

## 第 29 回日本バイオマテリアル学会, 大阪, 2007/11/26 ~ 11/27.

1. 杉立彰夫, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 高森吉守, 黒住誠司, 森隆利, 高松正之, 若林剛. 鎮痛剤徐放性創傷被覆材料. 一般口演.

#### 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2007/11/29~12/1.

1. 岩谷岳, 木村祐輔, 池田健一郎, 高橋正統, 肥田圭介, 千葉丈広, 野田芳範, 佐々木章, 若林剛. 食道癌初期治療としての Docetaxel/CDDP/5Fu(DCF) 療法の有用性の検討. 一般示説.
2. 板橋哲也, 大塚幸喜, 秋山有史, 藤澤健太郎, 菅野将史, 佐々木章, 若林剛. SSI. 発症予防における予防的経口菌剤投与の検討. 一般口演.
3. 大塚幸喜. 直腸癌に対する鏡視下直腸切除術. スポンサーディンボジウム.
4. 大塚幸喜. 一般口演「大腸・肛門(悪性)」。座長.
5. 大塚幸喜. Freshman Award「大腸・虫垂・肛門(悪性)」。座長.
6. 大淵徹, 佐々木章, 清水周次, 中嶋潤, 馬場誠朗, 大塚幸喜, 坂本隆, 伊藤達朗, 阿部正, 遠藤秀彦, 八島良幸, 菅野千治, 若林剛. 高速ネットワークを利用した遠隔医療カンファランス. 特別企画.
7. 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 野田芳範, 御供真吾, 高橋正統, 木村聡元, 佐々木章, 若林剛. 食道癌における根治的放射線化学療法後の Salvage 手術の意義. 一般口演.
8. 佐々木章. 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 手術後の QOL 評価. パネルディスカッション.
9. 佐々木章. 胆道(悪性) 4. 座長.
10. 高橋正浩, 川村英伸, 菅野将史, 板橋英教, 藤田倫寛, 武田雄一郎, 高原武志, 船渡治, 新田浩幸, 若林剛, 菅井有, 上杉憲幸. 広範な下大静脈腫瘍塞栓を形成した後腹膜発巨大平滑筋肉腫の 1 例. 一般口演.
11. 高橋正統, 肥田圭介, 藤原久貴, 千葉丈広, 岩谷岳, 木村祐輔, 池田健一郎, 若林剛. TS-1/CDDP(腹腔内投与)併用療法後根治切除可能となった高度進行胃癌の 1 例. 一般示説.
12. 中嶋潤, 佐々木章, 大淵徹, 馬場誠朗, 新田浩幸, 池田健一郎, 若林剛. 甲状腺外科における先進医療一内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術の現状と問題点一. ワークショップ.
13. 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡下(補助)下肝切除術の適応と手術手技. ビデオシンポジウム.
14. 野田芳範, 新田浩幸, 阿保亜紀子, 高橋正浩, 千葉丈広, 藤田倫寛, 板橋英教, 武田雄一郎, 星川浩一, 船渡治, 川村英伸, 若林剛. 腹腔内出血で発見された脾血管肉腫の 1 例. 一般示説.
15. 馬場誠朗, 中嶋潤, 佐々木章, 曾根美雪, 加藤健一, 大森浩明, 大淵徹, 新田浩幸, 肥田圭介, 高橋正浩, 江原茂, 若林剛. 消化器外科術後の胃運動機能評価としての cine MRI の可能性. 一般示説.
16. 藤澤健太郎, 大塚幸喜, 板橋哲也, 菅野将史, 松尾鉄平, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 大腸癌卵巣転移の 2 例. 一般口演.
17. 藤田倫寛, 吉田徹, 小原真, 石田和茂, 遠藤重厚, 新田浩幸, 若林剛. 当院における FOLFOX の使用経験. 一般示説.
18. 若林剛. ビデオシンポジウム 2-1 直視 (OPEN) 手術と鏡視下手術との癒合一安全・確実な低侵襲手術の新たな展開 (肝・胆・膵). 座長.

#### 第 23 回日本小児がん学会, 仙台, 2007/12/15.

1. 福澤太一, 水野大, 若林剛, 菅原稔, 遠藤幹也. 腹膜播種を来したものの集学的治療で CR が得られた滑膜肉腫の 1 例. 一般示説.
2. 水野大. 一般示説 10. 司会.

### 3-3 研究会

#### 第 4 回岩手大腸癌治療研究会, 盛岡, 2007/2/2.

1. 秋山有史, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 池田健一郎, 若林剛. 当科における進行・再発大腸癌に対する FOLFIRI 療法の使用経験. 一般口演.
2. 池田健一郎. 一般演題 1.2. 座長.
3. 若林剛. 特別講演 (大腸癌化学療法の日の出) 埼玉医科大学 臨床腫瘍科 助教授 市川度先生. 座長.

#### 第 2 回いわて肝移植適応研究会, 盛岡, 2007/2/23.

1. 若林剛. 特別講演 2, 「生体肝移植一順天堂大学でのとりくみを中心に」 順天堂大学 消化器外科講座 教授 川崎誠治. 座長.

#### 第 7 回秋田県外科医療研究会, 秋田, 2007/2/24.

1. 大山健一, 高橋正統, 青木毅一. 当科の幽門側胃切除パスについて. 一般口演.

#### 第 23 回岩手ストーマ研究会, 盛岡, 2007/3/3.

1. 大塚幸喜, 北村道彦. 岩手県のストーマ造設法の現状. 一般口演.

#### 第 18 回東北小児肝胆膵消化管研究会, 仙台, 2007/3/17.

1. 佐々木美香, 千葉睦美, 塚原央之, 松本敦, 戸津五月, 熊谷秀則, 千田勝一, 佐々木英之, 水野大. 診断に苦慮した腹壁破裂を合併した胆道閉鎖症の 1 例. 一般口演.

## 第5回日本ヘルニア研究会, 浜松, 2007/4/7.

1. 板橋哲也, 川村英伸, 若林剛. 鼠径ヘルニアのクリニカルパスの有用性. ワークショップ.
2. 川村英伸, 池田健一郎, 佐々木章, 肥田圭介, 大塚幸喜, 新田浩幸, 木村祐輔, 岩谷岳, 中嶋潤, 藤原久貴, 秋山有史, 若林剛. 日本ヘルニア研究会の鼠径ヘルニア分類の検討. 一般演題.

## 第6回日本PTEG研究会学術集会, 栃木, 2007/4/7.

1. 富澤勇貴. 緩和医療としてのPTEGの有用性に関する検討. シンポジウム.

## 第4回岩手GIST研究会, 盛岡, 2007/4/14.

1. 馬場誠朗, 肥田圭介, 新田浩幸, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 岩谷岳, 木村祐輔, 池田健一郎, 若林剛. 胃GIST術後の二度にわたる異時性肝転移切除術後に遠隔転移再発を認めた1例. 一般口演.
2. 若林剛. 特別講演「GIST治療の標準化と問題点」. 座長.

## 第10回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2007/5/12.

1. 木村祐輔, 池田健一郎, 岩谷岳, 肥田圭介, 藤原久貴, 高橋正統, 若林剛. 酸による腐食性食道炎に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した一例. 一般口演.
2. 肥田圭介, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 岩谷岳, 木村祐輔, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 当科における腹腔鏡補助下胃癌手術の検討. 一般口演.
3. 若林剛. 特別講演Ⅱ「腹腔鏡下胃癌手術の現状」大阪医大 一般・消化器外科学 教授 谷川允彦. 座長.

## 第47回岩手の肝胆膵研究会, 盛岡市(循環センター), 2007/5/26.

1. 高橋正浩, 板橋英教, 藤田倫寛, 鴻巣正史, 星川浩一, 武田雄一郎, 板橋哲也, 船渡治, 新田浩幸, 川村英伸, 若林剛. 岩手初の生体部分肝移植の経験. 一般口演.
2. 野田芳範. 術後MRSA感染症に対する齊ボックスの使用経験. 一般口演.

## 第43回日本肝癌研究会, 東京, 2007/6/21~6/22.

1. 板橋英教, 新田浩幸, 板橋哲也, 箱崎将規, 高橋正浩, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡補助下におこなった輸血拒否患者における肝切除の1例. 一般示説.
2. 高橋正浩, 川村英伸, 板橋英教, 藤田倫寛, 鴻巣正史, 星川浩一, 武田雄一郎, 板橋哲也, 新田浩幸, 若林剛. 肝細胞癌に対する肝移植の経緯—ミラノ基準を考える—. 一般示説.
3. 新田浩幸, 佐々木章, 高橋正浩, 板橋英教, 藤田倫寛, 大淵徹, 星川浩一, 武田雄一郎, 中嶋潤, 船渡治, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡補助下肝切除における手技の工夫〜特にhanging techniqueの有用性について〜. ビデオセッション.

## 第29回日本癌局所療法研究会, 東京, 2007/6/28~6/29.

1. 杉立彰夫, 大塚幸喜, 秋山有史, 藤澤健太郎, 板橋哲也, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 局所停留性, 徐放性を府与した新剤シスプラチン. 一般口演.

## 第7回岩手甲状腺研究会, 盛岡, 2007/6/30.

1. 富澤勇貴, 小笠原聡, 旭博史, 杉村好彦, 畠山元, 星川浩一, 米山幸宏, 若林剛. 切除不能甲状腺癌に対するモーズ軟膏の使用により, 止血と腫瘍縮小効果を認めた1例. 一般口演.
2. 若林剛. 「甲状腺外科医なら出来る内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術—導入から今日まで356例の経験から得られた改善と工夫—」. 座長.

## 第17回東北肝臓外科研究会, 仙台, 2007/6/30.

1. 高橋正浩, 川村英伸, 新田浩幸, 船渡治, 星川浩一, 武田雄一郎, 板橋哲也, 藤田倫寛, 板橋英教, 鴻巣正史, 若林剛. 肝細胞癌に対する肝移植の経験—術前後ミラノ基準を考える—. 一般口演.
2. 福澤太一, 水野大, 若林剛, 遠藤幹也. 治療に難渋した進行性肝腫瘍の1例. 一般口演.

## 第2回岩手腫瘍免疫・化学療法研究会, 盛岡, 2007/7/3.

1. 若林剛. 一般講演. 座長.

## 第25回日本肝移植研究会, 東京, 2007/7/5~7/6.

1. 高橋正浩. 肝細胞癌に対する肝移植の術前後で考えるミラノ基準. 一般示説.

## 第67回大腸癌研究会, 神戸, 2007/7/6.

1. 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 菅井有, 上杉憲幸, 若林剛. sm大腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績. 一般口演.

## 第3回いわて肝移植適応研究会, 盛岡市(循環器医療センター), 2007/8/24.

1. 若林剛. 特別講演Ⅱ「ここまで来た! 北海道の移植」. 座長.

## 第37回岩手周産期研究会, 盛岡, 2007/8/25.

1. 大竹伸平, 及川亨, 石橋春美, 村上陽一, 飯岡理, 水野大. 腸回転異常に合併した中腸軸捻転の超音波診断. 一般口演.
2. 福澤太一, 水野大, 若林剛. 胎児診断された先天性嚢胞状腺腫瘍奇形(CCAM)の3例. 一般口演.

## 第12回乳管内視鏡研究会, 大阪, 2007/9/8.

1. 柏葉匡寛. Treatment Strategy for HER2 Positive Breast Cancer. ランチョンセミナー.

## 第34回東北大腸研究会, 青森, 2007/9/14.



1. 板橋哲也, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 秋山有史, 上杉憲幸, 菅井有, 若林剛. Ra/Rb 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績. 一般口演.

**第 33 回東北小児外科研究会, 青森, 2007/9/14.**

1. 福澤太一, 水野大, 若林剛. 当科における低出生体重児外科症例の検討. 一般口演.

**第 16 回潰瘍病態研究会, 東京, 2007/9/22.**

1. 板橋哲也, 杉立彰夫, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 肥田圭介, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 潰瘍に対する局所治療の試み. 一般口演.

**第 2 回肝癌治療シミュレーション研究会, 大阪, 2007/9/22.**

1. 高橋正浩, 板橋哲也, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 新田浩幸, 川村英伸, 佐々木章, 若林剛, 三浦行矣. より安全な腹腔鏡下肝切除を目指して—肝切除シミュレーション—. 一般口演.

**第 16 回潰瘍病態研究会, 横浜, 2007/9/22.**

1. 金龍学, 北川雄光, 中村哲也, 田辺稔, 河地茂行, 篠田昌弘, 才川義朗, 和田則仁, 吉田昌, 北島政樹, 石川秀樹, 若林剛. システアミンラットモデルにおけるカンジタ感染の十二指腸潰瘍への影響. 一般口演.

**第 11 回東北緩和医療研究会, 盛岡, 2007/10/6.**

1. 木村祐輔. セッション「一般演題: 緩和ケアチーム」. 座長.

**第 37 回胃外科術後障害研究会, 大阪, 2007/10/9.**

1. 肥田圭介, 藤原久貴, 高橋正統, 千葉丈広, 若林剛. 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における再建の工夫—再建法別の上部横切開による小開腹—. 一般口演.  
2. 福澤太一, 水野大, 若林剛. 胎児診断された先天性嚢胞状腺腫様奇形 (CCAM) の 3 例. 一般口演.

**第 20 回東北膵・胆道癌研究会, 仙台, 2007/10/27.**

1. 高橋正浩, 川村英伸, 船渡治, 武田雄一郎, 星川浩一, 藤田倫寛, 板橋英教, 新田浩幸, 若林剛. Gemcitabine(GEM)+TS-1- 切除不能進行膵癌に対する治療成績. 一般口演.

**第 18 回日本小児呼吸器外科研究会, 大阪, 2007/11/17.**

1. 佐々木智子, 葛西健朗, 戸津五月, 松本敦, 千田勝一, 水野大. 晩発性呼吸障害で発症し, 先天性嚢胞性腺腫様肺奇形Ⅲ型が疑われる新生児例. 一般口演.

**第 1 回肝臓内視鏡外科学会, 仙台, 2007/11/19.**

1. 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 船渡治, 川村英伸, 若林剛. 腹腔鏡補助下肝切除術における手技の工夫と問題点. シンポジウム.  
2. 若林剛. 安全な肝実質切除法. 座長.

**第 2 回東北消化器外科周術期研究会, 仙台, 2007/11/24.**

1. 新田浩幸, 佐々木章, 板橋英教, 藤田倫寛, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 船渡治, 川村英伸, 池田健一郎, 若林剛. 腹腔鏡下肝部分切除術におけるドレーンの必要性. 一般口演.

**第 14 回外科侵襲とサイトカイン研究会, 別府, 2007/12/15.**

1. 池田健一郎. 1. 重症感染症・手術侵襲とサイトカイン. 座長.  
2. 鈴木泰, 佐藤信博, 小鹿雅博, 高橋学, 若林剛, 遠藤重厚. 敗血症における CTR-001 カラムを用いた DHP 治療の臨床的効果. 一般口演.  
3. 藤田倫寛, 前沢千早, 新田浩幸, 板橋英教, 大淵徹, 星川浩一, 武田雄一郎, 高原武志, 高橋正浩, 中嶋潤, 船渡治, 川村英伸, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. ラット活性型肝星細胞に対する IFN- $\gamma$  標的蛋白質の網羅的プロテオーム解析. 一般口演.

### 3-4 地方会

**第 4 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2007/3/3.**

1. 稲葉亨, 柏葉匡寛, 滝山郁雄, 若林剛. Capecitabine/Endoxan(XC) 療法後に Exemestane が奏功した再発乳癌の一例. 一般口演.  
2. 柏葉匡寛, 稲葉亨, 滝山郁雄, 若林剛.  $^{99m}\text{Tc}$ -Phytate を用いた乳癌術前化学療法の sentinel node biopsy の妥当性の検討. 一般口演.  
3. 佐藤誠志, 平井佳那子, 澤村邦子, 岩淵修, 櫻田優子, 渋谷幸子, 三浦一穂, 高橋あつ子, 稲葉亨, 柏葉匡寛, 若林剛, 高橋勝雄. 乳がん化学療法におけるチーム医療の実践—薬剤師の取り組みと成果—. 一般口演.  
4. 若林剛. ランチョンセミナー「乳癌治療の将来展望」—カペシタビンの可能性— 戸井雅和 (京都大学 乳腺外科 教授). 座長.

**第 580 回岩手医学会, 盛岡, 2007/3/13.**

1. 高橋正浩, 板橋英教, 藤田倫寛, 鴻巣正史, 星川浩一, 武田雄一郎, 板橋哲也, 船渡治, 新田浩幸, 川村英伸, 若林剛. 生体部分肝移植を経験して. 一般口演.

**第 5 回東北臨床腫瘍セミナー, 仙台, 2007/5/19.**

1. 池田健一郎. がん医療専門職認定制度とその役割. 座長.

**第 153 回東北外科集談会, 仙台, 2007/6/16.**

- 菅野将史, 大塚幸喜, 藤澤健太郎, 秋山有史, 板橋哲也, 小松英明, 松尾鉄平, 若林剛. 転移性臍癌を合併した胃・大腸・直腸重複癌の1例. 一般口演.
- 馬場誠朗, 肥田圭介, 新田浩幸, 藤原久貴, 千葉丈広, 岩谷岳, 木村祐輔, 若林剛. 胃 GIST 術後の二度にわたる異時性肝転移切除術後に遠隔転移再発を認めた1例. 一般口演.

### 緩和ケアチームの懇話会, 盛岡, 2007/6/27.

- 池田健一郎. パネルディスカッション: コンサルティング型緩和ケアチームの活動について. 司会.
- 木村祐輔. コンサルティング型緩和ケアチームの活動について. パネルディスカッション.
- 若林剛. 特別講演「大学病院の緩和ケアチームと外科緩和ケア医～その役割～」. 座長.

### 第183回日本消化器病東北支部例会, 弘前, 2007/7/13～7/20.

- 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 秋山有史, 佐々木章, 池田健一郎, 若林剛. 早期大腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績. シンポジウム.

### 第4回日本乳癌学会中国四国地方会, 広島, 2007/8/31.

- 柏葉匡寛. 乳癌骨転移のマネージメントーチーム医療でのサポートを考えるー. ランチョンセミナー.

### 第75回日本小児外科学会東北地方会, 青森, 2007/9/15.

- 福澤太一, 水野大, 若林剛. 小児大腿ヘルニアの1例. 一般口演.
- 水野大. 一般口演 1. 司会.

### 第154回東北外科集談会, 青森, 2007/9/15.

- 石田和茂, 遠藤秀彦, 吉田徹, 小原真, 藤田倫寛, 田村雄一郎, 三浦自雄, 若林剛. 当科における大腸癌症例の臨床病理学的検討～SM癌リンパ節転移症例の検討～. 一般口演.
- 木村祐輔. 小腸 I (4題). 座長.
- 新田浩幸. 肝臓. 座長.

### 第120回日本小児科学会岩手地方会, 盛岡, 2007/12/8.

- 高原武志, 水野大, 福澤太一, 野田芳範, 高橋正浩, 新田浩幸, 若林剛. 県内初の小児生体肝移植. 一般口演.

## 4. 講演会

### 大学院・医学教育セミナー, 盛岡, 2007/1/18.

- 若林剛. 岩手医科大学付属病院のがん診療拠点病院化に向けた取り組み. 講演.

### 19th Technical Seminar for Endoscopic Surgery, 須賀川 (エチコン研究センター), 2007/2/3.

- 大塚幸喜. 右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術. 講演.

### 第22回日本静脈経腸栄養学会 平成19年度コ・メディカル教育セミナー, 愛媛, 2007/2/10.

- 池田健一郎. 静脈栄養法の管理・静脈栄養法の合併症と対策. 講演.

### 第7回秋田県外科医療研究会, 秋田, 2007/2/24.

- 池田健一郎. 特定機能病院におけるDPCとクリニカルパス～消化器癌領域を中心として～. 特別講演.

### 第1回移植 Live Seminar, 神戸, 2007/3/10.

- 若林剛. 腹腔鏡補助下ドナー肝切除. 特別講演.

### 20th Technical Seminar for Endoscopic Surgery, 須賀川 (エチコン研究センター), 2007/3/17.

- 大塚幸喜. 右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術. 講演.

### 第27回日本医学会総会, 大阪本, 2007/4/6.

- 若林剛. シンポジウム「内視鏡下手術の進歩・問題点ー21世紀における低侵襲手術の展開ー」. 基調講演.

### 第56回化血研学術講演会, 熊本, 2007/4/20.

- 若林剛. 肝臓外科領域における生体組織接着剤の新しい使用方法. 特別講演.

### 2nd Technical Seminar for Endoscopic Surgery [ORS], 須賀川 (エチコン研究センター), 2007/4/21.

- 大塚幸喜. 腹腔鏡下大腸切除. 講演.

### 23th Technical Seminar for Endoscopic Surgery, 須賀川 (エチコン研究センター), 2007/5/12.

- 大塚幸喜. 右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術. 講演.

平成 19 年度圭陵会埼玉支部総会,さいたま市,2007/5/19.

1. 若林剛. 岩手医科大学外科のめざすもの. 特別講演.

第 378 回八戸外科集談会,八戸,2007/6/14.

1. 若林剛. 腹腔鏡(補助)下肝切除の新しい展開. 特別講演.

第 412 回盛岡地区病院栄養研究会,盛岡市(循環器センター),2007/6/15.

1. 池田健一郎. 経腸栄養剤の基礎知識. 特別講演.

一関市医師会学術講演会,一関,2007/6/22.

1. 池田健一郎. 周術期の栄養管理. 講演.

第 31 回北陸静脈・経腸栄養研究会,石川,2007/6/30.

1. 池田健一郎. 同術期の栄養管理～消化器手術を中心として～. 特別講演.

第 47 回千駄木肝カンファランス,日本医科大学第 2 臨床行動,2007/7/2.

1. 若林剛. 「腹腔鏡下肝切除の意義と主義の実際」. 特別講演.

Team J 10 周年記念シンポジウム,大阪(大阪医科大学),2007/7/7.

1. 大塚幸喜. 「腹腔鏡下大腸癌手術開始 10 年」と「これから」. 講演.

平成 19 年度圭陵会三八支部総会及び学術講演会・懇親会,八戸,2007/7/14.

1. 若林剛. 外科学講座の目指すものー「巖当会」とともに. 特別講演.

第 25 回腹腔鏡下大腸切除講習会,須賀川(エチコン研究センター),2007/7/21.

1. 大塚幸喜. 腹腔鏡下右結腸切除術. 講演.

第 3 回東北乳癌化学療法セミナー,盛岡,2007/7/21.

1. 柏葉匡寛. 乳がん化学療法の最新知見. 特別講演.

第 349 回岩手胃腸研究会,盛岡,2007/7/26.

1. 大塚幸喜. これからの大腸癌治療ー腹腔鏡下低侵襲手術を中心にー. 講演.

釜石市乳癌勉強会,釜石,2007/7/27.

1. 柏葉匡寛. 最新乳癌情報とチーム医療の関わり. 講演.

第 12 回京都外科侵襲研究会,京都,2007/8/4.

1. 若林剛. 特別講演 1 「腹腔鏡下ドナー肝切除の可能性」. 特別講演.

第 28 回岩手医科大学市民公開講座,岩手医科大学矢巾キャンパス,2007/8/20.

1. 若林剛. 健康講座 五. 肝がんの先進医療ー腹腔鏡下肝切除から肝移植までー. 特別講演.

2th Atlantic Omics Symposium and Expo,カナダ・モンクトン,2007/8/23.

1. S.Nishizuka. Application of lysate microarrays for quantitative proteomics. 招待講演.

日本静脈経腸栄養学会 平成 19 年度・コ・メディカル教育セミナー,仙台,2007/8/25.

1. 池田健一郎. 静脈経腸栄養療法の管理・静脈栄養療法の合併症と対策. 講演.

日本静脈経腸栄養学会 平成 19 年度コ・メディカル教育セミナー,東京,2007/9/8.

1. 池田健一郎. 静脈経腸栄養療法の管理・静脈栄養療法の合併症と対策. 講演.

25th Technical Seminar for Endoscopic Surgery,須賀川(エチコン研究センター),2007/9/15.

1. 大塚幸喜. Ra/Rb 直腸癌に対する腹腔鏡下手術. 講演.

乳癌骨転移治療学術講演会,盛岡,2007/9/21.

1. 柏葉匡寛. 骨転移の症例呈示. 講演.

2. 若林剛. 特別講演「ビスフォスフォネートの現状」. 座長.

第 4 回秋田消化器外科セミナー,秋田,2007/9/22.

1. 若林剛. 講演 I 「腹腔鏡下肝切除術の現状と展望」. 講演.

石巻がん化学療法セミナー,石巻,2007/9/28.

1. 肥田圭介. 「進行再発胃癌に対する化学療法」ー最近のエビデンスと教室での実際ー. 特別講演.

愛知県病院薬剤師会学術講演会,名古屋,2007/9/28.

1. 池田健一郎. 「過大侵襲手術期に栄養管理」ー食道癌手術を中心としてー. 特別講演.

### 第 402 回私立医科大学栄養研究会, 花巻, 2007/10/4.

1. 池田健一郎. NST 活動を通して見えてくるこれからの危機管理とは? . 特別講演.

### 二戸病院乳癌セミナー, 二戸, 2007/10/5.

1. 柏葉匡寛. 一人ひとりの患者さんにあわせた最良の治療のために. 講演.

### 3rd Team Building Seminar: Essential for Endoscopic Surgery, 郡山, 2007/10/6.

1. 佐々木章. 内視鏡手術におけるチーム医療と教育. 講演.

### シミック CRC 総会, 東京, 2007/10/13.

1. 柏葉匡寛. 乳癌の基礎知識と最新医療. 教育講演.

### 学術講演会, 盛岡, 2007/10/24.

1. 若林剛. 一般講演「凡発性腹膜炎術後に合併した MRSA 感染症に対してリネゾリドが奏効した一例」. 座長.

### 3rd Technical Seminar for Endoscopic Surgery [ORS], 須賀川 (エチコン研究センター), 2007/10/27.

1. 大塚幸喜. 腹腔鏡下大腸切除. 講演.

### 2007 Iwate International Symposium of Biological Sciences "The Impact of Omics", 盛岡, 2007/10/29.

1. S.Nishizuka. Application of lysate microarrays for quantitative proteomics. 招待講演.

### 第 39 回兵庫県手術主義研究会, 兵庫, 2007/10/31.

1. 若林剛. 「肝胆膵領域の内視鏡外科手術」. 特別講演.

### 第 3 回米沢栄養管理セミナー, 米沢, 2007/11/8.

1. 池田健一郎. NST 活動と栄養療法の考え方. 特別講演.

### 乳癌フロンティアワークショップ, 京都, 2007/11/11.

1. 柏葉匡寛. 閉経後乳癌の治療戦略. 講演.

### 漢方学術講演会, 盛岡, 2007/11/13.

1. 若林剛. 特別講演「先進外科医療と漢方医学の融合」. 座長.

### 乳癌再発治療研究会, 名古屋, 2007/11/16.

1. 柏葉匡寛. 侵襲学と Biology で考える乳癌再発治療. 講演.

### 日本静脈経腸栄養学会 平成 19 年度コ・メディカル教育セミナー, 福岡, 2007/11/17.

1. 池田健一郎. 静脈経腸栄養療法の管理・静脈栄養療法の合併症と対策. 講演.

### 堺市乳がん市民公開講座, 堺, 2007/11/17.

1. 柏葉匡寛. がんチーム医療の発展. 講演.

### 第 8 回日本静脈経腸栄養学会・日本外科代謝栄養学会 NST 医師教育セミナー, 仙台, 2007/11/24.

1. 池田健一郎. 経腸栄養に伴う合併症. 講演.

### 千厩医師会乳癌勉強会, 千厩, 2007/12/6.

1. 柏葉匡寛. 乳癌治療 up to date. 講演.

### 乳癌学術講演会, 盛岡, 2007/12/7.

1. 若林剛. 症例提示「術前化学療法の手術適応」. 座長.

### 岩手県がんフォーラム, 盛岡, 2007/12/8.

1. 池田健一郎. がんとは? その治療法は? . 講演.

### 自治医科大学ビッグセンターシンポジウム, 自治医科大学, 2007/12/11.

1. 若林剛, 佐々木章. プタを使った医学教育. 講演.

### 久慈乳癌検診勉強会, 久慈, 2007/12/19.

1. 柏葉匡寛. How to manage BC comfortable.... 講演.

## 5. オンラインパブリケーション

Proteomics Podcast Interview 2007 September, 《URL》 [http://www3.interscience.wiley.com/journal/76510741/home/2120\\_pod.html](http://www3.interscience.wiley.com/journal/76510741/home/2120_pod.html), 2007/9/1.

1. S.Nishizuka. Antibody screening database for protein kinetic modeling (蛋白動態解析のための抗体スクリーニングデータベース). ウェブインタビュー.

## 6. その他

### 市民公開講座, 盛岡, 2007/2/3.

1. 若林剛. 基調講演 1,2. 座長.
2. 若林剛. パネルディスカッション. 司会.

### 第1回みちのくウィンターセミナー, 安比, 2007/2/24.

1. 岩谷岳. 最新の食道癌治療. 座長.
2. 肥田圭介. 早期胃癌に対する幽門保存胃切除一適応、手技、その評価. 座長.
3. 新田浩幸. 肝門部胆管がんに対する Anterior Fissure 経肝切除. 座長.

### 第1回岩手肝移植フォーラム, 盛岡, 2007/3/16.

1. 若林剛. 特別講演2「生体肝移植の実際～これまで、いま、これから～」. 座長.

### 第2回肝移植周術期フォーラム, 盛岡市(循環器医療センター), 2007/4/6.

1. 若林剛. 教育講演「生体肝移植の周術期管理」. 座長.

### Translational Reseach Seminar, 盛岡市(循環器センター), 2007/5/11.

1. 若林剛. 「外科領域におけるトランスレーショナル・リサーチ～君らが橋渡しの主役だ～」. 司会.

### Iwate Surgery Forum, 盛岡市(循環器医療センター), 2007/5/25.

1. 若林剛. 「臨床外科医にとって研究とは?」. 司会.

### 乳癌TVシンポジウム, 2007/6/20.

1. 柏葉匡寛. 閉経前乳癌治療の現状と展望. 座長.

### 第3回岩手緩和ケアセミナー, 盛岡, 2007/7/7.

1. 若林剛. 特別講演「がん性疼痛緩和の症例を追う」. 座長.

### 第3回東北乳癌化学療法セミナー, 盛岡, 2007/7/21.

1. 若林剛. 特別講演「乳がん化学療法の最新知見」. 座長.

### 東北乳がん化学療法セミナー, 仙台, 2007/7/28.

1. 柏葉匡寛. パネリスト.

### 第1回岩手外科教育セミナー, 盛岡市(循環器医療センター), 2007/9/7.

1. 若林剛. 「教室における肝移植の歩み」. 司会.

### SIRS ALI SEMINAR in 岩手, 盛岡, 2007/9/8.

1. 若林剛. 特別講演II「肺血症と急性肺障害」. 座長.

### 第2回東北地区メディコンヘルニアセミナー, 盛岡, 2007/9/29.

1. 若林剛. 第一部「再発率低下の為のプラグ固定のポイント」 第二部「第一選択となり得る Direct-kugel 法のポイント」. 座長.

### 医療人GPフォーラムにおける公開討論会, 盛岡, 2007/9/29.

1. 若林剛. 公開討論会. 司会.

### いわて手術手技セミナー, 盛岡, 2007/10/3.

1. 若林剛. 司会.

### 肝移植症例検討会, 盛岡市(循環器医療センター), 2007/10/5.

1. 若林剛. 症例検討「岩手医科大学における移植症例の経過」「次回移植症例における注意点」. 司会.

### 第2回岩手消化器癌セミナー, 盛岡, 2007/10/12.

1. 若林剛. 特別講演II「胃癌・大腸癌化学療法の現状と展望」. 座長.

### 第6回いわて乳腺疾患フォーラム, 盛岡, 2007/10/18.

1. 若林剛. 特別講演III「乳癌治療における潮流」. 座長.

### 第11回いわて肝胆膵フォーラム, 盛岡, 2007/11/10.

1. 高原武志. 肝門部胆管癌に対して尾状葉全切除を施行した1例. 一般口演.
2. 若林剛. 講演II「胆道、膵病理の最近の話題: IgG4 関連疾患と管腔内乳頭状腫瘍」. 座長.

### 第2回北東北LAC情報交換会, 盛岡, 2007/11/10.

1. 若林剛. 司会.

### 岩手県がんフォーラム, 盛岡, 2007/12/8.

1. 若林剛. パネルディスカッション「岩手のがん医療に期待するもの」. 座長.

## 教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

---

発行年月日／平成 20 年 5 月 31 日

発行責任者／若林 剛

発 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒020-8505 盛岡市内丸 19-1

TEL 019-651-5111 (3627)

FAX 019-651-7166

編 集 者／大塚幸喜

印刷・製本／杜陵高速印刷株式会社

---



#### 表紙説明

NHKどんど晴れで一躍注目を浴びたのは「小岩井の一本桜」ですが、これは知る人ぞ知る「うら一本桜」です。秀峰岩手山を背景に、広大な緑の大地に根を張る「小岩井の一本桜」に負けないほどの一本桜です。撮影場所は秘密です。 撮影:若林 剛

**巖刀会** (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)